

平成25年度業務実績報告書

(項目別実績)

(第1期中期計画・第4事業年度)

平成26年6月



地域の明日を医療で支える

地方独立行政法人 長野県立病院機構

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 地域医療、高度・専門医療の提供

(1) 地域医療の提供

| | |
|----------|--|
| 中期 目標 | ア 地域医療の提供（須坂、阿南、木曽病院） 地域の医療需要を見極め、診療体制を整備して医療を提供すること。 |
|----------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|----|---|--|------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 1 | ア 地域医療の提供（須坂、阿南、木曽病院） 須坂、阿南及び木曽病院は、地域の中核病院として診療機能の充実を図り、地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行うとともに、地域の救急病院として夜間診療体制の充実等により救急患者の受け入れ体制を強化する。 また、関係市町村並びに地域の医療機関及び保健・福祉施設と連携して、地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療・看護、訪問リハビリ）、検診業務の充実を図る。 | 地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行う。 | 須坂 | A (業務の実績) ・仕事や学校からの帰宅時間（受付時間：18:00～19:30）に内科の疾患を中心に通常診療を行う「夕暮れ総合診療」を実施し、1,048人を診療した。 ・時間外救急患者10,309人、救急車来院患者1,603人を受け入れた。 ・6月より非結核性抗酸菌症専門外来を開設し、83人の受診者を診療した。 ・以下の専門外来（延べ患者数）を実施した。 ピロリ菌外来（405人）、肝臓外来（374人）、スキンケア外来（171人）、肥満・メタボリックシンドローム専門外来（81人） (課題) 今後も地域の医療需要に柔軟に対応していく必要がある。 |
| 2 | | 地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療・看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導）及び各種検診業務を行う。 | 須坂 | A (業務の実績) 訪問診療：138件（24年度99件） 訪問看護：2,157件（24年度2,095件） 訪問リハビリ：1,297件（24年度929件） ・訪問リハビリは、23年のPT増員以来増加している。 (課題) 地域が必要としている在宅医療の維持継続 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|--|--|------|----|---|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 3 | ア 地域医療の提供（須坂、阿南、木曾病院） | 診療情報管理士による地域の疾病・患者動向等の把握・分析を行い、提供する医療サービスの向上を図る。 | 須坂 | A | <p>（業務の実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度購入したDPC分析ソフト等を使用し、科別・疾病別・診療圏別患者数等の分析を行い、院長による各診療科等の面談によって医療サービスの向上を図った。 産業医科大学に職員を派遣し、その研修報告会を開催した。 <p>12月3日 「DPCデータを活用した自院分析」 松本健（課題）</p> <p>様々なデータを分析するに留まらず、サービス向上に寄与するよう努める。</p> |
| 4 | 須坂、阿南及び木曾病院は、地域の中核病院として診療機能の充実を図り、地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行うとともに、地域の救急病院として夜間診療体制の充実等により救急患者の受け入れ体制を強化する。 | (ア) 須坂病院 患者目標（延人数） 入院 89,493人（結核を含む） 外来 130,223人 | 須坂 | A | <p>（業務の実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者数 入院84,497人 外来125,720人（前年度比 入院104.9% 外来96.2%） |
| 5 | また、関係市町村並びに地域の医療機関及び保健・福祉施設と連携して、地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療・看護、訪問リハビリ）、検診業務の充実を図る。 | <p>【平成25年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 内視鏡検査を積極的に実施し、がんの早期発見に努めるとともに、内視鏡治療症例を増し、内視鏡技術水準の更なる向上と充実を図る。 ピロリ菌外来、肝臓外来等の専門外来及び認定看護師によるスキンケア外来の一層の利用促進を図る。 入院患者に対する土曜日のリハビリテーション及び栄養指導を継続して実施する。 地域の高齢者のニーズに対応し、訪問リハビリテーションを充実する。 PCR検査機器（遺伝子解析装置）を用いた遺伝子検査とその治療を推進する。 脳神経外科及び脳神経内科につい | 須坂 | A | <p>（業務の実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> 内視鏡センターでは様々な疾患の早期診断と内視鏡治療を行った。特に、早期胃癌や早期大腸癌に対しては積極的に内視鏡治療を行った。また、カプセル内視鏡とバルーン内視鏡により、小腸疾患の診断と治療を実施している。（カプセル内視鏡件数 13件 H24年度13件） 内視鏡検査件数：6,141件（24年度 5,408件）（生検にてGroup4 23件 Group5 119件） カプセル内視鏡件数 13件（24年度13件） 外来化学療法室において延べ患者数 723人（24年度 739人）の化学療法を行った。 ピロリ菌外来は延べ 405人の診療を行い、約310件の除菌を実施した。 認定看護師によるスキンケア外来は 171人を診療し、ストーマの良好な維持管理に貢献した。 訪問リハビリ： 1,297件（24年度 929件） リハビリテーションは平日で16,367件18,941単位（24年度 14,257件19,227単位）実施し、土曜日リハビリテーションは、運動器324件（24年度 342件）、脳血管51件（24年度 51件）、呼吸器6件（24年度 4件）で合計 381件 398単位（24年度 368件406単位）実施した。 |

て、引き続き近隣病院から非常勤医師の派遣を受けながら外来診療を継続するとともに、診療体制を充実させるため常勤医師の確保に努める。

- 急性期から維持期・慢性期への移行期を担う専門病棟として、休止中の南7階病棟の一部を再開する。
- 総合診療科1名を含む医師3名の確保を図る。
- 医師増員等により、総合診療部の充実を図る。

| 区分 | 平成23年度実績 | 平成25年度目標値 |
|-----------|----------|-----------|
| 新外来患者数 | 23,171人 | 24,000人 |
| 手術件数(手術室) | 1,976件 | 2,000件 |
| 内視鏡検査件数 | 5,289件 | 5,500件 |
| 分娩件数 | 407件 | 336件 |

・H26年1月より遺伝子検査科を設置（浅野直子遺伝子検査科部長）
遺伝子検査導入準備として下記を実施

IgH クロナリティー検査

- ① 過去検体および自検体を用いて DNA 抽出
- ② PCR 用のプライマー設計および注文
- ③ 上記を使用し PCR

遺伝子検査科実績

血液疾患診断（委託を含む）

- ① 海南病院 45 件
- ② 長野赤十字病院 13 件
- ③ 信州大学病院 16 件
- ④ 長野市民病院 2 件
- ⑤ 昭和伊南病院 1 件
- ⑥ 丸子中央病院 1 件

・脳神経外科については、近隣病院から非常勤医師の派遣を受けながら外来診療を継続し、関係大学への訪問を行ったほか、医師個人と面談するなどの対応を行った。

| 区分 | 24年度実績 | 25年度実績 |
|-----------|---------|---------|
| 新外来患者数 | 22,396人 | 22,843人 |
| 手術件数(手術室) | 1,763件 | 1,850件 |
| 内視鏡検査件数 | 5,410件 | 6,141件 |
| 分娩件数 | 275件 | 288件 |

(課題)

内視鏡センターについては、患者環境、業務環境の改善

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 1 地域医療、高度・専門医療の提供
 (1) 地域医療の提供

| | |
|------|--|
| 中期目標 | ア 地域医療の提供（須坂、阿南、木曽病院） 地域の医療需要を見極め、診療体制を整備して医療を提供すること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|----|---|--|------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 6 | ア 地域医療の提供（須坂、阿南、木曽病院） 須坂、阿南及び木曽病院は、地域の中核病院として診療機能の充実を図り、地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行う。 | 地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行う。 | 阿南 | A (業務の実績) 内科医1名を補充し、当診療圏で多い循環器系疾患を入院外来にわたりカバーすることができた。また、救急対応の充実のため、信州大学医学部附属病院救急科による当直及び翌日の外来診療の派遣業務を、引き続き月4回受けるができた。 携帯型X線撮影装置を導入し、在宅でのX線撮影検査が行える体制を整備した。 |
| 7 | ア 地域医療の提供（須坂、阿南、木曽病院） 須坂、阿南及び木曽病院は、地域の中核病院として診療機能の充実を図り、地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行うとともに、地域の救急病院として夜間診療体制の充実等により救急患者の受け入れ体制を強化する。 また、関係市町村並びに地域の医療機関及び保健・福祉施設と連携して、地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療・看護、訪問リハビリ）、検診業務の充実を図る。 | 地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療・看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導）及び各種検診業務を行う。 | 阿南 | B (業務の実績) 実患者数が死亡や施設入所等で減少したが、新たな患者を確保するなど積極的な運営を行った。 特に訪問リハビリに関しては、市町村の保健師やケアマネージャーとも情報交換を行い24年度実績1042件→25年度1021件と前年度と同水準の件数を確保できた。 25年度 訪問診療 376件 訪問看護 1,257件 訪問リハビリ 1,021件(21件減) 訪問薬剤指導 56件 (課題) 在宅ニーズの低迷から訪問件数は暫減しているが、経営企画会議で毎月の動向を公表し、ポスター掲示などで新規患者を開拓している。 |

| | | | | |
|----|--|---|---------|--|
| 8 | | <p>診療情報管理士による地域の疾病・患者動向等の把握・分析を行い、提供する医療サービスの向上を図る。</p> | 阿南 A | <p>(業務の実績) 本年度も診療情報管理士2名体制で当院向けのクリニカルインディケータを作成し、毎月の経営企画会議で公表し、評価、分析を行い、増収策の立案に活用している。</p> <p>(課題) 危機感の共有と、分析から得た経営的な課題について具体的にどのように克服していくのか。</p> |
| 9 | | <p>(イ) 阿南病院 患者目標 (延人数) 入院 18,400人 外来 58,021人</p> | 阿南 B | <p>(業務の実績) 患者数 (延人数) 入院 18,373人 外来 50,340人</p> <p>(課題) 圏域の人口減少や医師不足など厳しい環境下にあるが、入院患者はほぼ計画を達成できた。さらに地域との連携強化、公衆衛生活動の活性化により活路を見出したい。</p> |
| 10 | | <p>【平成25年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本館棟改築工事などを完成させ、新しい経営環境の元で病院の再活性化を図り、「和(なご)みの医療センター」として地域に寄り添う医療を引き続き提供していく。 電子カルテを平成25年10月に本稼働させ、業務効率化と安全で安心な医療の提供などを推進するとともに、院外処方箋発行体制への移行を行い、病棟服薬指導の充実を図る。 整形外科医の欠員については、非常勤医師で対応するとともに、内科医の確保に引き続き努め、診療体制を充実させる。 信州大学医学部からの救急専門医の定期派遣を引き続き受けながら、救急患者の受入体制の充実を図る。 入院患者に対するリハビリを、言語聴覚士も加えさらに積極的に実施するとともに、作業療法士を採用することで、脳血管疾患リハビリ、嚥下機能訓練及び作業療法訓練などの充実を図る。 健康管理センターの平成26年度の本格稼働に向けて、町村からの乳児健診の受託、視能訓練士(〇 | 阿南 A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本館棟改築工事が完成し、「和(なご)みの医療センター」として地域に寄り添う医療を引き続き提供していく環境が整った。 電子カルテが平成25年9月30日に本稼働し、半年間ほぼ安定した運用管理がなされた。また院外処方箋発行体制へのスムーズな移行が行なわれ、80%以上の院外処方率を達成できた。 整形外科医の欠員については、非常勤医師での対応に加え、また内科常勤医1名増員により、サービス水準を落とすことなく診療体制が維持できた。 信州大学医学部附属病院からの救急医については通年で確保ができた。 平成24年度採用の言語聴覚士と病棟看護師により、積極的に脳血管疾患リハビリ及び嚥下機能訓練を展開したことで、摂食機能の向上とともに収益増にも大きな貢献をした。作業療法士は平成26年4月採用することができた。 健康管理センターの平成26年度の本格稼働に向けて、天龍村からの乳児健診を受託した。 視能訓練士(ORT)の派遣は、平成26年度からの開始が決定した。 精神科病床を廃止し、85床体制となり、特定疾患指導管理料が増収となった。 |

| | | | | | | | | | | | | |
|----------|-----------|---|----------|--|---------|---------|----|---|----------|----------|--------|--------|
| | | <p>RT) の派遣を開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度からは、設備投資の減価償却負担等が生じ、損益の圧迫要因となることから、経営力の増強を図っていく。 精神科病床を廃止する。 | | <p>(課題)</p> <p>医師確保に努め、また健康管理センター稼働に向けて検診体制の充実を図る。</p> | | | | | | | | |
| 11 | | <p>在宅医療件数（訪問診療・看護・リハビリ）</p> <table border="1" data-bbox="533 486 1030 563"> <tr> <td>平成23年度実績</td> <td>平成25年度目標値</td> </tr> <tr> <td>4,495 件</td> <td>5,100 件</td> </tr> </table> | 平成23年度実績 | 平成25年度目標値 | 4,495 件 | 5,100 件 | 阿南 | <p>(業務の実績)</p> <p>在宅医療件数（訪問診療・看護・リハビリ）</p> <table border="1" data-bbox="1288 466 1787 536"> <tr> <td>平成24年度実績</td> <td>平成25年度実績</td> </tr> <tr> <td>4,124件</td> <td>3,871件</td> </tr> </table> <p>※死亡、施設入所により実患者数が減少した。 ※医師居宅療養指導管理（介護保険）を別途カウント</p> | 平成24年度実績 | 平成25年度実績 | 4,124件 | 3,871件 |
| 平成23年度実績 | 平成25年度目標値 | | | | | | | | | | | |
| 4,495 件 | 5,100 件 | | | | | | | | | | | |
| 平成24年度実績 | 平成25年度実績 | | | | | | | | | | | |
| 4,124件 | 3,871件 | | | | | | | | | | | |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 地域医療、高度・専門医療の提供

(1) 地域医療の提供

| | |
|----------|--|
| 中期 目標 | ア 地域医療の提供（須坂、阿南、木曾病院） 地域の医療需要を見極め、診療体制を整備して医療を提供すること。 |
|----------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|----|---|--|------|---|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 12 | ア 地域医療の提供（須坂、阿南、木曾病院） 須坂、阿南及び木曾病院は、地域の中核病院として診療機能の充実を図り、地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行うとともに、地域の救急病院として夜間診療体制の充実等により救急患者の受け入れ体制を強化する。 | 地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行う。 | 木曾 | A (業務の実績) 救急告示医療機関、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行っており、木曾地域唯一の病院として急性期から慢性期までの幅広い診療活動を行っている。 救急患者 5,969人(前年度比 94.1% 373件減)を受け入れ、手術を 885件(前年同期比 91.5% 82件減)実施した。 (課題) 専門医及び看護師を継続して確保していくこと。 |
| 13 | また、関係市町村並びに地域の医療機関及び保健・福祉施設と連携して、地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療・看護、訪問リハビリ）、検診業務の充実を図る。 | 地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療・看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導）及び各種検診業務を行う。 | 木曾 | B (業務の実績) 訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ共に前年度を下回り、全体で364件の減となった。 ・訪問診療 659件(110件減) ・訪問看護 3,217件(101件減) ・訪問リハビリ 1,607件(153件減) 計 5,483件(364件減) (課題) 在宅医療の要請が増加した際の体制づくり。 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---|---|----------|-----------|--|--------|--|--|--|----------|----------|--------|-------|
| 14 | | 診療情報管理士による地域の疾病・患者動向等の把握・分析を行い、提供する医療サービスの向上を図る。 | 木曾 | B | (業務の実績) 診療情報管理士が、入院患者に関する疾病分類統計、患者動向等の統計データを運営委員会へ提供しているほか、病院が提供する医療の質と効率向上のためにその活用について、検討している。 (課題) 提供されたデータの病院経営への活用 | | | | | | | | |
| 15 | | (ウ) 木曾病院 患者目標 (延人数) 入院 60,970人 外来 139,550人 | 木曾 | B | 入院 58,605人 (前年同期比 99.5%) 外来 138,594人 (前年同期比 99.8%) | | | | | | | | |
| 16 | ア 地域医療の提供 (須坂、阿南、木曾病院) 須坂、阿南及び木曾病院は、地域の中核病院として診療機能の充実を図り、地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行うとともに、地域の救急病院として夜間診療体制の充実等により救急患者の受け入れ体制を強化する。 また、関係市町村並びに地域の医療機関及び保健・福祉施設と連携して、地域において県立病院が担うべき在宅医療 (訪問診療・看護、訪問リハビリ)、検診業務の充実を図る。 | 【平成25年度に推進する事項】 ・ 現在常勤医1名体制である小児科医及び循環器内科医の負担軽減などを行うため、常勤の小児科医及び循環器内科医各1名を増員する。 ・ 糖尿病治療の充実を図るため、内科に非常勤の糖尿病専門医1名を配置する。 ・ リハビリテーション機能の充実を図るため、理学療法士3名、作業療法士1名を増員する。 ・ 医師の負担軽減や薬物療法の安全性、有効性の向上を図るため薬剤師1名を増員する。 ・ 地域の高齢化や在宅でのターミナルケア等の患者ニーズに対応するため、在宅医療を積極的に展開する。 ・ 入院患者に対する休日を含めた集中的な急性期リハビリを実施する。 | 木曾 | A | (業務の実績) ・ 循環器内科1名及び小児科医師1名を増員することにより、常勤医師の負担を軽減することができた。 ・ 糖尿病専門医は、配置できなかった。 ・ 作業療法士は2名、理学療法士は3名増員し、リハビリテーション機能の充実を図ることができた。 ・ 薬剤師を1名増員し、医師の負担軽減、薬物療法の安全性、有効性を高めることができた。 ・ 在宅医療については、訪問診療は件数が前年に比べて減少 (110件減)、訪問看護 (101件減)、訪問リハビリ (153件減) も前年に比べて減となった。 ・ 土曜日のリハビリテーションは、年度当初はPT1名であったが7月より増員しPT2名・OT1名となったこともあり、51日実施 (前年度51日) の一日平均延べ人数は40.3人 (前年度19.9人) と大幅に伸びた。また、52.6単位 (前年度21.1単位) 実施した。 ・ 急性期リハビリについては、前年度に比べ件数を増やすことができた。 24年度: 27,726単位 → 25年度: 38,961単位 (課題) 土曜日のリハについては、言聴覚療法及び摂食機能療法の実施について、急性期のリハについては、更に医療資源を投入することについて、それぞれ検討を行う。 | | | | | | | | |
| 17 | | 在宅医療件数 (訪問診療・看護・リハビリ) | 木曾 | B | 在宅医療件数 (訪問診療・看護・リハビリ) | | | | | | | | |
| | | <table border="1"> <tr> <td>平成23年度実績</td> <td>平成25年度目標値</td> </tr> <tr> <td>5,820件</td> <td>6,000件</td> </tr> </table> | 平成23年度実績 | 平成25年度目標値 | 5,820件 | 6,000件 | | | <table border="1"> <tr> <td>平成24年度実績</td> <td>平成25年度実績</td> </tr> <tr> <td>5,847件</td> <td>5,483</td> </tr> </table> | 平成24年度実績 | 平成25年度実績 | 5,847件 | 5,483 |
| 平成23年度実績 | 平成25年度目標値 | | | | | | | | | | | | |
| 5,820件 | 6,000件 | | | | | | | | | | | | |
| 平成24年度実績 | 平成25年度実績 | | | | | | | | | | | | |
| 5,847件 | 5,483 | | | | | | | | | | | | |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 地域医療、高度・専門医療の提供

(1) 地域医療の提供

| | |
|------|--|
| 中期目標 | イ へき地医療の提供（阿南、木曾病院） へき地医療拠点病院として、へき地における住民の医療を確保するため、無医地区への巡回診療を行うこと。また、医師不足に悩むへき地診療所を支援すること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|--|---|------|----|--|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 18 | | 町村並びに地域の医療、保健及び福祉関係者との連携をより強化するとともに、巡回診療により無医地区の医療確保に努める。 | 阿南 | A | (業務の実績) 医師・看護師・薬剤師のチームによるへき地巡回診療を、今年度も継続して阿南町和合2地区へ隔週で実施し、地域医療の提供に努めた。 また26年1月からは、モバイル端末を活用した電子カルテによりへき地巡回診療を行っている集会所からの遠隔診療を開始した。 |
| 19 | イ へき地医療の提供（阿南、木曾病院） 町村並びに地域の医療、保健及び福祉施設との連携のもと、無医地区への巡回診療を行う。 また、医師不足に悩むへき地診療所等からの要請に基づき医師を派遣するなどの支援を積極的に行う。 | へき地診療所等からの要請に基づいた医師の派遣などの支援を積極的に行う。 | 阿南 | A | (業務の実績) ・新たに「病診看護連絡表」の運用を開始し、地域連携クリニカルパスの整備に向けた検討も行った。 ・診療所の医師の不在は一応解消されており、医師派遣の要請はなかった。 (課題) 郡内町村保健師との更なる連携強化が必要である。 |
| 20 | | (ア) 阿南病院 定期的に医師・看護師・薬剤師等のチームが無医地区を巡回し、必要な治療、薬剤処方及び予防接種を行う。 | 阿南 | A | (業務の実績) 医師・看護師・薬剤師のチームによるへき地巡回診療を、今年度も継続して阿南町和合2地区へ隔週で実施し、地域医療の提供に努めた。 また26年1月からは、モバイル端末を活用した電子カルテによりへき地巡回診療を行っている集会所からの遠隔診療を開始した。 |
| 21 | | (ア) 阿南病院 福祉施設等からの要請に基づき医師及び理学療法士を派遣する。 | 阿南 | A | (業務の実績) 引き続き、診療圏内の福祉施設へ医師、理学療法士を派遣している。 |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 地域医療、高度・専門医療の提供

(1) 地域医療の提供

| | |
|------|--|
| 中期目標 | イ へき地医療の提供（阿南、木曾病院） へき地医療拠点病院として、へき地における住民の医療を確保するため、無医地区への巡回診療を行うこと。また、医師不足に悩むへき地診療所を支援すること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|--|---|------|----|--|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 22 | イ へき地医療の提供（阿南、木曾病院） 町村並びに地域の医療、保健及び福祉施設との連携のもと、無医地区への巡回診療を行う。 | 町村並びに地域の医療、保健及び福祉関係者との連携をより強化するとともに、巡回診療により無医地区の医療確保に努める。 | 木曾 | A | (業務の実績) 病院・保健福祉関係連絡会議（2箇月に1回）、病院・町村地域包括支援センター担当者会議（年に1～2回）等の開催、また、木曾地区医療協議会が実施する「在宅チーム医療を担う人材育成事業」（4回開催）を通じ、地域の関係機関との連携を図った。また、毎月第2及び第4木曜日に木曾郡上松町において巡回診療を実施した。 |
| 23 | また、医師不足に悩むへき地診療所等からの要請に基づき医師を派遣するなどの支援を積極的に行う。 | へき地診療所等からの要請に基づいた医師の派遣などの支援を積極的に行う。 | 木曾 | — | (業務の実績) 24年度からへき地診療所の医師が常勤化されたため、医師の派遣は行わなかった。 |
| 24 | | (イ) 木曾病院 定期的に医師・看護師・薬剤師等のチームが無医地区を巡回し、必要な治療及び薬剤処方を行う。 | 木曾 | A | (業務の実績) 毎月第2及び第4木曜日に木曾郡上松町において巡回診療を実施している（再掲）。25年度は薬剤師の増員により、薬剤師が毎回同行した。 |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 1 地域医療、高度・専門医療の提供
 (1) 地域医療の提供

中期目標 ウ 介護老人保健施設の運営
 地域医療を補完するため、阿南、木曾介護老人保健施設の運営を行うこと。

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|---|--|------|----|---|
| | | | 病院 | 評価 | |
| 25 | | ウ 介護老人保健施設の運営 病院との機能分担と連携を図りながら充実したサービス等を提供する。 | 阿南 | A | (業務の実績) 通所リハビリについては定期利用者の減もあったが、他の医療機関との連携が図られたことにより新規利用開始の申込みもあった。 (課題) 今後も広報の継続等を行い、新規利用者の増を図っていく。 |
| 26 | ウ 介護老人保健施設の運営 阿南、木曾病院の付帯施設として、病院との機能分担と連携を図りながら充実したサービス等を提供する。 | (ア) 阿南介護老人保健施設 ケアマネージャーの資格取得や喀痰吸引等実施のための研修・認知症・皮膚ケア等の研修に参加することで職員のスキルアップに努めるほか、利用者に対するサービスの向上や事故防止等を図る。 | 阿南 | A | (業務の実績) 口腔機能維持管理体制加算を導入し、施設内における口腔ケアマネジメントの目標や具体的な方策を確立できた。毎月歯科医師による助言指導を受けるとともに、口腔ケアに関する学習会を実施し職員のスキルアップにつながった。また、治療につながるケースもあり医療と福祉の連携を図ることができた。 喀痰吸引等研修に関しては、実地研修を終了することができた。 (課題) 介護記録等の研修に関しては、既に施設外研修を受けている職員による施設内研修の機会を多く設けるとともに、より効果的な研修を計画する。 |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 1 地域医療、高度・専門医療の提供
 (1) 地域医療の提供

| | |
|----------|---|
| 中期 目標 | ウ 介護老人保健施設の運営 地域医療を補完するため、阿南、木曾介護老人保健施設の運営を行うこと。 |
|----------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|---|--|----------|----|---|
| | | | 病院 評価 | 説明 | |
| 27 | ウ 介護老人保健施設の運営 阿南、木曾病院の付帯施設として、病院との機能分担と連携を図りながら充実したサービス等を提供する。 | ウ 介護老人保健施設の運営 病院との機能分担と連携を図りながら充実したサービス等を提供する。 | 木曾 | A | (業務の実績) 入所利用者が治療が必要な場合には、当院で入院治療を受けさせ、治療後はベッドの調整等を行った上で優先的に受入れを行った。 在宅復帰不可能な入院患者について、月1回の入所判定委員会に諮り、老健施設としては、医療行為の必要性が比較的高い患者の受け入れも行っている。また、在宅復帰に向け、リハビリを行いADL（日常生活動作）の維持に努めた。 郡内に民間施設が開設されたことによる入所者の減が危惧されたが、影響は無かった。重度の患者が民間施設に移行し、当施設の介護の経度化が進んだ。 |
| 28 | | (イ) 木曾介護老人保健施設 リハビリ体制を維持し、短期集中リハビリ・個別リハビリを引き続き積極的に実施する。 | 木曾 | A | (業務の実績) 理学療法士が7月から2名体制となったため、短期集中リハビリについては、2,144件（前年度比 1,735件増）と前年度を上回った。 (課題) 短期集中リハビリ実施者を積極的に受け入れる。 |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 地域医療、高度・専門医療の提供

(2) 高度・専門医療の提供

| | |
|----------|---|
| 中期 目標 | ア 感染症医療の提供（須坂病院） 県内唯一の第一種感染症指定医療機関、結核指定医療機関、エイズ治療中核拠点病院として、県の感染症対策の一翼を担い、その役割を果たすこと。 |
|----------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|----|---|---|------|---|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 29 | ア 感染症医療の提供（須坂病院） 県内唯一の第一種感染症指定医療機関及び結核指定医療機関として、必要時に直ちに感染症病棟を稼働し適切な対応ができる体制の強化や、結核患者を受け入れ治療ができる体制を維持するとともに、県内唯一のエイズ治療中核拠点病院として、県内エイズ対策の中心的役割を果たす。 また、県と協力して感染症の発生予防・まん延防止などの感染症対策を推進する。 | ア 感染症医療の提供（須坂病院） 県の感染症対策拠点病院として、感染症医療の提供体制の充実を図る。 ・ 第一種・第二種感染症指定医療機関として、適切な対応が出来るよう、定期的に「患者受け入れ訓練」を実施する等、受け入れ体制を維持する。 | 須坂 | A (業務の実績) 患者受け入れ訓練、PPE着脱訓練を実施し、常に患者対応ができるよう準備している。設備の保安管理も実施している。 |
| 30 | | ・ 結核患者を受け入れ、治療ができる県の政策医療としての体制を維持する。 | 須坂 | A (業務の実績) 呼吸器内科・感染症内科では、外来患者延べ3,478への診療を行った。 |
| 31 | | ・ 県内唯一のエイズ治療中核拠点病院として県内の病院を統括し、連絡会議及び研修会の開催、情報交換、教育活動を行うとともに、エイズに関する正しい知識の普及啓発活動を行うなど、エイズ対策の中心的役割を果たす。 | 須坂 | A (業務の実績) ・ 長野県エイズ治療拠点病院等連絡会を実施し、2症例の症例検討を行った。(6月14日、10月17日、2月21日) ・ 12月16日長野市保健所主催の「HIV感染者・エイズ患者の支援を考える会」にMSW1名が参加し、HIV感染者・エイズ患者を支援する「支援チーム」結成等の取り組みについて発言した。 ・ 院長が地域住民と医師を対象に講演を行った。 7月11日「エイズについて」齊藤博院長 須坂病院出前講座 (参加者 中学3年生188名) 2月1日「長野県におけるHIV感染症・エイズに対する取り組み」齊藤博院長 第802回松本市医師会生涯教育講座 ・ 院内症例検討会を実施した。(毎月第4火曜日) 医師、看護師、薬剤師、MSW、リハビリ担当者、栄養士等により、診 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|---|---|---|------|------|---------------------|-------------------|------|------|-------------------|-----------------------|------|-------|------------------|---------------|------|------|--------------------------|-------------------------|------|-----|---------|-----------------------|------|------|---------------|---|------|------|--------------|------------------|------|------|----------------|---------------|------|------|-------------------|----------------|------|------|----|-------------|------|------|----------------------|---------------|------|------|----------------|--------------------------|-------|------|----------|
| 32 | | | | 療や看護で課題のある患者や新規受診者など5症例の検討を行った。 ・34名(前年度 29名)の患者への治療を行った。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院長が長野県医師会感染症対策委員会委員長を務めている。 ・長野県「世界エイズデー」普及啓発週間に参加し、レッドリボンツリー、啓発品の展示や配布を行った。 ・10月26日 長野県とエイズ治療拠点病院連絡会共催で感染症対策研修会(H I V/エイズ)実施した。(参加者 福祉分野35名、医療分野60名) ・情報発信については以下の取組を行った。 | 須坂 | <table border="1"> <tr> <td>5/18</td> <td>山崎善隆</td> <td>増加する高齢者結核の特徴と院内感染対策</td> <td>北信 ICT 連絡協議会(須坂市)</td> </tr> <tr> <td>5/28</td> <td>山崎善隆</td> <td>関節リウマチ治療における感染症対策</td> <td>第175回上水内医師会臨床懇話会(長野市)</td> </tr> <tr> <td>6/13</td> <td>石井栄三郎</td> <td>乳幼児の感染症と予防接種について</td> <td>中央児童センター(馬場町)</td> </tr> <tr> <td>6/21</td> <td>山崎善隆</td> <td>増加する高齢者結核の特徴およびCOPDの最新治療</td> <td>第35回須高医師会病診連携症例検討会(須坂市)</td> </tr> <tr> <td>7/11</td> <td>齊藤博</td> <td>エイズについて</td> <td>須坂病院、須高医師会出前講座(墨坂中学校)</td> </tr> <tr> <td>7/18</td> <td>山崎善隆</td> <td>重症喘息治療に関する講演会</td> <td>Expert Meeting for Severe Allergic Asthma in Nagano</td> </tr> <tr> <td>8/29</td> <td>山崎善隆</td> <td>結核の基礎知識と感染対策</td> <td>長野県立木曽病院 院内感染研修会</td> </tr> <tr> <td>9/17</td> <td>山崎善隆</td> <td>非結核性抗酸菌症の最近の話題</td> <td>第69回秋田県感染症研究会</td> </tr> <tr> <td>9/19</td> <td>山崎善隆</td> <td>結核の病態と高齢者施設における対応</td> <td>長野保健所管内保健師等研修会</td> </tr> <tr> <td>9/28</td> <td>山崎善隆</td> <td>結核</td> <td>NBS「健康ばんざい」</td> </tr> <tr> <td>9/28</td> <td>山崎善隆</td> <td>肺結核および非結核性抗酸菌症の最近の話題</td> <td>第6回新潟臨床微生物研究会</td> </tr> <tr> <td>10/5</td> <td>山崎善隆</td> <td>非結核性抗酸菌症の最近の話題</td> <td>第7回呼吸器感染症の診断と治療を考える(仙台市)</td> </tr> <tr> <td>10/20</td> <td>山崎善隆</td> <td>感染症の画像診断</td> <td>第21回長野県病院薬剤師会薬</td> </tr> </table> | 5/18 | 山崎善隆 | 増加する高齢者結核の特徴と院内感染対策 | 北信 ICT 連絡協議会(須坂市) | 5/28 | 山崎善隆 | 関節リウマチ治療における感染症対策 | 第175回上水内医師会臨床懇話会(長野市) | 6/13 | 石井栄三郎 | 乳幼児の感染症と予防接種について | 中央児童センター(馬場町) | 6/21 | 山崎善隆 | 増加する高齢者結核の特徴およびCOPDの最新治療 | 第35回須高医師会病診連携症例検討会(須坂市) | 7/11 | 齊藤博 | エイズについて | 須坂病院、須高医師会出前講座(墨坂中学校) | 7/18 | 山崎善隆 | 重症喘息治療に関する講演会 | Expert Meeting for Severe Allergic Asthma in Nagano | 8/29 | 山崎善隆 | 結核の基礎知識と感染対策 | 長野県立木曽病院 院内感染研修会 | 9/17 | 山崎善隆 | 非結核性抗酸菌症の最近の話題 | 第69回秋田県感染症研究会 | 9/19 | 山崎善隆 | 結核の病態と高齢者施設における対応 | 長野保健所管内保健師等研修会 | 9/28 | 山崎善隆 | 結核 | NBS「健康ばんざい」 | 9/28 | 山崎善隆 | 肺結核および非結核性抗酸菌症の最近の話題 | 第6回新潟臨床微生物研究会 | 10/5 | 山崎善隆 | 非結核性抗酸菌症の最近の話題 | 第7回呼吸器感染症の診断と治療を考える(仙台市) | 10/20 | 山崎善隆 | 感染症の画像診断 |
| 5/18 | 山崎善隆 | 増加する高齢者結核の特徴と院内感染対策 | 北信 ICT 連絡協議会(須坂市) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5/28 | 山崎善隆 | 関節リウマチ治療における感染症対策 | 第175回上水内医師会臨床懇話会(長野市) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6/13 | 石井栄三郎 | 乳幼児の感染症と予防接種について | 中央児童センター(馬場町) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6/21 | 山崎善隆 | 増加する高齢者結核の特徴およびCOPDの最新治療 | 第35回須高医師会病診連携症例検討会(須坂市) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7/11 | 齊藤博 | エイズについて | 須坂病院、須高医師会出前講座(墨坂中学校) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7/18 | 山崎善隆 | 重症喘息治療に関する講演会 | Expert Meeting for Severe Allergic Asthma in Nagano | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8/29 | 山崎善隆 | 結核の基礎知識と感染対策 | 長野県立木曽病院 院内感染研修会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9/17 | 山崎善隆 | 非結核性抗酸菌症の最近の話題 | 第69回秋田県感染症研究会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9/19 | 山崎善隆 | 結核の病態と高齢者施設における対応 | 長野保健所管内保健師等研修会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9/28 | 山崎善隆 | 結核 | NBS「健康ばんざい」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9/28 | 山崎善隆 | 肺結核および非結核性抗酸菌症の最近の話題 | 第6回新潟臨床微生物研究会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10/5 | 山崎善隆 | 非結核性抗酸菌症の最近の話題 | 第7回呼吸器感染症の診断と治療を考える(仙台市) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10/20 | 山崎善隆 | 感染症の画像診断 | 第21回長野県病院薬剤師会薬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-------|---------------------------|--|--|--------|---------------------------------|
| | | | | | と感染症治療 | 剤師専門講座 |
| 10/27 | 山崎善隆 | 慢性がいそうの診断と治療 | | | | 第64回長野県医学会 ランチ ョンセミナー |
| 10/29 | 中島恵利子 | 感染対策について | | | | 須坂市社会福祉協議会 2階 大会議室 |
| 11/1 | 石井栄三郎 | 学童の感染予防 | | | | 仁礼小学校視聴覚室 |
| 11/6 | 山崎善隆 | 高齢者肺炎の特徴と診療 | | | | 日医生涯教育講座学術講演会 肺炎予防セミナー in 長野 |
| 11/14 | 石井栄三郎 | (子育てセミナー) 小児の感染症と予防接種 | | | | 福祉会館 2階 |
| 11/16 | 山崎善隆 | 知っておきたい非結核性抗酸菌症の最近の知見 | | | | 第4回新潟・群馬感染症治療 カンファレンス |
| 11/19 | 山崎善隆 | 成人の気道感染症 | | | | 第2回上田感染症ワークショップ |
| 11/20 | 中島恵利子 | 感染対策について | | | | 須坂市社会福祉協議会ディ サービスCぬくもり園 |
| 12/4 | 山崎善隆 | 日常よく遭遇する呼吸器疾患の病態と治療 | | | | 須高薬剤師会生涯教育学術研 修会 |
| 1/20 | 山崎善隆 | COPD の新しい治療戦略と呼吸器感染症対策 | | | | 日医生涯教育講座学術講演会 (長野市) |
| 1/24 | 山崎善隆 | 肺結核の基礎知識と院内・施設内感染対策 | | | | 上田保健所感染対策研修会 |
| 3/12 | 山崎善隆 | 胸部・腹部画像読影法と感染症の考え方 | | | | 上田薬剤師会病診部研修会 |
| 3/27 | 齊藤博 | 長野県におけるHIV感染症・エイズに対する取り組み | | | | 第802回松本市医師会生涯教 育講座 (松本市) |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 1 地域医療、高度・専門医療の提供
 (2) 高度・専門医療の提供

| | |
|------|--|
| 中期目標 | イ 精神医療の提供（こころの医療センター駒ヶ根） 県の政策的な精神医療を担う病院として、精神科の救急・急性期医療を充実し、児童思春期精神疾患の専門医療及びアルコール・薬物依存症の入院専門医療を提供すること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|--|--|------|----|--|
| | | | 病院 | 評価 | |
| 33 | イ 精神医療の提供（こころの医療センター駒ヶ根） 県の政策的な精神医療を担う病院として、次に掲げる精神医療を提供するとともに、南信地域の精神科中核病院として地域における精神医療を担う。 また、地域との連携や訪問看護機能の強化を図り、患者の地域生活への移行と継続的なケアを推進する。 なお、精神科救急情報センター事業を引き続き県から受託し運営する。 | イ 精神医療の提供（こころの医療センター駒ヶ根） 患者目標（延人数） 入院 38,434人 外来 38,887人 | 駒ヶ根 | B | (業務の実績) 平成25年度 延べ患者数 入院：33,151人 外来：38,343人 同上 目標患者数 入院：38,434人 外来：38,887人 対目標比率 (86.3%) (98.6%) (課題) 病床利用率の向上（病棟の効率的活用及び4床室、特別室利用を含めた検討） |
| 34 | また、地域との連携や訪問看護機能の強化を図り、患者の地域生活への移行と継続的なケアを推進する。 なお、精神科救急情報センター事業を引き続き県から受託し運営する。 ・ 24時間体制の救急・急性期医療を行うことにより、精神科の救急・急性期医療を充実する。 ・ 専門病棟を開設し、児童思春期の精神疾患患者に対する福祉、教育機関と連携 | 県内の精神科医療の中核を担うべく次のとおり医療機能の充実などを図る。 ・ 24時間365日体制で、県内の精神科救急の拠点として救急患者の受入れを行うとともに、「精神科救急情報センター」として緊急の精神科医療に関する電話相談に対応する。 | 駒ヶ根 | A | (業務の実績) ・ 平均在院日数は微増としたが（平成25年度68.4日、前年比3.9日増加）、引き続き低い水準を維持しており精神科の救急・急性期病院としての役割を果たしている。 ・ 24時間365日、重症精神科急性期患者の受入れに対応する常時対応型施設として稼働（国の精神科救急医療体制整備事業） 救急病棟（B1病棟）において精神科救急入院料を算定。（非自発的入院率、3箇月以内在宅移行率は共に必要とされる6割以上を維持。） 常時、空床2床を確保し、精神保健指定医等による診療応需態勢を整備している。 ・ 情報センターへの相談件数は、平成25年度352件であった。うち、平日夜間の相談が38%、休日の相談が51%を占め、医療機関の診察時間外の緊急相談に対応した。 |

| | | | | |
|----|---|---|-------|---|
| | した専門診療機能を充実する。 ・ アルコール・薬物依存症の入院専門医療を行う体制を整備するほか、自助グループとの連携及び早期発見・早期治療に向けた医療、福祉機関等への研修の充実を図る。 | | | (課 題) 再入院を防止するため患者の入院期間の更なる適正化を図るとともに、家族や支援機関との連携強化を行う。 |
| 35 | | ・ こども病院をはじめ他の医療機関や福祉、教育機関と連携を図りながら、児童精神科外来と児童精神科病棟を十分に機能させ、児童の精神疾患に係る専門医療を提供するとともに、退院促進と早期家庭復帰を図る。 | 駒ヶ根 A | (業務の実績) ・ 院内学級や、当センターの医師、看護師等が参加するケースカンファレンスの実施など、チーム医療により発達期におけるケアに取り組んだ。 ・ 家族面談の充実及び関連機関との支援会議をきめ細かく開催し、スムーズに家庭や学校に復帰できるよう調整を行った。 ・ 2月に思春期保健学習会を開催し、学校関係者等との研修や連絡調整などを行った。 ・ 3月に県こども家庭課との懇談を行い、児童相談所などの関係機関との連携強化について協議を行った。 (課 題) ・ 入院患児の増加に対応するため、医療・看護体制の充実を図る。 ・ 児童相談所等の関係機関との連携強化 |
| 36 | | ・ A 2 病棟では、看護師の増員などにより従来の依存症に加えうつやストレス関連疾患等、多様化する急性期入院患者の受入れに取り組む。 | 駒ヶ根 A | (業務の実績) 依存症患者に加え急性期入院患者の受入れに積極的に取り組んだ結果 A 2 病棟におけるうつストレス関連疾患患者の入院率は22.4%となった。 (課 題) ・ 依存症以外の患者に対する治療プログラムの充実及び看護師の確保 |
| 37 | | ・ 増加する外来診療や老年期の精神疾患への対応等を強化し、良質な医療を提供するため、医師及び若手看護師の積極的な採用を行う。 ・ 臨床心理士の増員を行い、心理面接等による一層効果的な治療につなげるほか、増加する「思春期」「うつ」患者や認知症の患者を受け入れるための体制強化を図る。 | 駒ヶ根 A | (業務の実績) ・ 5月に新たに非常勤医師2名を採用し、外来診療機能の強化を図った。 ・ 老年期の精神疾患への対応を強化を目的に、認知症認定看護師の計画的な配置を図るため、平成26年度に養成課程へ看護師1名を派遣することとした。 ・ 4月に臨床心理士を1名増員し心理療法の充実を図ったほか増加するうつ患者に対応するため、看護師に専門研修を受講させ受入体制を強化した。 (課 題) ・ 行政や地域の関係機関等と連携した認知症患者への対応力の強化 ・ 思春期、うつ病患者の受入れ体制の更なる充実 |
| 38 | | ・ 多機能デイケア、訪問看護の充実や関係者との支援会議の開催などの多職種によるチーム医療の構築・展開を進め、 | 駒ヶ根 A | (業務の実績) ・ デイケア参加者の1日平均参加者数：35.4人（前年度比3.0人の増） ・ 外来患者に関わる支援会議を多職種が協働して年間267回（月平均22回） |

| | | | | |
|----|--|--|-------|--|
| | | 外来診療の充実を図る。 | | 行い、外来診療の充実を図った。 (課題) ・多様な患者に対応するためのきめ細やかなデイケアプログラムの作成。 |
| 39 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携室に精神保健福祉士を配置して、医療機関や福祉施設等との協力関係を強化し、早期治療・早期社会復帰を図る。 ・ 入院患者の退院支援や在宅患者等の社会復帰を促進するため、多機能デイケアの導入による精神科デイケア機能の充実を図る。 ・ 多職種チームによる訪問ケアの実施によりアウトリーチ活動の充実を図る。 | 駒ヶ根 A | (業務の実績) <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日平均訪問看護件数：7.3件（前年度比0.4件の減） ・ 作業療法士、精神保健福祉士等、多職種チームによる訪問：178件 ・ 上伊那地域の病院関係者が参加した「第2回医療連携実務者会議」（平成25年11月12日開催）に精神保健福祉士も参加し、患者受入などの医療連携について検討した。 (課題) <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ニーズを正確に把握し、そのニーズを踏まえた訪問看護のあり方を検討する。 ・ 訪問看護終了者が増加しているため、新規利用の患者の開拓 |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 1 地域医療、高度・専門医療の提供
 (2) 高度・専門医療の提供

| | |
|------|--|
| 中期目標 | ウ 高度小児医療、周産期医療の提供（こども病院） 県における高度小児医療を担う病院として、二次医療圏では対応できない高度な小児医療及び救急救命医療を提供すること。 「総合周産期母子医療センター」は、信州大学医学部附属病院やその他産科医療機関と連携を図りながらその役割を果たすこと。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|---|--|------|----|--|
| | | | 病院 | 評価 | |
| 40 | ウ 高度小児医療、周産期医療の提供（こども病院） 県における高度小児医療、総合周産期医療の拠点施設として、他の医療機関との役割分担を明確にしたうえで十分な受け入れ態勢を確保し、次に掲げる高度な小児医療、救急救命医療及び周産期医療を提供する。 | ウ 高度小児医療、周産期医療の提供（こども病院） 患者目標（延人数） 入院 53,930人 外来 55,105人 | こども | A | (業務の実績) 患者数 入院 54,627人（前年度比105.7%） 外来 55,399人（前年度比104.3%） |
| 41 | また、こころの医療センター駒ヶ根と連携して、児童思春期の精神疾患患者に対する専門診療機能の充実を図る。 ・ 高度小児医療、救急救命医療 一般の医療機関では対応が困 | 高度小児医療、救急救命医療及び周産期医療を提供するため、次のとおり取り組む。 ・ 一般の医療機関では対応が困難な小児の重症患者を全県から受け入れるため、引き続きドクターカーを配備し緊急時の対応に備える。 | こども | A | (業務の実績) ・ 24時間365日、運転手1名が出動できる体制を整えている。 ・ 平成25年度出動回数：423回（昨年度：378回） (課題) 車両の総走行距離が、25年度末現在 292,641kmに達していることから、患者の安全な搬送を考慮すると車両の更新を検討する必要がある。 また、25年度より運用を開始するコンパクトドクターカーの効率的・計画的搬送が実施される必要がある。 |

| | | | | |
|----|--|---|-------|--|
| 42 | <p>難な高度な小児医療の中核病院としての機能を充実する。また、全県的立場で小児の重症患者を診療するとともに、県内各医療圏の小児救急医療体制で対応できない部分の後方支援病院として、救急体制の整備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 周産期医療 | <ul style="list-style-type: none"> 近隣の2次医療圏の救急体制を補完できるよう、救急外来を中心とした院内の救急医療体制と病院間連携及び病院間搬送事業体制を充実・強化する。 | こども A | <p>(業務の実績)</p> <p>小児緊急入院患者数 1,051人 (前年度比101.5%) 救急患者数 4,291人 (前年度比 97.5%)</p> <p>担当診療科が明らかでない緊急入院患者については、総合小児科が担当診療科となり、そのベッドコントロールは看護管理者が行うなど、円滑な受け入れが行えた。</p> |
| 43 | <p>県の総合周産期母子医療センターとしての機能を維持向上させ、県内産科医療機関と連携を図りながら胎児救急を主体として機能するとともに、内科・外科などの専門医療も必要とする母体救急については信州大学医学部附属病院などとネットワーク体制を構築する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 小児及び周産期救急の連携強化を図るため、県内消防機関との意見交換会を開催し、課題の研究や症例検討等を行う。 | こども A | <p>(業務の実績)</p> <p>県内全14消防機関と信州大学医学部附属病院高度救命救急センター、こども病院による意見交換会及びこども病院施設見学会を12月に開催した。救急情報提供カードの運用や、救急車からドクターカーへの乗り換えの際の手順など、各症例における共通認識を深め、連携強化を図ることができた。</p> <p>(課題)</p> <p>小児及び周産期救急に係る連携強化のため、引き続き意見交換会を開催していく必要がある。</p> |
| 44 | | <ul style="list-style-type: none"> 在宅人工呼吸器装着患児については、救急時の搬送の円滑化を図るため、患児の情報を記載した救急連絡カードの整備、運用を行う。 | こども A | <p>(業務の実績)</p> <p>平成25年6月から運用を開始した「救急情報提供カード」は所持者20名、実際搬送利用者1名となった。実際、松本広域消防局管内において1名の利用があり、救急搬送の円滑化に寄与した。</p> <p>アンケート調査の結果から、「大変良い」5点から「良くない」1点までの5段階評価で平均3.82点、感想としては、多くを語らず消防隊に子どものことをわかってもらえる、持っているだけで安心できる、消防隊に伝える対応が冷静にできたように思う等の感想があった。また、所持者自らが訪問看護ステーションとの共有をしたり、近所の知人や友人にもカードについて紹介をしたりと独自の協力体制を確立できた。</p> <p>(課題)</p> <p>所持者は中信地域に90%、東信地域5%、北信地域5%、南信地域0%であり、地域の拠点病院と連携を図りながら、所持者の拡大を図ること、人工呼吸器装着患児の他、何らかの医療的ケアを必要とする患児に対象を拡大することが必要。</p> |

| | | | | | |
|----|--|---|-----|---|--|
| 45 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>こども病院の神経小児科等と連携し、治療を行った。</p> <p>こども病院からの紹介患者 4人</p> <p>信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部と連携し、治療を行った。</p> <p>信大子どものこころ診療部からの紹介患者 3人</p> <p>信大子どものこころ診療部への紹介患者 1人</p> |
| 46 | | <ul style="list-style-type: none"> 発達障害をはじめ県内のこどもの心の診療充実を図るため、信州大学医学部附属病院及びこころの医療センター駒ヶ根と患者紹介などで連携しながら、関係機関への情報発信に努める。 | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>発達障害専門外来では、96名の診察を行った。市町村保健師や教師、保育士など関係者が同席することが多くなり、具体的な指導を直接伝えることができるようになった。</p> <p>また、紹介先の医療機関への返書だけでなく、保護者宛にも返書を送付することで、保護者が関係者に情報を伝達しやすいと好評である。</p> <p>さらに、人材育成のために保育士、教師を対象とした2日間に渡る研修会には93名の参加者があった。</p> <p>県から「発達障害診療専門家現地派遣事業」の一部委託を受け、信州大学医学部附属病院、こころの医療センター駒ヶ根とともに、県内10圏域の地域連携病院との間で各地域における発達障害診療のネットワークづくりの調整を行った。また、新たに県内4広域での研修会を企画し、二次障害や精神科連携といった今後の課題に向けての情報発信を行った。</p> |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|---|--|------|----------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 | |
| 47 | <p>ウ 高度小児医療、周産期医療の提供（こども病院）</p> <p>県における高度小児医療、総合周産期医療の拠点施設として、他の医療機関との役割分担を明確にしたうえで十分な受け入れ態勢を確保し、次に掲げる高度な小児医療、救急救命医療及び周産期医療を提供する。</p> <p>また、こころの医療センター駒ヶ根と連携して、児童思春期の精神疾患患者に対する専門診療機能の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度小児医療、救急救命医療 <p>一般の医療機関では対応が困難な高度な小児医療の中核病院としての機能を充実する。また、全県的立場で小児の重症患者を診療するとともに、県内各医療圏の小児救急医療体制で対応できない部分の後方支援病院として、救急体制の整備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 周産期医療 <p>県の総合周産期母子医療センターとしての機能を維持向上させ、県内産科医療機関と連携を図りながら胎児救急を主体として機能するとともに、内科・外科などの専門医</p> | <ul style="list-style-type: none"> 胎児心疾患の診断、フォローを集約化し周産期医療を充実するため県及び信州大学医学部附属病院等と連携し、地域産科・周産期施設と出生前心臓診断ネットワーク（先天性心疾患スクリーニングネットワーク）を構築し、インターネットを活用した地域拠点病院間の遠隔診断を推進する。 | こども | B | <p>（業務の実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> 25年度は、胎児心エコースクリーニング事業に賛同した、飯田市立病院、浅間総合病院、市立岡谷病院、長野赤十字病院、伊那中央病院で超音波検査機器の購入が実現した。このうち飯田市立病院では購入した胎児心エコー検査のための超音波機器の画像調整を行い、実際の胎児心エコースクリーニングの講習研修を実施。26年度には伊那市立中央病院をはじめとして超音波機器の画像調整とスクリーニングの講習を実施していく予定。 出生前診断勉強会を産科高木医師と循環器小児科安河内医師を中心に1, 2月で開催し県内産科医師、超音波検査技師などへの講習会を開催した。 25年度には信州大学医学部附属病院とさらに連携を図るとともに、参画が可能な開業医とも連携して、実際のSTIC法を用いた胎児心エコー検査のデータ収集と解析を進めたい。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加施設間でのデータ交換のためのネットワーク構築及び実際のスクリーニング事業の実施に係るマニュアル整備・法的対応確認が課題である。 |
| 48 | <p>一般の医療機関では対応が困難な高度な小児医療の中核病院としての機能を充実する。また、全県的立場で小児の重症患者を診療するとともに、県内各医療圏の小児救急医療体制で対応できない部分の後方支援病院として、救急体制の整備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 周産期医療 <p>県の総合周産期母子医療センターとしての機能を維持向上させ、県内産科医療機関と連携を図りながら胎児救急を主体として機能するとともに、内科・外科などの専門医</p> | <ul style="list-style-type: none"> 先天性心疾患の術後成人患者に対する利便性を確保するため、専門外来を新設する。 | こども | A | <p>（業務の実績）</p> <p>平成25年10月より、信州大学成人先天性心疾患センターとの連携により毎週火曜日午前に平成26年度からの成人移行期外来開設準備のため、信州大学より元木博彦医師が安河内外来の見学に来院し、移行のための外来患者情報の交換と対面紹介作業を実施した。平成26年度からこども病院に毎週火曜日に成人移行外来を新規開設することが決定した。また信州大学より成人動脈管症例4例、心房中隔欠損3例に対して経皮的閉鎖術（こども病院でしか出来ないカテーテル治療）を施行した。今後成人対象例に対してこの移行外来を通じて進める予定。また信州大学の成人先天性心疾患センターとの連携協定を締結する前提で準備を進めている。</p> <p>また、23年度から「成人先天性心疾患専門外来」準備のための対象患者に対するアンケート調査と指導などを進めてきた成果について5月に開催された欧州小児循環器学会において報告を行った。</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 25年度に実施した成人カテーテル治療例を今後拡大するために、関係多職 |

| | | | | |
|----|---|---|-------|---|
| | <p>療も必要とする母体救急については信州大学医学部附属病院などとネットワーク体制を構築する。</p> | | | <p>種医療職との連携体制を充実させより円滑な治療が実施できるよう整備を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> 信州大学からの移行期外来参加が実現したので、26年度は信州大学医成人先天性心疾患センターへのこども病院からの出向と連携協定の締結が課題で去る。学部と診療連携を行うほか、同部の成人先天性心疾患センターからの積極的な参加の要請に応え参加協力を行う。 治療を含めた成人先天性心疾患外来制度の確立を担当する人材の確保が課題である。 |
| 49 | | <ul style="list-style-type: none"> 生命科学センターの高度解析装置を活用した遺伝子関連検査機能を強化するとともに、常勤化した遺伝科医による遺伝カウンセリング及びフォローアップを推進する。 | こども B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学センターの高度解析装置を利用して合計537件の遺伝子関連検査（内訳：病原体遺伝子検査475件、体細胞遺伝子検査37件、遺伝学的検査25件）を実施し、診断および経過観察に役立てた。このうち、腫瘍解析（上衣腫；体細胞遺伝子検査）について11月29日の日本小児血液・がん学会、骨系統疾患解析（FGFR3；遺伝学的検査）の成果については、11月9日の小児科学会甲信地方会において報告された。 遺伝学的検査が行われた25例は、検査前後の遺伝カウンセリングを遺伝科（臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー）が施行し、適切な健康管理へと結び付けている。 なお、先天性骨系統疾患及び先天性好中球減少症に対する遺伝子診断については、院内外の医療関係者などで構成する「長野県立こども病院倫理委員会」において倫理申請の承認を得た上で、遺伝子診断を実施した。また、診断結果に基づき患児の両親に対する遺伝科医による遺伝カウンセリングを3件行った。 SNPアレイ解析については、臨床検査技師2名が先行実施機関で研修を受け、解析法および報告様式についての検査機能の強化を図った。 厚生労働省科学研究費、日本学術振興会科学研究費助成金（奨励研究）およびこども病院臨床医学研究助成金を獲得した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遺伝子関連検査機能の強化と遺伝カウンセリング及びフォローアップ推進の継続 研究費確保に向けた取組み 検査技術および知識の習得と人材の育成 |

| | | | | |
|----|--|--|-------|---|
| 50 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ タンデムマス法を用いた新生児マス・スクリーニング検査を県から受託実施することにより、先天性代謝異常の早期発見・早期治療と常勤化した遺伝科医による遺伝カウンセリング及びフォローアップを推進する。 | こども A | <p>(業務の実績)</p> <p>新生児マス・スクリーニング検査を県から受託し、新しい検査法であるタンデムマス法によるスクリーニングを行った。パイロット試験(6-9月)3,000件を実施後、10月より本稼働となり初回検査7,887件、再検査453件のスクリーニングを行った。精密検査が必要な新生児はのべ16例、先天性甲状腺機能低下症(疑い)6名、フェニルケトン尿症1名が診断され、遺伝カウンセリングが行われた。スクリーニング結果の把握から精密検査、診断および治療に総合小児科医師が加わることにより、早期発見・早期治療のための円滑な流れを構築することができた。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マス・スクリーニング検査事業の受託継続と検査データの集計および公表 ・ 精密検査およびフォローアップのための検査の実施 ・ 引き続き、先天性代謝異常の早期発見・早期治療と常勤化した遺伝科医による遺伝カウンセリング及びフォローアップを推進する。 ・ 県との協力のもと協議会を開催する。 |
|----|--|--|-------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|--|--|------|----|---|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 51 | <p>ウ 高度小児医療、周産期医療の提供（こども病院）</p> <p>県における高度小児医療、総合周産期医療の拠点施設として、他の医療機関との役割分担を明確にしたうえで十分な受け入れ態勢を確保し、次に掲げる高度な小児医療、救急救命医療及び周産期医療を提供する。</p> <p>また、こころの医療センター駒ヶ根と連携して、児童思春期の精神疾患患者に対する専門診療機能の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度小児医療、救急救命医療 一般の医療機関では対応が困難な高度な小児医療の中核病院としての機能を充実する。また、全県的立場で小児の重症患者を診療するとともに、県内各医療圏の小児救急医療体制で対応できない部分の後方支援病院として、救急体制の整備を進める。 周産期医療 県の総合周産期母子医療センターとしての機能を維持向上させ、県内産科医療機関と連携を図りながら胎児救急を主体として機能するとともに、内科・外科などの専門医療も必要とする母体救急については信州大学医学部附属病院などとネットワーク体制を構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> 臓器提供施設として、患者家族から申し出があった場合は、改正臓器移植法に基づいて病院独自に整備したマニュアルに従い適切に対応する。 | こども | B | <p>(業務の実績)</p> <p>未整備であった脳死判定マニュアルを、脳死判定医を中心に検討を行い、明文化したうえ、既存のマニュアルと統合し、成案とした。</p> <p>(課題)</p> <p>平成26年度早々、脳死判定マニュアルに基づいて脳死判定シミュレーションを実施し、検証を行う。</p> |
| 52 | <p>高度小児医療、救急救命医療</p> <p>一般の医療機関では対応が困難な高度な小児医療の中核病院としての機能を充実する。また、全県的立場で小児の重症患者を診療するとともに、県内各医療圏の小児救急医療体制で対応できない部分の後方支援病院として、救急体制の整備を進める。</p> <p>周産期医療</p> <p>県の総合周産期母子医療センターとしての機能を維持向上させ、県内産科医療機関と連携を図りながら胎児救急を主体として機能するとともに、内科・外科などの専門医療も必要とする母体救急については信州大学医学部附属病院などとネットワーク体制を構築する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> エコーセンターの超音波診断機能を充実し、超音波診断に関する専門医・技術者等の人材を育成する。 | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> エコーセンターでは、25年度にNICUにCX50、放射線科にNoburusを導入した。 エコーセンターに日本超音波医学会超音波専門技師の有資格者が3名となり、外来心エコー検査システムが確立できた。 エコーセンターでの超音波研修システムを構築し、ホームページ上に公開。県内生理検査技師2名が研修を受講し、また県外からの医師2名、県外からの見学者3名が研修システムを利用した。 エコーセンター研修会を合計5回開催し、県立病院および信州大学と遠隔会議システムを利用して研修会内容を配信し教育研修を実施した。 須坂病院の研修センターと連携してエコーシミュレーターを利用したエコー研修（ハンズオン）を2回開催した。これにより院内の若手医師8名の参加者にエコー手技の技術研修指導を実施した。 当機構のITネットワークを活用して、エコーセンター主宰のセミナーを配信するとともに、産科と共同で胎児エコー研修を月1回実施した。また、遠隔診断システムを活用し、他県の小児医療センターとの症例検討を5回実施した。 25年度のエコー検査件数は18,810例で、保険収益は58,834千円となった。 エコーセンター中心のエコー機器管理の徹底により、エコー機器の維持管理体制が確立した。 エコー機器導入に伴う手続きの手順が周知され、効率的な予算配分が可能となった。（平成26年度機器整備計画において） <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心エコー検査件数の更なる増加と、外来エコー検査制度についての院内各診療科の利用を推進し検査技師による外来検査件数を増やす。 |

| | | | | |
|----|--|--|-------|--|
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・超音波検査技師によるエコー診断の精度向上と件数の増加 ・県内におけるエコー教育センター化に向けた制度設計 |
| 53 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内周産期医療機関の要請に応じて、ハイリスク患者、ミドルリスク患者に加え、軽度胎児異常分娩の患者の受入れを行う。 | こども A | <p>(業務の実績)</p> <p>成24年度に引き続き、軽度胎児異常症例の妊娠管理および分娩管理を行い、この症例の分娩数が68件あった。</p> <p>双胎又は軽度胎児異常を指摘された妊産婦等のミドルリスク患者を積極的に受け入れており、新生児病棟入院患者は年々増加している。</p> <p>また、安曇野市及び松本市周辺の周産期施設との間では、夜間・緊急時帝王切開の際の立会、当院新生児科医師の出張、助産師・看護師からの直接の電話相談への対応及び当院においての新生児蘇生講習会の開催等による連携が進んでいる。</p> <p>相沢病院との医療提携について検討中</p> <p>病床の有効利用を目的に、急性期医療の終了した妊婦、新生児を地域の病院に送り搬送（逆搬送）するための二台目のドクターカー（コンパクトドクターカー）を地域医療再生基金を利用して整備した。</p> <p>現在、丸の内病院、市立大町総合病院及び安曇野赤十字病院との間で医療連携及び周産期医療に関する協定が締結され、連携が進められている。平成24年度に協定を締結した市立大町総合病院からは9件の搬送があり、24年度の3件に比べ大幅に増加している。</p> <p>(課題)</p> <p>今年度はさらに20-30例の分娩件数の増加を目指す</p> |
| 54 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ ワクチン接種で防ぐことのできる病気から小児を守るため、予防接種センターにおいてワクチン接種に関する各種相談業務、県民・医療者への啓発活動などを行う。 | こども A | <p>(業務の実績)</p> <p>ワクチン接種で防ぐことのできる病気から小児を守るため、当院かかりつけの患児に対する予防接種の情報提供、スケジューリング、相談業務および接種を実施した。</p> <p>合計742件の相談（うち30件はかかりつけでない一般および他の医療機関からの相談）があり、予防接種数の増加に寄与した。</p> <p>のべ487人（のべ944本）の接種を行った。特にNICUなどでの入院中の予防接種も積極的に推奨し、のべ59人の接種に結びつけた。</p> <p>また当院ホームページや院内掲示を用いての予防接種に関する情報提供を行った。長期療養を必要とする疾病のために定期予防接種を受けられなかった患者さんへの救済措置については、迅速に資料を作成・配布した。この資料は県内の他の医療機関でも利用してもらい、当院に限らない情報提供を行うことができた。他に水痘ワクチンの2度打ちを呼びかけ、新たに27件の接種を行って感染予防と原疾患治療の計画的な遂行に寄与することができた。</p> |

| | | | | |
|----|--|---|-------|---|
| | | | | <p>(課 題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談時間が限られていること ・相談対象や相談枠の拡大のためには人的体制の拡充が必要。 |
| 55 | | <ul style="list-style-type: none"> ・長野県全域の小児医療を担うという観点から、研修会・学習会を開催するとともに、支援チームの派遣や情報通信技術（ICT）の活用により、全県的な医療・福祉ネットワークの構築を推進する在宅医療連携拠点事業を実施する。 | こども A | <p>(業務の実績)</p> <p>県から委託を受け、事業を展開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の医療・福祉資源の把握と活用」として資源マップの更新をしホームページ上にアップした。 ・「地域の小児等への在宅医療資源の拡充と専門機関との連携」として研修会の企画、こども病院スタッフが他事業所で研修を行う交流研修の実施、支援チームを作り特別支援学校や地域関係機関病院、診療所など訪問を希望する施設への訪問支援、関係団体との連携会議、情報の共有促進をめざしてのインターネットオンライン会議の促進、インターネットクラウドサーバーを利用した電子手帳の開発と運用を行った。 ・「地域の福祉・行政関係者との連携促進」として、障害者相談支援専門員との連携や研修を通じての小児在宅分野での医療と福祉の連携深化、マニュアルなどによる情報共有の促進を図った。 ・「患者・家族の個別支援」として、在宅医療相談外来の開設、長野こども療育推進サークル「ゆうテラス」による個別相談、子どもを亡くされた方のケアとして「ちいさな星の会」の開催を行った。 ・「患者・家族や学校関係者への理解促進・負担軽減」として、在宅支援病棟の運営拡大、在宅医療ケアマニュアルの作成、情報発信、研修会の企画と開催を行った。 ・「患者家族の連携、社会認知の促進」として、各地域の患者家族会との情報交換、シンポジウムの開催、「ゆうテラス」による情報誌「あしあ」とてらす」の発行をした。 <p>小児在宅の推進のため、多くの事業を展開、全国の中でも先鞭を着ける事業展開をし、成果を上げた。</p> <p>(課 題)</p> <p>地域のニーズ把握や資源開拓のために必要な重症心身障がい児の実数調査をどのように進めるか、小児在宅に対する意識の地域差、職種間差をどう埋めるか、かかりつけ医開拓をどのように進めるか、この事業をどう永年継続していくか、特別支援学校卒業後の生活（成人移行）をどう進めていくかなど。</p> |

| | | | | | |
|----|--|---|-----|---|---|
| 56 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 極低出生体重児の2次障害（不登校・うつ病等）予防のための継続的な医学的健診や、定期的発達検査及び早期からの療育相談、並びに保護者が安心して子育てを行うための育児相談環境の整備に向けたシステムを構築する。 | こども | A | <p>（業務の実績） 極低出生体重児の育児に対する保護者の不安や質問に答えるために、有志の企業の支援を受けて、コミュニティーサイト「長野県極低出生体重児フォローアップ—たいせつなきみ—」を開設した</p> <p>（課題） 開院20年を迎え、当院にて治療を受けた児が思春期、青年期を迎え、それらの児の長期的フォローアップ体制の構築が課題である。</p> |
|----|--|---|-----|---|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|--|--|------|----------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 | |
| 57 | <p>ウ 高度小児医療、周産期医療の提供（こども病院）</p> <p>県における高度小児医療、総合周産期医療の拠点施設として、他の医療機関との役割分担を明確にしたうえで十分な受け入れ態勢を確保し、次に掲げる高度な小児医療、救急救命医療及び周産期医療を提供する。</p> <p>また、こころの医療センター駒ヶ根と連携して、児童思春期の精神疾患患者に対する専門診療機能の充実を図る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 泌尿器科を常勤化し、診療体制の充実を図る。 診療機能を充実・強化するため、耳鼻科及び眼科医師の常勤化に向けた取り組みを進める。 | こども | A | <p>（業務の実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月から泌尿器科医を常勤化し、外来、入院及び手術件数がともに増加した。 外来患者数：24年度442人→25年度1,374人 入院患者数：0人→347人 手術件数：0件→76件 眼科医師について、平成26年5月から常勤化する目途がたち、院内の体制整備を行った。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 耳鼻科医師の常勤化に向けた取り組みの強化 |
| 58 | <ul style="list-style-type: none"> 高度小児医療、救急救命医療 一般の医療機関では対応が困難な高度な小児医療の中核病院としての機能を充実する。また、全県的立場で小児の重症患者を診療するとともに、県内各医療圏の小児救急医療体制で対応できない部分の後方支援病院として、救急体制の整備を進める。 周産期医療 県の総合周産期母子医療センターとしての機能を維持向上させ、県内産科医療機関と連携を図りながら胎児救急を主体として機能するとともに、内科・外科などの専門医療も必要とする母体救急については信州大学医学部附属病院などとネットワーク体制を構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> 県境を越えた診療圏の拡大を図り、より高度な小児専門医療を提供するため、信州大学医学部附属病院等の関係施設と協働してクラニオセンター、漏斗胸センター及び血管奇形センターの設置に向けた検討を開始する。 | こども | B | <p>（業務の実績）</p> <p>各センターの設置の必要性に関する再評価を行うとともに血管奇形、および漏斗胸診療に関しては、治療体制の充実を目標に信州大学医学部形成外科担当者との治療連携を開始した。前者に関しては信大担当者による当院での外来を設け、今年度は治療継続となる成人例の引き継ぎを2例行うとともに、血液凝固異常症を有する患児の治療を当院で担当した。また漏斗胸に関しては当院に専門外来を設置するとともに放射線技術科と連携し、CT外来を設置することで検査の効率化および診察までの予約システムの簡略化をすることで患者家族の負担減をはかるとともに予約担当者の事務的業務改善を実行した。今年度の専門外来受診総数は167名、新患32名、CT外来受診者は58名であった。また連携施設である信州大学での漏斗胸治療2件を行うとともに、重症症候性漏斗胸小児1名に関し当院での受け入れを行った。クラニオセンターに関しては信州大学および松本歯科大学との連携を行い、今年度は4回のカンファレンスを行い、治療方針の決定を行った。また頭蓋骨変形症に対する新生児頭蓋矯正ヘルメット治療の研修会（第1回オメガトレーサートレーニング）に参加し、同治療器による治療資格の認定を受けた。</p> <p>（課題）</p> <p>上記体制作りによりこれらの疾患においては小児から成人までと幅広い年齢層までカバーした治療体制が確立された。センター設置に関し、漏斗胸においては、疾患専門性が高いことから近年中心施設に治療が集約されてい</p> |

| | | | | |
|----|---|-------|---|--|
| | | | | <p>る。治療に際しても関係部門での統一化がなされている状況である。そのため漏斗胸センター設置は関東甲信越圏も含めた治療施設の集約化を考えるにあたっては有効である。この点を考えた場合、マスメディアを利用した広報活動も併せて進めていく必要がある。血管奇形においては小児期における動静脈瘻の発生頻度が低いことから、同時期における信大治療班との連携の機会が少ないのが現状である。また当院は県内唯一となる最新型レーザー治療装置を保有していることから成人例の治療依頼があるものの、成人例に対する治療に関し当院の体制がまだ確立していない現状がある。クラニオセンターにおいては当院における歯科および矯正歯科の不在から実質上のセンター化が難しい状態である。新生児頭蓋矯正ヘルメット治療に関しては現在成育医療センターを中心に首都圏での運用が始まった段階である。同治療の対象となる患児の判断は難しく、また至適治療時期が短いことから診断および紹介時期を含め初診医となる産科医への啓蒙が不可欠であり、先ずはこの点からの検討を進める必要がある。また治療にあたっては脳外科医による事前評価が不可欠であることから、院内体制の検討も必要である。</p> |
| 59 | <ul style="list-style-type: none"> 口唇口蓋裂治療の更なる充実を図るため、口唇口蓋裂センターを開設し言語聴覚士を増員配置するなど、院内の診療体制を強化する。 | こども A | <p>(業務の実績)</p> <p>口唇口蓋裂センターを7月から開設し、ホームページを独自で新規作成し、情報提供を行うことができた。口唇口蓋裂専門外来を毎週金曜日の午後開設し、信大医師、こども病院医師、言語聴覚士が同一患者を同日に診察できる環境を整えた。言語聴覚士と形成外科の合同カンファレンスおよび勉強会をを定期開催し治療レベルの向上をはかった。平成25年度の口唇口蓋裂関連新患数(24年度75件、25年度113件)は大幅に増加した。また、25年度の口唇裂手術、口蓋裂手術数は31例(初回手術に限る)</p> <p>(課題)</p> <p>電子カルテや情報端末などでの情報共有の方法を模索している。耳鼻咽喉科医、口腔外科医が不在なため、できない治療があること。</p> | |
| 60 | <ul style="list-style-type: none"> 鼠径(そけい)ヘルニア等については、可能な限り日帰り手術(短期滞在手術)での対応を開始することで、診療圏の拡大と患者家族の負担軽減を図る。 | こども B | <p>(業務の実績)</p> <p>日帰り手術が行われなかったため症例なし。</p> <p>(課題)</p> <p>日帰り手術を行うため、麻酔科医師を中心にワーキンググループ(麻酔科医師、外科医師(将来的に日帰り手術を行えそうな科(形成外科、泌尿器科など)医師、手術室看護師、病棟看護師(2病棟?))、医事課職員、(外来看護師)など)を作り準備を進める。</p> | |

| | | | | | |
|----|--|---|-----|---|--|
| 61 | | <ul style="list-style-type: none"> 周産期の出生前診断に関する遺伝カウンセリングを充実・強化する。 | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>信州大学と連携して遺伝カウンセラーの育成に努めた。院内外の周産期医療従事者を対象とした、出生前診断に関する検討会を3月に開催した。周産期の出生前診断に関する遺伝カウンセリングの対象となる症例に対しては、産科医および助産師が対応した。対象者の増加もあり、妊婦外来以外の専門外来の開設を含めた検討を行った。また今年度は、看護師1名が遺伝カウンセリングの資格獲得を目指して信州大学へ就学した。</p> <p>(課題)</p> <p>引き続き出生前診断に関する人材育成</p> |
| 62 | | <ul style="list-style-type: none"> 在宅移行患者及び短期入院患者への診療体制の充実 | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>10月に第2病棟を10床増床し、在宅移行患者と短期入院患者への診療体制の充実を図りました。</p> <p>(課題)</p> <p>安定的な患者数の受け入れ</p> |
| 63 | | <ul style="list-style-type: none"> 重症患者治療室(PICU等)の充実の検討 | こども | B | <p>(業務の実績)</p> <p>長野県の小児救急患者の最後の砦として、引き続きその役割を果たしながら、県下6地域の地域中核病院との間で定期的な会議の開催などにより、小児重症治療の質の向上に努めた。</p> <p>地域病院においては小児科診療を担うことが困難となりつつある状況下で、当院の小児集中治療室(PICU)の満床状況が問題化している。病床の再編も視野に入れながら、重症患児の診療を確実に実施できる診療体制の拡充などについて、長野県に対して具体的な提案を行うべく、院内にワーキンググループを設置して検討を行った。</p> |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 地域医療、高度・専門医療の提供

(2) 高度・専門医療の提供

| | |
|------|---|
| 中期目標 | エ がん診療機能の向上（須坂、阿南、木曾、こども病院） 県立病院のがん診療機能の向上を図ること。 |
|------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|------|---|--|----------|----------|----|--------|--------|-----|------|------|-----|--------|--------|---|--------|--------|
| | | | 病院 | 説明 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 64 | エ がん診療機能の向上（須坂、阿南、木曾、こども病院） 県民に対してがんの予防、早期発見に関する情報提供を行うとともに、がんの治療、療養、社会復帰、緩和ケアなど、それぞれの場面に応じた質の高い医療サービスを提供するため、 | エ がん診療機能の向上（須坂、阿南、木曾、こども病院） がん診療機能の機能向上のため、各県立病院において次のとおり取り組む。 (7) 須坂病院 内視鏡センターにおいて、内視鏡検査を積極的に実施し、がんの早期発見に努めるとともに、内視鏡治療症例を増し、内視鏡技術水準の更なる向上と充実を図る。 | 須坂 | A (業務の実績) ・内視鏡センターでは様々な疾患の早期診断と内視鏡治療を行った。特に、早期胃癌や早期大腸癌に対しては積極的に内視鏡治療を行った。また、カプセル内視鏡とバルーン内視鏡により、小腸疾患の診断と治療を実施している。(カプセル内視鏡件数 13件 H24年度13件) 内視鏡検査件数：6,141件（24年度 5,408件）（生検にてGroup4 23件 Group5 119件） カプセル内視鏡件数 13件（24年度13件） ・外来化学療法室において延べ患者数 723人（24年度 739人）の化学療法を行った。 (課題) 内視鏡は患者の待合等の患者環境と業務環境の改善が課題。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 65 | 専門医療技術者の確保や技術水準の向上に努め、他の医療機関等と連携して地域におけるがん対策の向上を図る。 なお、内視鏡技術の進歩に対応するため、須坂病院に内視鏡センターを設置する。 | (イ) 阿南病院 ・ MRI・超音波診断装置等の検査機器の活用や、内視鏡検査による生検率の向上により、がんの早期発見に努める。 ・ 婦人特有のがん（乳癌、子宮頸癌）に関して、町村保健師と連携し、婦人科健診受診率の向上に努める。 ・ 敷地内禁煙を実施し、禁煙外来を保険適応とする。 ・ 下部消化管悪性腫瘍の治療実績の成果を継続しつつ、乳房等新たな部位での治療の | 阿南 | A (業務の実績) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成25年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>2,124件</td> <td>2,292件</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>826件</td> <td>837件</td> </tr> <tr> <td>超音波</td> <td>1,371件</td> <td>1,556件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,321件</td> <td>4,685件</td> </tr> </tbody> </table> ・予約外検査の実施に努め件数を増加することができ、検査機器の有効利用が図られた。 ・婦人特有のがん（乳癌、子宮頸癌）に関して、町村保健師と連携し、婦人科健診受診率の向上に努めた。 | | 平成24年度実績 | 平成25年度実績 | CT | 2,124件 | 2,292件 | MRI | 826件 | 837件 | 超音波 | 1,371件 | 1,556件 | 計 | 4,321件 | 4,685件 |
| | 平成24年度実績 | 平成25年度実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| CT | 2,124件 | 2,292件 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| MRI | 826件 | 837件 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 超音波 | 1,371件 | 1,556件 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 4,321件 | 4,685件 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|----|--|--|-------------|---|
| | | <p>展開を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クリニカルインディケータ（臨床評価指標）に、術後生存率などのがん診療統計を組み入れる。 | | <p>（乳癌検診受診率 85.4%、子宮頸癌検診受診率 84.7%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 26年度から敷地内禁煙を実施し、禁煙外来を保険適応とすることを決定した。 ・ 下部消化管悪性腫瘍の治療実績の成果を継続しつつ、乳房等新たな部位での治療の展開を図る。悪性腫瘍手術 7件 ・ クリニカルインディケータ（臨床評価指標）に、術後生存率などのがん診療統計を組み入れた。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療部及び医療技術部において、検査機器の有効利用について意識を高める。 ・ 検診スケジュールの調整により、キャンセル率を低下させ、乳癌検診、子宮頸癌検診の受診率を向上させる。 |
| 66 | | <p>(ウ) 木曽病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がん相談支援センターによる、相談・情報提供機能の充実を図る。 ・ 断層撮影装置（CT）については8列を64列に更新し、画像診断機能の充実を図る。 ・ 緩和ケアチームを活用し適切な医療の提供を図る。 | 木 曽 A | <p>（業務の実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談支援センターにおいて相談・情報提供を実施した。（25年度：19件） ・ 断層撮影装置（CT）については、8列から320列に更新し、画像診断機能の充実を図った。 ・ 麻酔科医、がん薬物療法認定薬剤師、緩和ケア認定看護師を中心とする緩和ケアチームにより終末期の患者に対する緩和ケアを積極的に行っている。（緩和ケアチーム介入件数：45件） <p>（課題）</p> <p>がん相談支援センターの機能強化</p> |

| | | | | |
|----|--|--|----------|--|
| 67 | | <p>(エ) こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児固形腫瘍を中心とした小児がん診療治療体制の整備を進めるとともに、遺伝子解析装置を導入するなど研究検査部門の強化を図る。 ・ 小児がん長期ケア事業に参加し、小児がん経験者の診療体制の強化を図る。 ・ 小児に特化した緩和ケアチームの機能強化を図るため、スタッフ研修・訓練を行うとともに、必要なサービスを提供する。 ・ 生命科学研究センターの高度検査機器を活用した遺伝子関連検査機能を強化することで、小児がんの診断及びがんの生物学的な特性を明らかにし、診療の充実を図る。 | こども A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 固形腫瘍、脳腫瘍患者を中心に診療を行行った。 ・ 白血病・脳腫瘍におけるフローサイトメトリー検査を行い、診断および経過観察のために利用した。 ・ 小児がん長期ケア事業推進協議会に参加するとともに、小児がん患者・経験者を長期的に支援する仕組みづくりに参画した。また、日本造血細胞移植学会の移植患者QOL調査にも参加した。 ・ 緩和ケアチームを立ち上げ、講演会を中心とした勉強会を開催した。 <p>(課題)</p> <p>多職種と連携した院内小児がんセンターの設立準備</p> |
|----|--|--|----------|--|

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 地域医療、高度・専門医療の提供

(3) 災害医療の提供

| | |
|----------|---|
| 中期 目標 | 長野県地域防災計画に基づく県立病院の役割を果たすこと。 また、木曽病院は木曽地域（二次医療圏）における災害拠点病院としての役割を果たすこと。 |
|----------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|--|---|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 68 | <p>災害発生時には、各県立病院が長野県地域防災計画に基づいて関係機関等と連携しながら適切な医療活動を行う。</p> <p>このため、各県立病院は日ごろから災害用医薬材料品等を備蓄する。</p> <p>なお、木曽病院は木曽地域における災害拠点病院として機能するほか、DMAT（災害派遣医療チーム）の運用を行う。</p> | <p>ア 災害医療の提供</p> <p>災害が発生した場合、各県立病院は長野県地域防災計画に基づいて適切な医療活動を積極的に行う。また、木曽病院のDMAT（災害派遣医療チーム）は、災害発生時に直ちに被災地に出動して救命救急処置等を行う。</p> | 須坂 | <p>A</p> <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月5日 緊急連絡の方法としてメーリングリストを使用し、緊急連絡網伝達訓練を行った。 ・9月8日 須坂市内で大規模な土砂災害が発生したとの想定のもと、4年ぶりに患者搬送受入れ及び非常招集訓練（メーリングリスト使用）を、須坂市消防本部及び須坂看護専門学校などの協力により実施し、防災意識の向上を図ることができた。（参加者193名） ・11月7日 須坂市消防署の指導のもと、地域住民（立町、東横町）も参加した総合消防・防災訓練を実施した。（参加者約100名） <p>(課題)</p> <p>今後の地域との引き続いての連携が課題である。</p> |
| 駒ヶ根 | | | <p>A</p> <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海地震を想定した防災訓練を2回、情報伝達訓練を1回実施した。 ・停電時に給食調理ができるよう非常用ガス器具を整備し、防災訓練にあわせ炊き出し訓練を実施した。 <p>(課題)</p> <p>風水害及び大雪対策を含めた総合的な災害時対応マニュアルを整備する必要がある。</p> | |
| 阿南 | | | <p>A</p> <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生に備えて、医療救護班を編成している。9月には飯伊地区包括医療協議会の大規模災害医療救護訓練に合わせ当院でも非常参集訓練を行った。また、被災患者受入シミュレーションやヘリコプターを利用した | |

| | | | | |
|----|--|-----|---|--|
| | | | | <p>地域外病院との連携訓練、工事中の避難経路等の確認等を行い、大規模災害に備えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月には、地域防災協定を締結している地元御供区も参加し、夜間総合防災訓練を実施した。また、改築工事中であったため、防災計画に基づき、工事現場関係者も参加し訓練を行った。(職員57名、御供区11名、工事関係者2名) ・病院消防防災計画に基づき災害用の医薬品等を備蓄している。 |
| 71 | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月28日に、大規模災害時を想定した医療救護活動に対応するためのトリアージ訓練を含めた、病院総合防災訓練を木曾広域消防本部、地元地区等の協力を得て実施した。 ・8月25日に木祖村で実施された木曾地域災害時医療救護訓練にDMAT 2隊を派遣し、医師会、町村、地方事務所、広域連合等と連携した訓練を行った。 ・災害発生に備えて、医薬品、医療材料及び給食材料をそれぞれ3日分備蓄している。 |
| 72 | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防計画及び自衛消防隊マニュアルの更新を行った。 ・3月5日防災に関する講演会を開催し、避難用ストレッチャーの取扱業者による東日本大震災での体験と当院医師のよりD-MATについて講義を行った。 ・10月19日日勤帯及び夜間休日を想定した総合防災訓練をそれぞれ実施した。 ・災害時においても医療用水を十分確保できるよう、地下水膜ろ過システムの導入を行った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業継続計画(BCP)を策定する必要がある。 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|---|--|------|----------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 | |
| 73 | <p>災害発生時には、各県立病院が長野県地域防災計画に基づいて関係機関等と連携しながら適切な医療活動を行う。</p> <p>このため、各県立病院は日ごろから災害用医薬材料品等を備蓄する。</p> <p>なお、木曽病院は木曽地域における災害拠点病院として機能するほか、DMAT（災害派遣医療チーム）の運用を行う。</p> | <p>イ 防災対策</p> <p>災害に備えるため、次の事項について重点的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各県立病院では、必要な災害用医薬材料品等を備蓄する。 各県立病院では、「災害時対応マニュアル」の充実や見直しを進める。 | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自衛消防業務講習及び防災センター要員講習を2名受講し、自衛消防隊の組織で必要となる告示班長に講習修了者の充当が可能となった。(修了者合計4名) 「災害時対応マニュアル」の見直しと、長期間見直されなかった消防・防災計画の見直しを行った。 災害発生時アクションカードを各部署に配置。 災害時に備えるため医薬材料、食糧をそれぞれ3日分程度備蓄している。 衛星携帯電話を1台保有している。 防火扉の稼働環境確保のため、注意書き等の周知を行った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害等のマニュアルが機能するか否かの検証が必要 メーリングリストの維持管理 院内における情報共有 防災備品の維持管理 衛星携帯電話を活用できるスキルの取得 |
| 74 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時に備えるため医薬材料、食糧をそれぞれ3日分程度備蓄している。 防災機器の操作方法について、写真入りの操作説明を作成の上、機器に貼付し、誰でも操作できるように工夫をした。 職員数が少ない夜間の災害に的確に対応できるようフローチャートを作成して職員に周知した。 <p>(課題)</p> <p>風水害及び大雪対策を含めた総合的な災害時対応マニュアルを整備する必要がある。</p> |
| 75 | | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>院外処方箋発行を開始したことから大地震等の災害時の備蓄薬品が約2日程度となったため、近隣薬局と災害時の医薬品等の提供に関する協定を締結し災害時の医薬品の安定供給を図った。</p> |

| | | | | |
|----|--|------------------|---|---|
| | | | | (課 題) 改築工事によりヘリポートが設置されたことも踏まえ、地域住民や地域関係機関と共同しての大規模災害訓練を実施する必要がある。 |
| 76 | イ 防災対策 災害に備えるため、次の事項について重点的に取り組む。 ・ 各県立病院では、必要な災害用医薬材料品等を備蓄する ・ 各県立病院では、「災害時対応マニュアル」の充実や見直しを進める ・ 木曽病院のDMAT（災害派遣医療チーム）は、災害現場で適切な救命救急処置等を行うため知事が実施する研修・訓練に参加するとともに、木曽地域災害時医療救護訓練に参加し、関係機関との連携確認を行う。 | 木 曽 | A | (業務の実績) ・ 災害発生に備えて、医薬品、医療材料及び給食材料をそれぞれ3日分備蓄している。 ・ 災害対策マニュアル及び消防計画に基づいた病院総合防災訓練を実施し、マニュアルの確認を行った。また、局地災害発生時の対応についてマニュアルを見直した。 ・ 生体情報モニター、ポータブル人工呼吸器、パソコン等のDMAT備品を購入した。 ・ 当院ではDMAT2チーム（医師3名、看護師5名、調整員4名）を編成し、県総合防災訓練に積極的に参加している。今年度は、1チームを訓練に派遣し、救護所での傷病者に対するトリアージ訓練、応急処置負傷者の医療機関への搬送等を行った。 ・ 木祖村で行われた広域災害救護訓練には、DMAT2チームを派遣し、関係機関との連携を取った。 |
| 77 | イ 防災対策 災害に備えるため、次の事項について重点的に取り組む。 ・ 各県立病院では、必要な災害用医薬材料品等を備蓄する ・ 各県立病院では、「災害時対応マニュアル」の充実や見直しを進める | こ ど も | B | (業務の実績) ・ 大規模災害及び局地災害に即応できるよう各部署のアクションカードを含めた災害時対応マニュアルの整備を継続作業中である。 (課 題) ・ 防災物品の経年劣化による更新を行う。 ・ 防災テントの整備を行う、 |
| 78 | イ 防災対策 災害に備えるため、次の事項について重点的に取り組む。 ・ BCP（事業継続計画）の策定に向け、「信州メディカルネット」を活用した電子カルテシステム患者基本情報等の災害対策用バックアップシステムを、関係者と共に構築する。 | 機 構 本 部 | B | (業務の実績) ・ 3回（8月9日、11月29日、2月27日）の情報化推進プロジェクトチーム運営会議において、信州メディカルネットを利用したBCPについて意見交換を行い、バックアップシステムのあり方については来年度重点に行うことを確認した。 (課 題) ・ 災害に備えたバックアップとして必要な情報の範囲、サーバーを含めたシステム構築等についての検討が必要である。 |

| |
|---|
| 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 |
| 1 地域医療、高度・専門医療の提供 |
| (4) 医療観察法（※）の提供 (※) 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（平成15年法律第110号） |

| | |
|------|---|
| 中期目標 | こころの医療センター駒ヶ根を、医療観察法に基づく指定入院医療機関として整備し、その運営を行うこと。 |
|------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|---|---|------|----|---|
| | | | 病院 | 評価 | |
| 79 | <p>県の精神医療政策の一環として、こころの医療センター駒ヶ根を医療観察法に基づく指定入院医療機関として整備し、同法の処遇対象者が社会復帰するために必要な医療を行う。</p> | <p>医療観察法に基づく指定入院医療機関（こころの医療センター駒ヶ根）として、同法の処遇対象者が社会復帰するために必要な医療を行う。</p> <p>また、同法に基づく指定通院医療機関として、通院対象者が安定した社会生活を送れるよう、必要な医療を行う。</p> | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B 2（総合治療）病棟に小規模規格ユニット（6床）を併設している。病棟全体で1看護単位を敷いて施設を運用しており、国及び他の指定入院医療機関などとも連携して、社会復帰に向けた治療を行っている。 ・ 県外の対象者も受け入れたことにより、約5ヵ月間満床となった。 ・ 平成25年度1日平均在院患者数5.3人（3月末現在：6名）。 ・ 平成25年度新たに受け入れた対象者数：急性期2名（うち県外の者1名） |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 2 5病院のネットワークを活用した医療の提供及び地域医療への貢献
 (1) 5病院のネットワークを活用した医療機能の向上

中期目標
 ア 県立病院間の診療協力体制の充実強化
 各県立病院の特長を活かした相互協力体制を構築すること。
 県立病院間における医師等の派遣などにより、医療供給体制の充実を図ること。

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|----|---|---|----------|--|
| | | | 病院 評価 | 説明 |
| 80 | | | 須坂 | A (業務の実績) ・「小児発達外来」を実施し23人の診療を行った。 |
| 81 | ア 県立病院間の診療協力体制の充実強化 各県立病院間で医師等を相互派遣しやすい体制を整備して、相互協力体制や医療供給体制を充実することにより、病院機構が持つ人的・物的機能を有効に活用していく。 | ア 県立病院間の診療協力体制の充実強化 各県立病院間で医師等の人事交流及び相互派遣を円滑に行うための連携体制を整備する。 | 駒ヶ根 | B (業務の実績) ・一人職場である当院の臨床検査技師と診療放射線技師が必要な研修や休暇の取得ができるように他の県立病院からの応援を得られる協力体制を構築した。 ・阿南病院から臨床工学技士の派遣を受け、輸液ポンプ等の定期点検を実施した。 ・平成26年度から作業療法士がこども病院で実習を受けられるよう人材育成の協力関係を構築した。 ・平成26年4月に内科医の経験を有する精神科医師を採用し、身体合併症への一時対応がとれる体制を整えた。 (課題) ・精神科診療に係る派遣要請に備えた医師確保の推進 ・身体合併症の患者に対応するため、一般診療科を有する病院との人事交流 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | | |
|----|--|--|--|-----|---|--|
| | | | 病院 評価 | 説明 | | |
| 82 | <p>ア 県立病院間の診療協力体制の充実強化</p> <p>各県立病院間で医師等を相互派遣しやすい体制を整備して、相互協力体制や医療供給体制を充実することにより、病院機構が持つ人的・物的機能を有効に活用していく。</p> | <p>ア 県立病院間の診療協力体制の充実強化</p> <p>各県立病院間で医師等の人事交流及び相互派遣を円滑に行うための連携体制を整備する。</p> | 阿南 | A | (業務の実績) 精神科においては、他県立病院から非常勤医師の派遣を受け外来業務を行った実績があるなど、必要な場合には協力を求めることができる体制となっている。 | |
| 83 | | | 木曾 | B | (業務の実績) 今年度実績は無いが、診療体制の構築のための打合せを1回実施。26年度から、こころの医療センター駒ヶ根に検査科と放射線技術科の職員が応援に行くことが決まった。 | |
| 84 | | | こども | A | (業務の実績) 阿南病院における乳児股関節検診を当院整形外科医師が開始した。 木曾病院ににおける産科医療支援のために助産師研修制度を開始した。 (課題) 26年度より木曾病院における産科医療支援のため、助産師を出向させる。 駒ヶ根こころの医療センターの医療技術部支援をおこなう | |
| 85 | | | 機構本部 | B | (業務の実績) 25年度は、信州大学医学部附属病院手術室とこども病院手術室との間を結んで心臓手術のリアルタイムな画像の配信などを9件実施した。 | |
| 86 | | | <ul style="list-style-type: none"> こども病院の整形外科医師について阿南病院への派遣を依頼し、先天性股関節脱臼検診のための体制整備を進める。 | 阿南 | A | (業務の実績) ・毎月1回(第四木曜日)にこども病院から整形外科医の派遣を受け、4か月健診に合せて、先天性股関節脱臼検診を実施した。 25年度件数 46件 ・26年4月から常勤医となり、派遣は不要となった。 |
| 87 | | | | こども | A | (業務の実績) 当院の整形外科医師を月1回阿南病院へ先天性股関節脱臼検診のために派遣し、46名の乳児の検診を行った。 |
| 88 | | | <ul style="list-style-type: none"> こども病院の助産師を木曾病院へ派遣し助産師への教育体制の充実を図る。(再掲) | 木曾 | A | (業務の実績) 半年ずつ計2名の助産師を受け入れた。1名は助産師業務、1名は地域連携業務に携わり、木曾の医療を学んだ。 |

| | | | | | |
|----|--|--|-----|---|--|
| 89 | | | こども | A | <p>(業務の実績) H25.7～11月(5カ月間)、H25.12～H26.3(4カ月間)助産師を1名ずつ木曾病院へ派遣し、助産師としてのスキルアップ及び他病院での業務を経験することでのキャリアアップに繋がった。</p> <p>(課題) 助産師出向モデル事業として継続していく予定である。</p> |
|----|--|--|-----|---|--|

- こころの医療センター駒ヶ根とこども病院との間で患者紹介などの連携を通じて、こどもの心の診療の充実を図る(こども 46再掲)

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 2 5病院のネットワークを活用した医療の提供及び地域医療への貢献
 (1) 5病院のネットワークを活用した医療機能の向上

| | |
|------|--|
| 中期目標 | イ 情報の共有化と活用 各県立病院が保有する情報を共有できるネットワークシステムの構築を進め、各種データを活用して医療機能の向上を図ること。なお、システム構築に当たっては、セキュリティの確保に十分な配慮をすること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|----|---|---|------|----------|---|
| | | | 病院 | 評価 説明 | |
| 90 | イ 情報の共有化と活用 県立病院間で医療に関する情報を共有化できる体制を整備することにより、病院機構全体として地域の医療需要の動向を把握して、このデータに基づいた医療提供体制を構築する。なお、これに合わせて適切な情報セキュリティが確保される体制の整備を進める。 | イ 情報の共有化と活用 各県立病院間等を結んだネットワークシステムを適切に運用できる体制を整備し、病院間の連携を強化する。また、県立病院間で統一性を持った、診療情報の分類・集計を可能とする体制を整備する。 | 機構本部 | B | (業務の実績) ・クリニカルインディケーターWGを計9回開催 ・臨床評価指標(クリニカルインディケーター)の拡充の考え方に基づいた検討を行い、13項目拡充し、平成26年3月に機構本部ホームページに公表始した。 (課題) さらなる拡充項目、医療の質の評価指標公表を視野に入れた検討が必要 |
| 91 | イ 情報の共有化と活用 県立病院間で医療に関する情報を共有化できる体制を整備することにより、病院機構全体として地域の医療需要の動向を把握して、このデータに基づいた医療提供体制を構築する。なお、これに合わせて適切な情報セキュリティが確保される体制の整備を進める。 | ・ 県立病院間高画質診療支援ネットワークシステムのハイビジョン映像と医用画像等を介しての、多地点連結医療従事者カンファレンスを実施する。 | 須坂 | A | (業務の実績) 県立病院に導入されているテレビ会議システムを利用して、研修会やカンファレンス等を行った。 ・1月28日 医療安全研修会「院内暴力、暴言への対応」船橋市立医療センター池田勝紀先生 ・2月19日 健康づくり講演会「女性だけでなく男性にもわかって欲しい女性の心と体について」木曽病院産婦人科長 吉岡郁郎先生 ・糖尿病に関心のある医師、薬剤師、看護師、栄養士等による、糖尿病WEBカンファレンスを行った。 4月4日 「インクレチン研究をふりかえる」 11月6日 「GLP1(グルカゴン様ペプチド-1)新たな展開」 2月13日 「SGLT2阻害薬とは」 3月11日 「2型DM最新治療戦略」 ・各病院に導入されているテレビ会議システムを利用して、こども病院エコー |

| | | | | |
|----|--|--|--------|--|
| | | | | センターとの研修会を3月25日に行った。(参加者 臨床検査科2名) (課 題) 今後も維持継続していく |
| 92 | | | 駒ヶ根 A | (業務の実績) 院内医療情報システムと「信州メディカルネット」の接続を行い、25年12月から「信州メディカルネット」を利用したデータ参照・公開を開始した。 (25年度実績：7件) |
| 93 | | | 阿南 A | (業務の実績) 25年度の電子カルテシステム等の開発に併せて、26年度からの「信州メディカルネット」への参画に向けた準備を進めた。 |
| 94 | | | 木曾 ー | (業務の実績) 実績なし |
| 95 | | | こども B | (業務の実績) ・県立病院に導入されているテレビ会議システムを利用して、研修会等を他の県立病院に配信した。また、他の県立病院で行われた医療安全や職員衛生に関する研修会をテレビ会議システムを通じて受講した。 |
| 96 | | | 機構本部 B | (業務の実績) 信州大学医学部附属病院との勉強会（DPCスタディWG）の実施及びDPC調査データを用いた分析方法の構築 ・経営分析の手法に関する研修を7回実施 ・9月27日：信大病院との勉強会（DPCスタディWG）の実施 ・11月：須坂・木曾病院職員計2名を産業医科大学に短期派遣し、経営分析手法の習得を行う研修を実施した。併せて、分析結果の報告会を各病院で開催し、職員へ周知 (課 題) ・分析結果をきちんと病院運営に活用できるか ・産業医科大学に研修派遣した須坂・木曾病院以外でDPCデータなどのデータを活用した分析体制の確立 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|--|----------|----|--|-------|-------|-----|------|---------|--------|-----|---|---------|--------|----|---|-------------|--------|-----|---|--------|---------|----|---|--------|-------------|---------|---|
| | | | 病院 評価 | 説明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 97 | イ 情報の共有化と活用 県立病院間で医療に関する情報を共有化できる体制を整備することにより、病院機構全体として地域の医療需要の動向を把握して、このデータに基づいた医療提供体制を構築する。なお、これに合わせて適切な情報セキュリティが確保される体制の整備を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> 上記システムを用いて信州大学医学部附属病院とこども病院の間で手術室映像やセントラルモニタ（生体情報モニタ）のデータを配信、共有して行うカンファレンスを実施する。 | こども | A | <p>（業務の実績）</p> <p>高画質診療支援ネットワークシステムの活用により、9月20日に信州大学医学部附属病院麻酔蘇生学教室とこども病院麻酔科との間で、手術室の映像やセントラルモニタを活用した心臓外科開心術症例についてのカンファレンスを、同教室の学生を交えて行いました。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 98 | | <ul style="list-style-type: none"> こども・須坂・信州大学医学部附属・長野赤十字病院間で実施している、「信州メディカルネット」を利用した電子カルテの相互参照について、他の県内医療機関との相互参照の拡充を図るとともに、こころの医療センター駒ヶ根についても、平成26年度の本稼働に向け構築を進める。 阿南病院では平成25年度の電子カルテシステム等の開発に併せて、平成26年度からの「信州メディカルネット」への参画を目指す。 | 須坂 | A | <p>（業務の実績）</p> <p>こども病院を始めとする他病院との間で電子カルテの相互参照を行った。 （実人数10件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>情報提供元</th> <th>情報提供先</th> <th>診療科</th> <th>実患者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県立こども病院</td> <td>県立須坂病院</td> <td>小児科</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>長野赤十字病院</td> <td>県立須坂病院</td> <td>内科</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>信州大学医学部附属病院</td> <td>県立須坂病院</td> <td>小児科</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>県立須坂病院</td> <td>長野赤十字病院</td> <td>内科</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>県立須坂病院</td> <td>信州大学医学部附属病院</td> <td>内科、泌尿器科</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>（課題） 今後の維持継続</p> | 情報提供元 | 情報提供先 | 診療科 | 実患者数 | 県立こども病院 | 県立須坂病院 | 小児科 | 5 | 長野赤十字病院 | 県立須坂病院 | 内科 | 2 | 信州大学医学部附属病院 | 県立須坂病院 | 小児科 | 1 | 県立須坂病院 | 長野赤十字病院 | 内科 | 1 | 県立須坂病院 | 信州大学医学部附属病院 | 内科、泌尿器科 | 1 |
| 情報提供元 | 情報提供先 | 診療科 | 実患者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 県立こども病院 | 県立須坂病院 | 小児科 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長野赤十字病院 | 県立須坂病院 | 内科 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 信州大学医学部附属病院 | 県立須坂病院 | 小児科 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 県立須坂病院 | 長野赤十字病院 | 内科 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 県立須坂病院 | 信州大学医学部附属病院 | 内科、泌尿器科 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 99 | | | 駒ヶ根 | A | <p>（業務の実績）</p> <p>院内医療情報システムと「信州メディカルネット」の接続を行い、25年12月から「信州メディカルネット」を利用した相互データ参照・公開を開始した。 （25年度実績：7件）</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 100 | | | 阿南 | A | <p>（業務の実績）</p> <p>26年度からの「信州メディカルネット」への参画に向けて準備を進め、具体的な運営に向けて運営協議会事務局を医局に招き説明を受けた。</p> <p>（課題） 画像連携がシステムの難しいことが判明したため、画像連携システムを構築し、運用を開始していく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|-----|--|--|-----------------------------|---|
| 101 | | | しごと も | <p>(業務の実績)</p> <p>患者情報の共有化による効率的な医療連携、医療資源の有効活用、安全で質の高い医療サービスの提供などを目的に構築された電子カルテの相互参照システムについては、須坂病院、信州大学医学部附属病院、長野赤十字病院との間で協定を締結した。</p> <p>この協定に基づき、当院患者のカルテ情報を須坂病院へ5件、信州大学医学部附属病院へ28件、長野赤十字病院へ1件提供するとともに、信州大学医学部附属病院からは21件、長野赤十字病院からは2件の提供を受けた。</p> |
| 102 | | | 木曾 ・ 機 構 本 部 | <p>(業務の実績)</p> <p>H26年度に電子カルテシステムの更新を行うため「信州メディカルネット」運営委員会及び協議会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月29日：「信州メディカルネット協議会」第1回通常総会へ出席 ・ 9月17日：信州メディカルネット協議会事務局（信州大学医学部附属病院 医療事務部）において情報交換 <p>(課 題)</p> <p>H26年度に電子カルテシステムの更新を行う木曾病院において、「信州メディカルネット」への接続を行う。</p> |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|------|----|---|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 103 | イ 情報の共有化と活用 県立病院間で医療に関する情報を共有化できる体制を整備することにより、病院機構全体として地域の医療需要の動向を把握して、このデータに基づいた医療提供体制を構築する。なお、これに合わせて適切な情報セキュリティが確保される体制の整備を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> DWH（データウェアハウス）抽出・分析ツールの構築を引き続き進め必要に応じた診療・会計データの参照・分析等が行えるようにするとともに、DPC（診断群分類包括評価）調査データを様々な分析に活用する。 | 須坂 | B | （業務の実績） DWHからのデータを抽出、集計が可能となるよう職員の訓練を行った。 （課題） 組織全体で活用する意識の醸成 |
| 104 | | | 木曾 | A | （業務の実績） 「SQLサーバー」の活用により、医事データ及びDPCデータのデータベース化を図るとともに、「マイクロソフト・アクセス」を活用した分析手法の構築を行った。医事会計データ及びDPCデータについて自院のデータベース構築を行い、必要に応じて抽出・集計・分析を自由に行えるようにした。 （課題） 電子カルテ更新に合わせてDWHシステムを導入し、誰でも容易にデータ分析が行えるようにする。 |
| 105 | | | こども | B | （業務の実績） 新たにDWHの抽出・分析ツールを導入し、25年度から全職員が使用できるよう構築ができた。DPC調査データを用いた分析方法についてはDPCを導入する26年度からの実施を予定している。 |
| 106 | | | 機構本部 | B | （業務の実績） 信州大学医学部附属病院との勉強会（DPCスタディWG）の実施及びDPC調査データを用いた分析方法の構築 ・経営分析の手法に関する研修を7回実施 ・9月27日：信大病院との勉強会（DPCスタディWG）の実施 ・11月：須坂・木曾病院職員計2名を産業医科大学に短期派遣し、経営分析手法の習得を行う研修を実施した。併せて、分析結果の報告会を各病院で開催し、職員へ周知 （課題） ・分析結果をきちんと病院運営に活用できるか ・産業医科大学に研修派遣した須坂・木曾病院以外でDPCデータなどのデータを活用した分析体制の確立（94再掲） |

| | | | | | |
|-----|--|---|------|---|--|
| 107 | | <ul style="list-style-type: none"> 県立5病院の主要なクリニカルインディケータ（臨床評価指標）をイントラネット上などで確認ができるシステムを構築する。 | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> クリニカルインディケータWGを計9回開催 臨床評価指標（クリニカルインディケータ）の拡充の考え方に基づいた検討を行い、13項目拡充し、平成26年3月に機構本部ホームページに公表始した。 <p>(課題)</p> <p>さらなる拡充項目、医療の質の評価指標公表を視野に入れた検討が必要</p> |
|-----|--|---|------|---|--|

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 2 5 病院のネットワークを活用した医療の提供及び地域医療への貢献
 (2) 地域の医療機関との連携等

| | |
|------|--|
| 中期目標 | ア 地域の医療機関との連携 地域との連携体制を強化し、他の医療機関との機能分担を進めて、患者紹介・逆紹介を積極的に行うなど、県立病院の持つ医療機能を効率的・効果的に提供できる体制づくりを進めること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|---|------|---|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 108 | ア 地域の医療機関との連携 地域の医療需要に適切に応じていくために、地域の医療機関と連携を図りながらそれぞれの医療機能を有効に活用できる体制の整備を進め、患者に最も適した医療サービスの提供ができるように、患者の相互紹介や地域連携クリニカルパス（地域内で各医療機関が共有する、患者に対する治療開始から終了までの全体的な治療計画）の作成等を進めていく。 | ア 地域の医療機関との連携 各県立病院の地域連携室の機能の強化を図り、地域の医療機関との交流の拡大、連携体制の整備を進め、患者の紹介、逆紹介を積極的に実施する。 | 須坂 | A (業務の実績) ・須高医師会が開設する須高休日緊急診療室及び須高夜間（水曜日）緊急診療室を当院内で実施している。 ・地域医療福祉連携室及び在宅診療運営委員会が中心となって、地域の行政・介護施設等と連携して、10回の「家族介護教室」の開催・運営に参画した。(参加者586人) 紹介率：31.3% (24年度 34.9%) 逆紹介率：27.8% (24年度 30.3%) ・須高医師会と協力し39件(1,620名)の出前講座を行った。 ・6月7日 須坂市民生児童委員協議会に出席し「須坂病院の使命、現状について」の講話と出前講座の紹介を行った。 ・1月30日 須坂市公民館分館長会総会に出席し出前講座の紹介を行った。(出席者 公民館関係者89名) ・須坂市公民館分館長会総会に出席した分館長から出前講座の依頼が発生している。 |

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|-------|---|-------------------------|------------------------|
| | | | | 5月31日 | 玉木善光救急看護認定看護師、救急委員・藤澤奈津子看護師、救急委員・竹前寿美子看護師、救急委員・松澤 麻美看護師、救急委員・山岸 暢明看護師 | 一次救命処置 | グリーンアルム福祉会 地域交流センター |
| | | | | 6月4日 | 美谷島 司栄養科長 | メタボリックシンドロームって何？ | 須坂市商工会議所2階 会議室 |
| | | | | 6月5日 | 玉井真由美看護師 | 小児（乳幼児）救急法 | 東部児童センター（高橋町） |
| | | | | 6月12日 | 小日向直子副看護師長 | （子育てセミナー）小児の病気の対応と事故の防止 | 北旭ヶ丘保育園 |
| | | | | 6月12日 | 中澤祐美副看護師長 | 小児（乳幼児）救急法 | 中央児童センター（馬場町） |
| | | | | 6月13日 | 石井栄三郎小児科部長 | 乳幼児の感染症と予防接種について | 中央児童センター（馬場町） |
| | | | | 6月18日 | 塚田久文看護師 | 小児（乳幼児）救急法 | 北部児童センター（北旭ヶ丘町） |
| | | | | 7月2日 | 玉木善光救急看護認定看護師 | 家庭でできる応急手当 | 須坂市消防本部大会議室 |
| | | | | 7月6日 | 赤松泰次副院長 | 潰瘍性大腸炎の診断と治療について | 北信保健福祉事務所3階大会議室 |
| | | | | 7月11日 | 玉木善光救急看護認定看護師 | 一次救命処置 | 千曲市戸倉庁舎 |
| | | | | 7月11日 | 斎藤 博院長 | エイズについて | 墨坂中学校 |

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--------|----------------|---------------------------|---------------------|
| | | | | 7月18日 | 玉木善光救急看護認定看護師 | 小児(乳幼児)救急法 | 南部児童センター(屋部町) |
| | | | | 7月26日 | 玉木善光救急看護認定看護師 | (子育てセミナー)小児の救急法、応急手当 | 須坂市立須坂千曲保育園 |
| | | | | 8月5日 | 清水勝利耳鼻咽喉科部長 | めまいについて | 馬場町公会堂 |
| | | | | 9月3日 | 清水俊行副院長 | 健康に役立つ漢方の知恵 | すざか女性みらい館 |
| | | | | 9月6日 | 坂口幸治呼吸器外科部長 | 肺がんについて | 長野市南石堂町公民館 |
| | | | | 9月14日 | 美谷島司栄養科長 | 健康に過ごすための食生活について | 須坂市中央公民館 |
| | | | | 9月19日 | 塚田久文看護師 | (子育てセミナー)小児の救急法、応急手当 | 井上保育園 |
| | | | | 10月17日 | 熊谷信平外科部長 | 大腸がんの治療について | 須坂温泉古城荘 |
| | | | | 10月29日 | 中島恵利子感染管理認定看護師 | 感染対策について | 須坂市社会福祉協議会2階 大会議室 |
| | | | | 11月1日 | 石井栄三郎小児科部長 | 学童の感染予防 | 仁礼小学校視聴覚室 |
| | | | | 11月6日 | 玉井真由美看護師 | 家庭でできる応急手当 | 小布施町エンゼルランドセンター ホール |
| | | | | 11月13日 | 赤松泰次副院長 | ピロリ菌と胃の疾患 | 須高建労会館 |
| | | | | 11月13日 | 中澤祐美看護師 | (子育てセミナー)小児(乳幼児)の救急法、応急手当 | 子育て支援センター |

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--------|--------------------|--|---------------------------------|
| | | | | 11月14日 | 石井栄三郎小児科 部長 | (子育てセミナー) 小児の感染症と予 防接種 | 福祉会館 2階 |
| | | | | 11月20日 | 中島恵利子感染管 理認定看護師 | 感染対策について | 須崎市社会福祉協 議会ディサービスCぬ くもり園 |
| | | | | 11月22日 | 石井栄三郎小児科 部長 | (子育てセミー)小 児の病気 | 米子町公会堂 |
| | | | | 11月22日 | 美谷島司栄養科長 | 健康に過ごすため の食生活について | 安茂里公民館 |
| | | | | 11月30日 | 美谷島司栄養科長 | 高齢者の食生活に ついて | 豊野温泉・りんごの湯 多目的ホール |
| | | | | 12月11日 | 薬剤科職員 | 正しい薬の飲み方 | 須崎市社会福祉協 議会 2階 大会議室 |
| | | | | 2月25日 | 管理栄養士 | 健康に過ごすため の食生活について | 小布施町健康福祉セ ンター |
| | | | | 2月25日 | 清水俊行副院長 | 健康に役立つ漢方 の知恵 | 須坂市中央公民館 3階ホール |
| | | | | 2月25日 | 管理栄養士 | 高齢者の食生活に ついて | 須高広域シルバー人 材センター 2階 作業訓練室 |
| | | | | 2月27日 | 看護部の先生方 (助産師) | 性教育について | 墨坂中学校 武道場 |
| | | | | 2月28日 | 看護部 | 性教育について | 須坂市立東中学校視 聴覚室 |
| | | | | 3月8日 | 助産師二名 | (子育てセミナー) 中高生と赤ちゃん のふれあい交流事 業 | 須坂病院北棟4F講堂 |
| | | | | 3月11日 | 管理栄養士 | 高齢者の食生活に ついて | 高山村保健福祉総合 センター内 高齢者福祉センター |
| | | | | 3月12日 | 看護部 | 性教育について | 常盤中学校 清心館 |

| | | | | |
|-----|--|--|------|--|
| | | | | <div style="border: 1px solid green; padding: 2px;"> 3月22日 美谷島司栄養科長 高齢者の食生活に 豊野温泉りんごの湯 ついて 多目的ホール </div> |
| 109 | | | 阿南 A | (課題) 今後も須高医師会との連携を維持継続していく。 (業務の実績) ・飯田市立病院と救急搬送患者地域連携（逆）紹介、がん治療連携、人工透析患者の地域移行連携等の積極的な紹介を行い、亜急性期患者の受入を含み、医療連携の強化を図った。 |
| 110 | | | 木曾 A | (業務の実績) 病院の広報紙、地域連携室だよりを定期的に発行し、郡内医療機関等への配布を行っているほか、郡内医療機関に参加を求め、同機関からの紹介患者に対する対応についての症例検討会を開催する（25年度は1回）など、当院の状況を積極的に公開し、交流拡大、連携体制の強化に繋げている。 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|--|------|----|--|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 111 | ア 地域の医療機関との連携 地域の医療需要に適切に対応していくために、地域の医療機関と連携を図りながらそれぞれの医療機能を有効に活用できる体制の整備を進め、患者に最も適した医療サービスの提供ができるように、患者の相互紹介や地域連携クリニカルパス（地域内で各医療機関が共有する、患者に対する治療開始から終了までの全体的な治療計画）の作成等を進めていく。 | 地域連携クリニカルパスの検討・整備を進めるとともに、積極的な活用により在宅医療機能の強化を図る。 | 須坂 | A | (業務の実績) ・6月20日 長野脳卒中連携パス運営会議出席 ・8月22日 長野地区大腿骨頸部／転子部骨折連携パス運営会議出席 ・大腿骨頸部／転子部骨折連携パスについては、積極的に適用し大腿部は9件だった。 (課題) 脳外科及び脳神経内科常勤医の獲得 |
| 112 | | | 駒ヶ根 | A | (業務の実績) ・上伊那地域の病院連携実務者会議に参加し、地域連携クリニカルパスの運用について管理病院との情報交換を行い、地域病院との連携の強化に努めた。 病院実務者連携会議開催日：11月12日 |
| 113 | | | 阿南 | A | (業務の実績) ・がん連携診療指導料の施設基準に基づいて連携パスを活用し、がんの二次診療において、乳がんで19例の地域連携パスの適応症例があった。 ・地域の診療所などとの「へき地看護研究会」を本格稼働させたほか、新たに「病診看護連絡表」の運用を開始し、地域連携クリニカルパスの整備に向けた検討も行っている。 |
| 114 | | | 木曾 | B | (業務の実績) 急性心筋梗塞に関する地域連携クリニカルパスの内容見直しを行った。 (課題) 地域の医療機関との連携を進めていく中で、地域連携クリニカルパスについて検討していく。 |
| 115 | | | 機構本部 | A | (業務の実績) 研修センターで以下の取組が行われた。 ・医師・研修医：34回、61名 ・看護師：15回、75名 ・新人看護師：3回、84名 ・復帰支援：3回、12名 ・ICLS事前研修：4回、40名 ・高校生1日体験：2回、45名 ・腹部エコー臨床検査技師：3回、3名 ・訪問看護スタッフ：1回、25名 |

| | | | | |
|-----|--|---|-------|--|
| 116 | | <p>阿南病院では、地域住民の健康管理の一元化を図るために「健康管理センター」を、地域住民に密着した医療を提供するとともに総合医・家庭医の育成のために「へき地医療研修センター」を、認知症対策を行うために「認知症相談室」を、それぞれ設置する。</p> <p>また、平成26年度から本格稼働に向け、施設の改修工事を進めるほか、人材確保、関係機関との連絡調整などの準備を進める。</p> <p>平成24年度に配置した保健師の経験と専門性を生かし、町村との連携を一層強化させるとともに、保健予防や健診事後指導、退院支援の強化を図りながら、健康管理センター稼働後の病院のあり方を見据え、福祉・行政・医療の三位一体の基盤づくりを引き続き進める。</p> <p>さらに、地域連携の体制づくりや地域で生活できる療養環境の形成を目指し、病院及び地域の診療所の看護師で構成する「へき地看護研究会」を継続するほか、飯田市立病院と看護師交流人事を行うなど、より一層の連携強化を図る。</p> | 阿南 A | <p>(業務の実績)</p> <p>阿南病院では、地域住民の健康管理の一元化を図るために「健康管理センター」を、地域住民に密着した医療を提供するとともに総合医・家庭医の育成のために「へき地医療研修センター」を、認知症対策を行うために「認知症なんでも相談室」を、それぞれ設置する。</p> <p>また、平成26年度から本格稼働に向け、施設の改修工事を進めるほか、人材確保、関係機関との連絡調整などの準備を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師1名の配置により、郡内町村との連携を図り、健診事業の連絡調整、健診結果に対する保健指導や精密検査・要治療者への受診の促進に取り組んだことで、人間ドック等の受診者数の増加、婦人科健診の受診率向上に寄与できた。 ・特に精密検査・要治療者の再受診率は、前年の40%から今年度55%に向上した。 ・22年度に発足した診療所等の看護師で構成する「へき地看護研究会」を隔月で開催し、地域連携の体制づくりや地域で生活できる療養環境の形成について研究を継続するとともに、郡内町村の保健師も参画し更なる充実を図った。 <p>(課題)</p> <p>引き続きドックの結果異常者に再受診を促すための事後指導を展開していく。</p> |
| 117 | | <p>こども病院では、発達障害学齢児等への総合的支援を実施する県と協調し、信州大学医学部附属病院及び県内医療機関とも連携しながら、発達障害専門外来の円滑な運用を図るとともに、関係機関への情報発信に努める。</p> | こども A | <p>(業務の実績)</p> <p>発達障害専門外来では、96名の診察を行った。市町村保健師や教師、保育士など関係者が同席することが多くなり、具体的な指導を直接伝えることができるようになった。</p> <p>また、紹介先の医療機関への返書だけでなく、保護者宛にも返書を送付することで、保護者が関係者に情報を伝達しやすいと好評である。</p> <p>さらに、人材育成のために保育士、教師を対象とした2日間に渡る研修会には101名の参加者があった。</p> <p>県から「発達障害診療専門家現地派遣事業」の一部委託を受け、信州大学医学部附属病院、こころの医療センター駒ヶ根とともに、県内10圏域の地域連携病院との間で各地域における発達障害診療のネットワークづくりの調整を行った。また、新たに県内4広域での研修会を企画し、二次障害や精神科連携といった今後の課題に向けての情報発信を行った。(46番再掲)</p> |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---|---|------|--------|--|-----|-------|-------|------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|----|---|---|-----|--------|--------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 118 | ア 地域の医療機関との連携 地域の医療需要に適切に応えていくために、地域の医療機関と連携を図りながらそれぞれの医療機能を有効に活用できる体制の整備を進め、患者に最も適した医療サービスの提供ができるように、患者の相互紹介や地域連携クリニカルパス（地域内で各医療機関が共有する、患者に対する治療開始から終了までの全体的な治療計画）の作成等を進めていく。 | 機構本部では、福祉・教育等県の関係機関との調整を行い、発達障害専門外来の運用を支援する。 | 機構本部 | B | (業務の実績) ・県の発達障害者診療体制の整備事業と関係する内容を検討するための発達障害者支援対策協議会診療体制部会に、こども病院及び、こころの医療センター駒ヶ根からの医師の参加について要請があり、平成25年度に了承した。必要な支援等を引き続き行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 119 | | 小児周産期専門医療に関する開業医または地域医療機関との診療連携契約制度の推進及び登録医制度の導入に向けた検討を進める。 | こども | A | (業務の実績) ・1件の在宅療養支援診療所との連携を継続した | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 120 | | 紹介率及び逆紹介率（須坂病院） <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度実績</th> <th>25年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>34.2%</td> <td>38.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>28.4%</td> <td>30.0%</td> </tr> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>3,738人</td> <td>4,000人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>4,291人</td> <td>4,300人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介患者を受け入れるため、紹介を多く受け入れる疾患を明確にし、須高地域及び近隣の医療機関への訪問活動を実施する。 ・ 福祉施設との交流会への参加のほか、患者退院時カンファレンスなどに多くのケアマネージャー等の参加を求めため、福祉施設等への訪問活動を実施する。 | 区 分 | 23年度実績 | 25年度目標値 | 紹介率 | 34.2% | 38.0% | 逆紹介率 | 28.4% | 30.0% | 紹介患者数 | 3,738人 | 4,000人 | 逆紹介患者数 | 4,291人 | 4,300人 | 須坂 | A | 紹介率及び逆紹介率（須坂病院） <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>24年度実績</th> <th>25年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>34.2%</td> <td>31.3%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介</td> <td>29.7%</td> <td>27.8%</td> </tr> <tr> <td>紹患者数</td> <td>3,662人</td> <td>3,516人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>4,426人</td> <td>4,671人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受け入れについては、消化器疾患（内視鏡検査）、呼吸器疾患（結核、肺炎）及び手術を対象とする整形外科疾患を対象を明確化した。 ・ 地域医療福祉連携室及び在宅診療運営委員会が中心となって、地域の行政・介護施設等と連携して、10回の「家族介護教室」の開催・運営に参画した。（参加者586人） | 区 分 | 24年度実績 | 25年度実績 | 紹介率 | 34.2% | 31.3% | 逆紹介 | 29.7% | 27.8% | 紹患者数 | 3,662人 | 3,516人 | 逆紹介患者数 | 4,426人 | 4,671人 |
| 区 分 | 23年度実績 | 25年度目標値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹介率 | 34.2% | 38.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介率 | 28.4% | 30.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹介患者数 | 3,738人 | 4,000人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介患者数 | 4,291人 | 4,300人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 24年度実績 | 25年度実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹介率 | 34.2% | 31.3% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介 | 29.7% | 27.8% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹患者数 | 3,662人 | 3,516人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介患者数 | 4,426人 | 4,671人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 121 | 紹介率及び逆紹介率（阿南病院） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度実績</th> <th>25年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>2.5%</td> <td>4.3%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>8.1%</td> <td>8.7%</td> </tr> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>140人</td> <td>240人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>464人</td> <td>480人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携の体制づくりや地域で生活できる療養環境の形成を目指し、病院及び地域の診療所の看護師で構成する「へき地看護研究会」を継続し、より一層の連携を強化する。（再掲） 飯田市立病院を中心にした「がん診療連携パス」運用の推進 飯伊下伊那医療機関との協定による「救急患者地域連携紹介・受入加算」算定の促進 | 区分 | 23年度実績 | 25年度目標値 | 紹介率 | 2.5% | 4.3% | 逆紹介率 | 8.1% | 8.7% | 紹介患者数 | 140人 | 240人 | 逆紹介患者数 | 464人 | 480人 | 阿南 | A | 紹介率及び逆紹介率（阿南病院） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>24年度実績</th> <th>25年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>8.6%</td> <td>11.9%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>11.2%</td> <td>15.0%</td> </tr> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>226人</td> <td>279人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>531人</td> <td>548人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 診療所、飯田市立病院からの紹介患者が増加した 飯田市立病院との救急、がん診療、人工透析等の医療連携により診療報酬の加算取得に結び付けている | 区分 | 24年度実績 | 25年度実績 | 紹介率 | 8.6% | 11.9% | 逆紹介率 | 11.2% | 15.0% | 紹介患者数 | 226人 | 279人 | 逆紹介患者数 | 531人 | 548人 |
|--------|---|---------|---------|---------|-----|-------|-------|------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|----|---|--|----|--------|--------|-----|-------|-------|------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 区分 | 23年度実績 | 25年度目標値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹介率 | 2.5% | 4.3% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介率 | 8.1% | 8.7% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹介患者数 | 140人 | 240人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介患者数 | 464人 | 480人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区分 | 24年度実績 | 25年度実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹介率 | 8.6% | 11.9% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介率 | 11.2% | 15.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹介患者数 | 226人 | 279人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介患者数 | 531人 | 548人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 122 | 紹介率及び逆紹介率（木曽病院） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度実績</th> <th>25年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>12.6%</td> <td>14.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>11.2%</td> <td>11.5%</td> </tr> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>1,380人</td> <td>1,500人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>1,239人</td> <td>1,250人</td> </tr> </tbody> </table> | 区分 | 23年度実績 | 25年度目標値 | 紹介率 | 12.6% | 14.0% | 逆紹介率 | 11.2% | 11.5% | 紹介患者数 | 1,380人 | 1,500人 | 逆紹介患者数 | 1,239人 | 1,250人 | 木曽 | A | 紹介率及び逆紹介率（木曽病院） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>24年度実績</th> <th>25年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>13.6%</td> <td>16.7%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>11.1%</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>1,436人</td> <td>1,589人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>1,176人</td> <td>1,154人</td> </tr> </tbody> </table> | 区分 | 24年度実績 | 25年度実績 | 紹介率 | 13.6% | 16.7% | 逆紹介率 | 11.1% | 12.1% | 紹介患者数 | 1,436人 | 1,589人 | 逆紹介患者数 | 1,176人 | 1,154人 |
| 区分 | 23年度実績 | 25年度目標値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹介率 | 12.6% | 14.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介率 | 11.2% | 11.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹介患者数 | 1,380人 | 1,500人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介患者数 | 1,239人 | 1,250人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区分 | 24年度実績 | 25年度実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹介率 | 13.6% | 16.7% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介率 | 11.1% | 12.1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紹介患者数 | 1,436人 | 1,589人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆紹介患者数 | 1,176人 | 1,154人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

- こころの医療センター駒ヶ根では、地域連携室に精神保健福祉士を配置して、医療機関や福祉施設等との協力関係を強化し、早期治療・早期社会復帰を図る。（駒ヶ根 39再掲）
- こころの医療センター駒ヶ根とは患者紹介などの連携を通じて、こどもの心の診療充実を図る。（駒ヶ根・こども 46・88再掲）
- こども病院では、胎児心疾患の診断、フォローを集約化し周産期医療を充実するため県及び信州大学医学部附属病院等と連携し、地域産科・周産期施設との出生前心臓診断ネットワーク（先天性心疾患スクリーニングネットワーク）を構築し、インターネットを活用した地域拠点病院間の遠隔診断を推進する。（こども 47再掲）
- 県立病院間高画質診療支援ネットワークシステムを用いて信州大学医学部附属病院とこども病院の間で手術室映像やセントラルモニタ（生体情報モニタ）のデータを配信、共有して行うカンファレンスを実施する。（5病院・機構本部 91～97再掲）

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 2 5 病院のネットワークを活用した医療の提供及び地域医療への貢献
 (2) 地域の医療機関との連携等

中期目標 イ 地域の医療機関への支援
 各県立病院の持つ人的・物的な医療資源を活用した地域医療機関への支援体制を充実させ、地域医療全体の機能向上を図ること。

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|------|----|--|
| | | | 病院 | 説明 | |
| 123 | イ 地域の医療機関への支援 県立病院が保有するCT、MRI等の高度医療機器を地域医療機関へ開放して機器の共同利用を促進し、地域医療の充実を図る。 また、要請に応じて他の医療機関へ医師等を派遣することや、地域で開催される症例研究会等において最新の取り組みを紹介することなどを通じて、地域医療機関等への支援を行う。 | イ 地域の医療機関への支援 次のとおり地域医療機関等への支援を行う。 ・ 高度医療機器の共同利用を促進するための検討を進める。 ・ 他の医療機関からの要請に応じて医師等が派遣できる制度を整え、へき地診療所等からの要請に基づき医師を派遣するなどの支援を積極的に行う。 ・ 地域医療機関等に研修センターのスキルラボや装置を活用できる仕組みを整備するとともに、地域医療機関の職員が参加できるシミュレーション研修等の充実を図る。(研修センター) | 機構本部 | B | (業務の実績) ・ 昨年度実施した医療器械等の利用状況及び更新予定等の再調査(時点修正)及び昨年度の検討で要検討となっている事項について、部会員に周知し引き続きの検討を要請。 (業務の実績) スキルラボの活用のために、設備内容と使用方法を記載したスキルラボ・ガイドブックを作成し、地域医療機関等へ配布した(配布先:県内高等学校、訪問先学校、訪問先病院、レジナビ、県立5病院、本部事務局及び病院機構新人研修) |
| 124 | | ・ 小児専門医療に関する他病院との相互援助協定の締結を推進する。(こども病院) | こども | B | (業務の実績) 平成25年度は新たに協定を締結した医療機関はなかったが、院長・副院長が県内医療機関へ訪問した際などに協定締結について働きかけを行った。 また、協定を締結している医療機関へは、診療支援のほか、出張新生児蘇生講習会を開催するなどの支援を行った。 (課題) 周産期医療体制充実のための新たな医療機関との協定の締結の推進。 |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|--|
| 125 | | <ul style="list-style-type: none"> 3Dモデル造形センターについては、県内医療水準の向上にも貢献できるよう地域の医療機関・医療関係教育機関へ積極的にPRし、利用拡大を図る。（こども病院） | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3Dモデル造形センターの業務紹介を病院ホームページに紹介し検索し易くした。県内外から9件の作製依頼があり、その内訳は歯科が3件、放射線科が3件、整形外科が2件、耳鼻科が1件、前年比24%増であった。造形モデル作製材料（コーティングボンド等）の検討を行い硬さ、切削等を検討費用削減に貢献出来るか検討中 院内からの造形依頼件数は12件（脳神経外科・形成外科）であった。 全国の脳神経外科&形成外科医が集まるCrniosynostosis研究会世話人施設へPR文書&施設紹介文書を送付。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院HP及び広報紙掲載等による広報活動及び材料費の削減検討 |
| 126 | | <ul style="list-style-type: none"> 小児リハビリテーションについては、研修会・学習会の開催や、地域医療機関からのリハビリテーションスタッフ研修生の受入れを行い、地域医療スタッフの育成に寄与する。（こども病院） | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に、地域医療機関のリハビリテーションスタッフを受け入れて実施する臨床研修については、7名を計28日間受け入れ、小児リハビリテーションへの理解を深めることができた。事後アンケート調査では、全員から治療に役立つとの感想が得られた。 2日間に渡り講義と実技を行うNICU研修会については、30名が受講し、NICUでのリハビリテーションの知識を深めた。 小児リハビリテーションに関わる各地域の医療機関の間で、オンライン会議システムを使用した症例検討会を14回、地域の訪問リハビリテーションスタッフが在宅患者訪問時に同システムでの連携を8回実施し、相互の情報交換及び、ネットワークづくりに役立てた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床研修、NICU研修会ともに希望者が多く受け入れきれない状態にある。 |
| 127 | | <ul style="list-style-type: none"> 県から受託の委託を受け、信州大学小児医学講座、信州大学子どものこころ診療部、こころの医療センター駒ヶ根と協働し、医師や臨床心理技術者、作業療法士などを県内10圏域ごとに行われる研修会や事例検討会などに派遣して、県内の発達障害診療体制の充実に寄与する。（こども病院） | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>県内10圏域の発達障害診療地域連絡会は16回開催され、全てに専門家を派遣した。研修会への参加者は大幅に増加し（H25年度1,210名、H24年度397名）、発達障害診療体制の充実に役立てた。また、児童精神科連携など圏域の枠を超えた医療連携が必要なものについて、新たに県内4広域ごとに研修会を企画し、今後の課題に向けての情報発信をおこない参加者からの好評を得た。</p> |

・へき地診療所等からの要請に基づき医師を派遣するなどの支援を積極的に行う（阿南・木曾 19・23再掲）

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(1) より安心で信頼できる医療の提供

| | |
|------|--|
| 中期目標 | ア 医療安全対策の実施 安全で安心な医療を提供するために、医療事故等を防止するための医療安全対策を徹底するとともに、院内感染防止対策を確実に実施すること。同時に、医薬品及び医療機器に係る安全管理体制を整備すること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|--|------|---|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 128 | ア 医療安全対策の実施 病院機構本部に医療安全対策担当を置き、各県立病院と連携を取りながら医療安全対策、医療事故に関する情報の収集・分析を的確に行うほか、病院機構として統一した医療安全管理基本指針を定めるなど、医療安全対策の充実を図る。 また、患者や職員を感染症から守るため、県立病院間で情報の共有化を図りながら、有効な院内感染の発生予防対策や、発生時における拡大防止対策を推進する。 | ア 医療安全対策の実施 県立5病院の医療安全の標準化と質の向上を図るため、以下の取組みを行う。 ・ 医療安全への取組み状況を医療安全管理者が互いに実地確認し合う医療安全相互点検を引き続き実施する。 | 須坂 | A (業務の実績) ・ 7月12日 医療安全管理者の相互点検が行われた。 指摘のあったリハビリテーション科と南5階病棟の改善策を提出した。同時に前年度指摘のあった部署（臨床検査科、放射線技術科、薬剤科）の再点検も行き、改善状況を確認した。 |
| 129 | | | 駒ヶ根 | A (業務の実績) ・ 当センターへの医療安全相互点検が10月11日に行われ、研修体制について指摘があった。指摘事項については改善策を検討し、平成26年度に実施予定である。 ・ 平成24年度の指摘事項である倫理要綱を制定し、5病院間における医療安全の標準化を達成した。 |
| 130 | | | 阿南 | A (業務の実績) 5病院における相互点検を実施し、他病院の取組を参考とすることができた。今年度は老健、リハビリについて改善を図り、今後は項目の改善について検討する。 |
| 131 | | | 木曾 | A (業務の実績) 8月に放射線科とアイライフ木曾の相互点検を受けた。その結果、CQコール放送を改善し、アイライフ使用者家族の権利を作成できた。その他の指摘に対しても長期的に取り組み改善することができた。過去2年間の指摘事項についても再点検を実施したところ、改善されており、相互点検の効果が認められた。 |
| 132 | | | こども | A (業務の実績) ・ 9月13日に第1病棟、第5病棟において実施した結果、使用していないマニュアルと現在のマニュアルが混在し、スタッフが必用なマニュアルを取り出せない状況が |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|---|------|----|---|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 136 | <p>ア 医療安全対策の実施</p> <p>病院機構本部に医療安全対策担当を置き、各県立病院と連携を取りながら医療安全対策、医療事故に関する情報の収集・分析を的確に行うほか、病院機構として統一した医療安全管理基本指針を定めるなど、医療安全対策の充実を図る。</p> <p>また、患者や職員を感染症から守るため、県立病院間で情報の共有化を図りながら、有効な院内感染の発生予防対策や、発生時における拡大防止対策を推進する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 県立5病院共通の医療安全チェックシートを活用した院内自己点検を引き続き実施し、課題の把握を行い、改善策の立案や体制整備につなげる。 | 須坂 | B | <p>(業務の実績)</p> <p>前年度より改善された項目も増え、他職種と改善を取り組むきっかけとなっている。</p> <p>(課題)</p> <p>自己点検も2年目に入り、部署による評価のかたよりが出てきたため、それぞれの共通認識がもてるよう工夫が必要である。</p> |
| 137 | | | 駒ヶ根 | A | <p>・5病院共通のチェックシートを活用し、自己点検を実施することで課題を把握することができた。また、その課題が病院機能評価項目と共通するため、今後の取組の方向づけができた。</p> |
| 138 | | | 阿南 | A | <p>去年に引き続き点検を行うことで、結果は改善傾向となつてはいるが、マニュアルの不備や組織体制の問題も浮き彫りにされたため、今後の課題へつなげることができた。</p> |
| 139 | | | 木曾 | B | <p>前年度の点検結果から当院の課題が明確になり、不足事項に取り組むことで一部改善に繋がった。スタッフのレベルでチェックを行ったことで周知の状況を把握できた。</p> |
| 140 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>・各部署のセフティ・マネージャー (SM) により、部署毎の自己点検を実施し、その後リスクマネージャーが総合評価を行った。今回、医師のSMが初めて看護師と共に自部署の評価を行った事で、自部署の問題点が把握できる良い機会となった。次年度以降も、医師の参加を呼び掛けていく。</p> <p>(課題)</p> <p>・災害時対応についての職員教育が不十分であり、特に夜間対応について訓練を実施する必要がある。</p> |
| 141 | | | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>・県医療安全支援センターとの共催により、全県の医療関係者も対象とした医療安全管理研修会に参加した (25年度：参加者10名)</p> |
| 142 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>・2月4日の医療安全研修会に5名が参加した。後日、院内で伝達講習会を開催し20名の職員が参加した。</p> |

| | | | | |
|-----|---|------|---|--|
| 143 | | 阿南 | A | (業務の実績) ・ 2月4日に松本合庁で開催された研修に8名が参加した。 ・ 研修の内容が収録されたDVDにより、全職員を対象とした研修会を行う予定である。 |
| 144 | | 木曾 | B | (業務の実績) 平日の午後ということもあり、業務の都合上参加者5名と少なかったが、院内で資料を元に、関連会議の中で復命した。 |
| 145 | | こども | A | (業務の実績) ・ 診療記録に関連する研修内容であった事から、看護部記録委員を中心に16名が参加した。 |
| 146 | | 機構本部 | A | (業務の実績) 2月4日に、損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株) 能村仁美氏を講師に「裁判事例に学ぶ説明と記録の重要性」をテーマとした研修会を松本合同庁舎で開催し、県内病院から約170名の参加があった。 |
| 147 | <ul style="list-style-type: none"> 各県立病院の医療安全推進担当者等の資質向上と医療安全の実践指導者養成を図るため、グループワーク形式による「体験型」研修を引き続き実施する。 | 須坂 | A | (業務の実績) ・ こども病院で開催された「苦情・クレーム対応」の研修会に各部門から11名が参加した。 |
| 148 | | 駒ヶ根 | A | (業務の実績) ・ こども病院で行われた体験型研修に6名が参加した。 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|--|---|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 149 | <p>ア 医療安全対策の実施</p> <p>病院機構本部に医療安全対策担当を置き、各県立病院と連携を取りながら医療安全対策、医療事故に関する情報の収集・分析を的確に行うほか、病院機構として統一した医療安全管理基本指針を定めるなど、医療安全対策の充実を図る。</p> <p>また、患者や職員を感染症から守るため、県立病院間で情報の共有化を図りながら、有効な院内感染の発生予防対策や、発生時における拡大防止対策を推進する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 各県立病院の医療安全推進担当者等の資質向上と医療安全の実践指導者養成を図るため、グループワーク形式による「体験型」研修を実施する | 阿南 | <p>(業務の実績)</p> <p>・6月29日にこども病院で開催されたグループワーク形式による体験型研修に9名が参加しコミュニケーション技法を学んだ。</p> |
| 150 | | | 木曾 | <p>(業務の実績)</p> <p>6月29日にこども病院で開催された「医療機関におけるコミュニケーション」研修に9名の職員(医師1名、看護師3名、医療技術職4名、事務部1名)が参加した。</p> |
| 151 | | | こども | <p>(業務の実績)</p> <p>6月29日に当院で開催された研修会に、多職種の20名が参加し、ロールプレイ形式でコミュニケーションに関して学ぶ事が出来た。</p> |
| 152 | | | 機構本部 | <p>(業務の実績)</p> <p>6月29日にグループワーク形式による研修会をこども病院で開催した。</p> <p>テーマ：医療機関におけるコミュニケーション</p> <p>参加者：67名(看護職36名、医療技術職20名、事務職8名)</p> |
| 153 | | | <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理者の質の向上を図るため、インシデント事例分析手法などをグループワーク形式により学習する医療安全管理者学習会を開催する。 | 須坂 |
| 154 | 駒ヶ根 | <p>・11月に行われた医療安全管理者研修会に参加し、事例分析手法を学び、当院で毎月実施しているインシデント分析に利用している。</p> | | |
| 155 | 阿南 | <p>看護協会主催のフォローアップ研修に参加し分析法を学習した。また、医療安全管理者会議にて自病院を時系列で発表するまでとなった。</p> <p>(課題)</p> <p>その後の分析は今後の課題となっている。</p> | | |

| | | | | |
|-----|--|------|---|---|
| 156 | | 木曾 | A | (業務の実績) 医療安全会議者会議内で開催した学習会は1回のみであったが、管理者全員が看護協会の研修に参加し、分析法を学んだ。その後、院内の事例を分析してメンバーで検討している。 |
| 157 | | こども | A | (業務の実績) 県立病院医療安全管理者会議において、インシデント事例分析手法（I m S A F E R）を自己学習した。1月の会議より、自病院の事例を分析手法で展開した資料を会議資料として提出し、他病院の医療安全管理者からアドバイス等を受ける事で、知識等を深める事が出来た。 |
| 158 | | 機構本部 | A | (業務の実績) 医療安全管理者会議内でImsaferという分析手法を用いて学習会を実施した。 |
| 159 | ・ 名札に貼付できる研修受講シールを作成し、普及させることにより、職員の医療安全研修の受講促進を図る。 | 機構本部 | A | (業務の実績) 5病院共通のシールを2種類、合計4,000枚作成し、4月当初に各病院へ配布した。 |
| 160 | | 須坂 | B | (業務の実績) ・1月28日 医療安全研修会「院内暴力、暴言への対応」船橋市立医療センター 池田勝紀先生（こども病院配信 参加者40名） ・11月29日 医療安全研修会「ヒューマンエラーの心理学」（須坂病院配信 参加者86名） |
| 161 | ・ テレビ会議システムの活用により医療安全研修の提供を行うとともに、研修内容のDVD化などにより、繰り返し利活用できる体制を整備し、院内研修等で有効に活用する。 | 駒ヶ根 | A | (業務の実績) ・1月28日にこども病院で行われた研修会をテレビ会議システムで視聴したほか、DVDでも延べ4回の研修会を行い、27名の職員が参加した。 ・12月にDVD「実例で学ぶ医療事故」を用いて研修会を3回開催し28名の職員が参加した。 |
| 162 | | 阿南 | A | (業務の実績) ・11月実施した医療安全研修会（メディエーション研修）のDVDを共有サーバーに保存し、当日参加できなかった職員に対して受講を促した。またこども病院で行われた研修会のDVDにより、全職員を対象とした研修会を行う予定である。 |
| 163 | | 木曾 | A | (業務の実績) こども病院開催の防犯対策（暴言・暴力）の研修にTV会議システムを使い参加した。当日参加できなかった職員に対し、DVD研修を実施した。 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|------|---|--|---|---|
| | | | 病院番号 | 中期計画 |
| 164 | <p>ア 医療安全対策の実施</p> <p>病院機構本部に医療安全対策担当を置き、各県立病院と連携を取りながら医療安全対策、医療事故に関する情報の収集・分析を的確に行うほか、病院機構として統一した医療安全管理基本指針を定めるなど、医療安全対策の充実を図る。</p> <p>また、患者や職員を感染症から守るため、県立病院間で情報の共有化を図りながら、有効な院内感染の発生予防対策や、発生時における拡大防止対策を推進する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> テレビ会議システムの活用により医療安全研修の提供を行うとともに、研修内容のDVD化などにより、繰り返し利活用できる体制を整備し、院内研修等で有効に活用する。 | こども | <p>(業務の実績)</p> <p>平成26年1月28日に当院開催の下記研修を県立5病院へテレビ会議システムで配信し、加えて、研修内容をDVDに収録し各県立病院、機構本部及び県立総合リハビリセンターへ配布した。</p> <p>テーマ：「当院の防犯対策-暴言・暴力に関して-2014版」</p> <p>講師：船橋市立医療センター救命救急センター医長 池田 勝紀 氏</p> |
| 機構本部 | | | <p>(業務の実績)</p> <p>24年度に引き続き、6月29日の「体験型」医療安全研修会、2月4日の医療安全研修会についてDVDに収録等を行い、研修用教材の充実を図った。</p> | |
| 166 | | <ul style="list-style-type: none"> 各県立病院において、感染症発生時の院内及び機構本部並びに関係機関との連絡体制を確認するための伝達訓練を実施する。 | 須坂 | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症対応マニュアルは、25年3月に改訂し職員に配布するとともに電子カルテ上でも参照を可能としている。 情報伝達は、実務の中では常に行われている。 |
| 167 | | | 駒ヶ根 | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症患者発生時の緊急連絡について、保健福祉事務所と伝達方法の手順確認を行った。 緊急連絡先は、「院内感染対策マニュアル」に綴って全部署の見やすい場所に配置し、院内で周知徹底を図るとともに必要に応じて随時更新した。 |
| 168 | | | 阿南 | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに院内感染対策指針を作成し、院内感染対策マニュアルに掲載した。 診療報酬改定を受け、感染防止対策加算の基準をクリアするため、県立木曽病院に働きかけて、合同カンファレンスを実施した。 情報伝達については、マニュアルの「感染症発生時の対応」の章で明文化されており、インフルエンザ発生等の際には役割分担、連絡網に従い、対応をしている。 |
| 169 | 木曽 | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染対策のより一層の推進と院内感染防止の徹底を図るため、「院内感染対策マニュアル」を改訂した。 こども病院、阿南病院と相互にラウンド又は合同カンファレンスを行い、感染対策に係る情報を共有した。 感染症発生時における院内の情報伝達ルートの確認を行った。 | | |

| | | | | |
|-----|---|------|---|---|
| 170 | | こども | B | (業務の実績) ・関係各所には必要時に連絡を行う体制とし、実務の中では常に行われている。 ・機構本部および外部関係機関に報告を必要とする院内感染症の事例は発生しなかった。 |
| 171 | | 機構本部 | C | (業務の実績) 各病院において必要な伝達訓練等は随時行実施されたが、院内及び機構本部並びに関係機関との連絡体制を確認するための伝達訓練は実施されなかった。 (課題) 感染症発生時に限らず、災害発生時などを想定した伝達訓練は、実施の必要性が高いことから、実施方法等について早急に検討の上訓練を実施する。 |
| 172 | ・ 感染防止地域連携病院との相互視察を実施する。(こども病院) | こども | B | ・連携している木曽病院と信州大学病院との間で感染防止対策地域連携の相互ラウンドを実施した。 |
| 173 | ・ 病院勤務医等の負担軽減及び薬物療法の有効性、安全性の向上を図るため、病棟において薬剤師が実施する薬剤関連業務を積極的に展開する。(こども病院) | こども | B | (業務の実績) 全病棟において病棟薬剤業務を開始することができ、患者の持参薬の確認、医薬品に関する情報提供等実施することで薬物療法の有効性、安全性の向上に貢献できた。(3月から全病棟で4時間以上実施) (課題) 薬剤科の他の業務との時間調整等が難しい状況であり、十分な実施時間を確保することが課題である。 |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(1) より安心で信頼できる医療の提供

| | |
|------|---|
| 中期目標 | <p>イ 患者中心の医療の実践 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる医療サービスを提供すること。 患者に対する十分な説明と同意（インフォームド・コンセント）に基づいた医療サービスを提供するとともに、クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した日程表）の適用を進め、患者や家族の負担軽減を図りながら効果的な治療を行うこと。 また、患者が安心できるセカンドオピニオン（診断や治療方法について主治医以外の医師の意見を聞くこと。）の実施に努めること。</p> |
|------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|---|------|----------|---|
| | | | 病院 | 評価 説明 | |
| 174 | <p>イ 患者中心の医療の実践 質の高い医療・看護を行うため、チーム医療の推進や看護体制の充実を図る。 患者やその家族が十分な理解と信頼のもとで検査・治療が受けられるようにするため、インフォームド・コンセント（患者に対する十分な説明と同意）の一層の徹底を図る。 患者の負担を軽減するとともに、最も効果的な医療を提供するために、EBM（科学的な根拠に基づく医療）を推進し、各県立病院の状況に即したクリニカルパス（入院患者の治療計画を示した日程表）の適用を進める。 患者が主治医以外の医師の意見・判断を求めた場合に適切に対応できる、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> | <p>イ 患者中心の医療の実践 県立病院に来院される方が気持ちよく病院を利用いただけるよう、利用者へのあいさつを徹底（あいさつ運動の実施）するなど、患者対応の向上を図る。 また、患者にとって分かりやすい説明が行えたり、より深く患者の気持ちが理解できるなど、患者サービス向上や職員の資質向上を図るための接遇研修会を実施する。</p> | 須坂 | A | <p>（業務の実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年间接遇標語を「「ありがとう」心をつなぐ魔法の言葉」とした。 8月6日 職員接遇研修会 「患者対応事例で振り返る接遇の問題点」～患者さま（ご家族）に対する“言葉”を考える～（講師：株式会社医療タイムス社 浅羽 恵氏） 参加者101名 あいさつ運動 第1回：9月9日から13日 第2回：11月11日から15日 接遇委員会ロールプレイング研修 第1回：7月18日 第2回：12月19日 いいところ探し発表会 12月2日から12月19日 南棟2階連絡通路に掲示し患者にもアピールした。 ていねいに話しましょう運動 12月24日から27日 9月 須坂病院マナーブックを再周知した。 病院共通アンケート（488件）の結果で職員の対応について「やや不満」「不満」が13%だったことから、「利用する側は、1つの不満・不安がずっと忘れられない。ずっと覚えている。そうならないように気をつけなければならない」と接遇委員会で意見交換を行った。 <p>（課題） 研修会等の組織内における、さらなる定着が求められている。</p> |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|---|
| 175 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇委員会において毎月「接遇標語」を作成し、院内へ掲示を行った。 ・ あいさつ運動を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 1回目：7月17日～7月26日 参加者 職員20名 2回目：11月18日～11月29日 参加者 職員20名 3回目：3月10日～3月20日 参加者 職員18名 ・ 院内接遇研修回を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 1回目：10月9日（講師富永医師） 参加者 職員42名 2回目：2月12日（ロールプレイ2題） 参加者 25名 ・ 院内の電話対応についてマニュアルを作成した。 |
| 176 | | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護部中心にあいさつ運動を実施しており、患者サービス向上や職員の資質の向上のための接遇研修会を2回実施した。 |
| 177 | | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サービス向上委員会が中心となって、隔月で週2日間、朝の時間帯に利用者へのあいさつ運動を実施した。 ・ 接遇研修を外部講師を招き年2回開催した。4月は新規職員を対象とし、2月は全職員を対象として実施した。 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|---|------|------|--|
| | | | 病院番号 | 中期計画 | |
| 178 | <p>イ 患者中心の医療の実践 質の高い医療・看護を行うため、チーム医療の推進や看護体制の充実を図る。 患者やその家族が十分な理解と信頼のもとで検査・治療が受けられるようにするため、インフォームド・コンセント（患者に対する十分な説明と同意）の一層の徹底を図る。 患者の負担を軽減するとともに、最も効果的な医療を提供するために、EBM（科学的な根拠に基づく医療）を推進し、各県立病院の状況に即したクリニカルパス（入院患者の治療計画を示した日程表）の適用を進める。 患者が主治医以外の医師の意見・判断を求めた場合に適切に対応できる、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> | <p>イ 患者中心の医療の実践 県立病院に来院される方が気持ちよく病院を利用いただけるよう、利用者へのあいさつを徹底（あいさつ運動の実施）するなど、患者対応の向上を図る。 また、患者にとって分かりやすい説明が行えたり、より深く患者の気持ちが理解できるなど、患者サービス向上や職員の資質向上を図るための接遇研修会を実施する。</p> | こども | A | <p>（業務の実績）</p> <p>○あいさつ運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月～10月の半年間 第1月曜日 職員対象に実施 ・4月～1年間 第1月曜日 患者さん対象に実施 <p>各病棟および部門から職員を選出。あいさつ運動に参加した職員からのアンケート調査結果ではあいさつ運動への肯定的な意見が多く出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すてきなあいさつができる職員を表彰する目的で「すまいるさん投票」を行なった。全職員対象に行250票以上の投票から1位から3位の職員を表彰した。日頃よりお手本となる職員が選ばれ、多少なりとも笑顔やあいさつに対してアピールすることができた。 <p>○接遇研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月 「肯定的な話し方」（参加者60名） <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは意識的にできる職員が増えたと感じるが、外部からの評価も必要かと考える。「すまいるさん投票」など職員が楽しんで取り組める企画を行い、根気強く活動していきたい。 |
| 179 | | | 機構本部 | A | <p>（業務の実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月：実施内容の検討及び各病院へ実施について周知 ・5～3月：各病院において実施内容の検討及び取組 |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|--|
| 180 | | | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルパスは、2,052人(全患者数 7,596人)に適用し適用率は27.0%であった。 ・5月30日にクリニカルパス大会を開催 参加者：61名 発表テーマ：11題 ・セカンドオピニオン外来を1名受け入れ |
| 181 | | <p>クリニカルパス(入院患者の治療計画を示した日程表)の活用及びセカンドオピニオン体制の充実に向けた検討を進める。</p> | 駒ヶ根 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月17日に、新人対象クリニカルパス学習会を開催した。当センターで使用しているパスの紹介と使用方法について説明を行い、パスの活用を促した。 ・9月にアルコール依存症に対するパスについて見直しを行い、コメディカルの意見を反映させ、より使いやすいパスへ修正をした。 ・10月から、今まで紙ベースで運用を行っていた薬物依存症パスを、電子カルテで使用できるようにし、依存症病棟(A2)にて運用を開始した。 ・10月15日から11月15日までの間を「クリニカルパス使用強化月間」と定め、使用率の向上に取り組んだ(強化月間前8月1日から31日までの使用率：38.9%、強化月間中の使用率：79.5%)。 ・1月21日に「クリニカルパスを使い続ける為の工夫」について多職種が集まりグループワークを実施した。24名が参加し、意見交換を行えた事により、パスに対する今後の検討課題を把握できた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修正型電気けいれん療法(m-ECT)の電子カルテシステム用パスの作成。 ・新たなパス作成について検討すると共に、既存のパスについても見直しを行い、より使いやすいパスになるよう検討を行う。 ・セカンドオピニオン体制の導入に向けた検討を行う。 |
| 182 | | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の診療所などとの「へき地看護研修会」において地域連携クリニカルパスの整備について継続して検討を行った。 ・経営企画会議での問題提起を受け、コアメンバー会議およびクリニカルパスWGを開催し、電子カルテ化に対応した白内障パスを標準としたセット化、及び新規採用の検討を行った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の当院の専門性のレベルでは、セカンドオピニオン外来の受入は困難であるため、当面は紹介に関する情報提供を行っていく。 ・眼科が紙カルテ運用なので、電子カルテとパスとの完全リンクは困難である。 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|--|------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 183 | イ 患者中心の医療の実践 質の高い医療・看護を行うため、チーム医療の推進や看護体制の充実を図る。 患者やその家族が十分な理解と信頼のもとで検査・治療が受けられるようにするため、インフォームド・コンセント（患者に対する十分な説明と同意）の一層の徹底を図る。 | クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した日程表）の活用及びセカンドオピニオン体制の充実に向けた検討を進める。 | 木曾 | B (業務の実績) ・現在は紙運用で行っているクリニカルパスを電子カルテ運用に移行するための検討を行った。 ・セカンドオピニオンについては、平成25年1月から受付を開始しており、平成25年度には1件（H24年度1件）の相談があった。 |
| 184 | 患者の負担を軽減するとともに、最も効果的な医療を提供するために、EBM（科学的な根拠に基づく医療）を推進し、各県立病院の状況に即したクリニカルパス（入院患者の治療計画を示した日程表）の適用を進める。 患者が主治医以外の医師の意見・判断を求めた場合に適切に対応できる、セカンドオピニオン体制の充実を図る。 | このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組みを進める。 (ア) 須坂病院 ・ 質の高い医療・看護を提供するため、7対1の看護体制を維持する。 ・ セカンドオピニオン外来を充実する。 ・ 夕暮れ総合診療、日曜眼科緊急診療を引き続き実施する。 | こども | B (業務の実績) ・ 現在53件のクリニカルパスが稼働中であり、今年度は、電子カルテパスを4件新規で稼働させた。 ・ セカンドオピニオン外来の受診は9件であった。 |
| 185 | 患者が主治医以外の医師の意見・判断を求めた場合に適切に対応できる、セカンドオピニオン体制の充実を図る。 | このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組みを進める。 (ア) 須坂病院 ・ 質の高い医療・看護を提供するため、7対1の看護体制を維持する。 ・ セカンドオピニオン外来を充実する。 ・ 夕暮れ総合診療、日曜眼科緊急診療を引き続き実施する。 | 須坂 | A (業務の実績) ・ 7対1看護基準を維持するために、パート職員の採用や、外来看護師の可能な範囲での病棟勤務を行うなどの努力を行った。また、看護師が行っていた採血については可能な範囲で臨床検査技師が行うこととしたほか、4階病棟、6階病棟へ薬剤師を配置するなどの協力体制を維持した。 ・ セカンドオピニオン外来 1人 ・ 夕暮れ総合診療： 1,048人 ・ 日曜眼科救急診療 31人 (課題) 7対1看護基準を維持するための取組の継続 |
| 186 | 患者が主治医以外の医師の意見・判断を求めた場合に適切に対応できる、セカンドオピニオン体制の充実を図る。 | (イ) 阿南病院 ・ 10対1看護基準を維持しつつ、看護必要度評価加算の届出算定を引き続き行う。 ・ クリニカルパスの見直しや新規策定の推進により、患者が理解しやすい治療計画を提供する。 ・ 電子カルテの導入に合わせ院外処方箋の発行を推進し、薬剤科業務の一部を入院薬剤管理指導、訪問薬剤指導業務にシフトさせ、安全な薬物治療の推進に寄与する | 阿南 | A (業務の実績) ・ 患者数は伸びたが、看護師の配置に問題なく10対1看護基準が維持できている状況にある。 ・ クリニカルパスは該当となる症例が少なく、白内障OP、PEG交換の2例で運用している。 ・ 電子カルテの導入に合わせ院外処方箋の発行を推進し、80%を上回る院外処方箋率となった。薬剤科業務の一部を入院薬剤管理指導、訪問薬剤指導業務にシフトさせ、安全な薬物治療の推進に寄与するよう体制整備を検討している。 |

| | | | | |
|-----|--|---------|---|--|
| | | | | (課 題) 7対1看護基準は算定要件が満たせず、現状では取得が困難である。 現行の看護体制を安定的に維持することとしたい。 |
| 187 | (エ) 木曽病院 ・ 医師をリーダーとした診療科別のBSC (バランス・スコアカード)の展開の充 実を図り、チーム医療を推進する。 | 木 曽 | B | (業務の実績) 年度当初に、前年度のBSCの評価を行うとともに当年度のBSCを 作成し、運営委員会において発表を行った。BSCの作成により、診療 科ごとの目標とアクションプランが明確となり、チーム医療の推進が図 られた。 (課 題) BSCの取組の充実とチーム医療の一層の推進 |
| 188 | (オ) こども病院 ・ セカンドオピニオン外来を充実する。 ・ 3Dモデル造形センターが製作する頭蓋 骨等の3Dモデルを活用した手術前シミュ レーション・患者への事前説明等を実施す るなど医療サービスの向上を図る。 | こ ども | A | (業務の実績) ・ 25年度は、セカンドオピニオン外来に対する問い合わせは12件あり、 うち9件が同外来の受診に至った。 ・ 他院にセカンドオピニオンを希望し、患者支援・地域連携室で調整を 行った事例は5件であった。 ・ 3Dモデル造形センターの業務紹介を病院ホームページに紹介し検索 し易くした。県内外から9件の作製依頼があり、その内訳は歯科が3件、 放射線科が3件、整形外科が2件、耳鼻科が1件、前年比24%増であった。 造形モデル作製材料(コーティングボンド等)の検討を行い硬さ、切 削等を検討費用削減に貢献出来るか検討中 ・ 院内からの造形依頼件数は12件であった。 ・ 全国の脳神経外科&形成外科医が集まるCrniosynostosis研究会世話人 施設へPR文書&施設紹介文書を送付。(123再掲) (課 題) ・ 病院HP及び広報紙掲載等による広報活動及び材料費の削減検討 (123再掲) |

- ・ 急性期から維持期・慢性期への移行期を担う専門病棟として、休止中の南7階病棟の一部を再開する。(須坂 5再掲)
- ・ 入院患者に対する土曜日のリハビリテーション及び栄養指導を継続して実施する。(須坂 5再掲)
- ・ 地域の高齢者のニーズに対応し、訪問リハビリテーションを充実する。(須坂 5再掲)
- ・ 入院患者の退院支援や在宅患者等の社会復帰を促進するため、多機能デイケアの導入による精神科デイケア機能の充実を図る。(駒ヶ根 39再掲)
- ・ 多機能デイケア、訪問看護の充実や関係者との支援会議の開催など、多職種によるチーム医療の構築・展開を進め、外来医療の充実を図る。(駒ヶ根 38再掲)
- ・ 多職種チームによる訪問ケアの実施によりアウトリーチ活動の充実を図る。(駒ヶ根 39再掲)
- ・ 入院患者に対する休日を含めた集中的な急性期リハビリを実施する。(木曽 16再掲)
- ・ がん相談支援センターによる、相談・情報提供機能の充実を図る。(木曽 66再掲)
- ・ 先天性心疾患の術後成人患者に対する利便性を確保するため、専門外来を新設する。(こども 48再掲)

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(1) より安心で信頼できる医療の提供

| | |
|------|--|
| 中期目標 | ウ 適切な情報管理 長野県個人情報保護条例及び長野県情報公開条例に基づき適切な情報管理を行うこと。 特にカルテなどの個人情報の保護を徹底するとともに、患者及びその家族への情報開示を適切に行うこと。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|------|----|---|
| | | | 病院 | 評価 | |
| 189 | ウ 適切な情報管理 長野県個人情報保護条例（平成3年長野県条例第2号）及び長野県情報公開条例（平成12年長野県条例第37号）の実施機関として、条例に基づいた適切な情報管理を行うとともに、病院機構として個人情報保護規程を定めて、カルテなどの個人情報の適正な取り扱いに万全を期す。 また、患者及びその家族への情報開示を適切に行う。 | ウ 適切な情報管理 個人の権利利益の保護と併せ、県民の情報公開を求める権利に配慮して、長野県個人情報保護条例及び長野県情報公開条例に基づいた適切な情報管理を行う。 | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者等から診療情報提供の依頼があった場合には、個人情報を取り扱う観点から厳正に申出者の資格確認を行い、速やかに対象となる情報を特定して提供できるよう努めている。また、審査にあたっては関係法令等に照らし、全部提供することにつき問題がないかどうかという視点で慎重に判断している。 平成25年度取扱件数：17件（対前年度比 7件減） <p>(課題)</p> <p>今後も個人情報保護及び情報公開関係法令等の改正に応じて、適宜マニュアル等の見直しを行っていく必要がある。</p> |
| 190 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の診療録については、診療情報管理士が中心となって適切な保管及び保管場所での整理を行った。 長野県個人情報保護条例に基づくカルテ開示請求は5件、自己情報開示請求は1件あり、同条例及び県立病院等における個人情報の保護に関する指針に基づき情報公開を行った。 <p>(課題)</p> <p>電子化した個人情報の管理について、情報セキュリティ研修会等の機会を活用して職員への周知を引き続き徹底する。</p> |

| | | | | | |
|-----|--|---|------|---|---|
| 191 | | | 阿南 | A | (業務の実績) ・25年度は情報公開の請求はなかった。 ・電子カルテシステムの稼働に対応した規程を整備し、プリントアウト権限を特定職員に限定するなど適正な情報管理に努めている。 |
| 192 | | | 木曾 | B | (業務の実績) ・2件の診療情報提供の申請があり、指針に基づき情報開示を行った。 |
| 193 | | | こども | A | (業務の実績) 19件の診療情報提供の申請があり、指針に基づき情報開示を行った。 |
| 194 | | | 機構本部 | A | (業務の実績) ・10月：5病院及び本部にて研修会を開催(計12回 参加人数631名) ・前年度受講済者も合計すると、1,500名もの職員が受講。 |
| 195 | | 個人情報の適正な取扱いを継続していくために、全職員を対象とした研修を実施する。 | 須坂 | A | (業務の実績) 10月10日 全職員を対象とした「院内情報セキュリティ研修会」を開催した。参加者 63名 |
| 196 | | | 駒ヶ根 | A | (業務の実績) 全職員を対象として、個人情報の適正な取扱いに関する研修会を開催した。 ・実施月：10月 ・回数：延べ6回 ・参加者：参加者150名、未参加者10名 ・その他：患者情報の漏洩を防止するために、電子メールや個人のSNS利用の注意点についても研修内容に含めた。 (課題) 退職者を除く未参加者(7名)に対する研修の実施 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|---|---|---|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 197 | ウ 適切な情報管理 長野県個人情報保護条例（平成3年長野県条例第2号）及び長野県情報公開条例（平成12年長野県条例第37号）の実施機関として、条例に基づいた適切な情報管理を行うとともに、病院機構として個人情報保護規程を定めて、カルテなどの個人情報の適正な取り扱いに万全を期す。 また、患者及びその家族への情報開示を適切に行う。 | 個人情報の適正な取扱いを継続していくために、全職員を対象とした研修を実施する。 | 阿南 | A (業務の実績) ・本部主催の研修会に参加するとともに、欠席した者に対しては資料の配布により周知した。 ・「電子カルテ管理運用規定」により外部接続、USB接続の禁止等を徹底している。 ・システムエンジニアによりPC関係の管理を徹底している。 |
| 198 | | | 木曾 | A (業務の実績) 初任者、転勤者を含む全職員を対象とした情報セキュリティ研修会を開催した。また、研修の未受講者に対しては、別の日にビデオ視聴会を数回に分けて開催し、最終的に職員の7割程度が受講した。 |
| 199 | | | こども | A (業務の実績) ・4月の新規入職者のオリエンテーションにおいて、個人情報に関する研修を実施した。 ・年度途中の入職者については、随時研修を実施した。 ・個人情報を扱う委託業者、事務部職員にも研修を実施した。 |
| 200 | | | 機構本部 | A (業務の実績) ・10月：5病院及び本部にて研修会を開催（計12回 参加人数631名） ・前年度受講済者も合計すると、1,500名もの職員が受講。 |
| 201 | | | 須坂 | A (業務の実績) 10月10日 全職員を対象とした「院内情報セキュリティ研修会」を開催した。参加者 63名 |
| 202 | | 駒ヶ根 | A (業務の実績) 全職員を対象として、情報セキュリティに関する研修会を開催した。 ・開催月：10月 ・回数：延べ6回 ・参加者：参加者150名、未参加者10名 ・その他：患者情報の漏洩を防止するために、電子メールや個人のSNS利用の注意点についても研修内容に含めた。 (課題) 退職者を除く未参加者（7名）に対する研修の実施 | |

| | | | | |
|-----|--|------|---|---|
| 203 | | 阿南 | A | (業務の実績) ・本部主催の情報セキュリティ研修会に参加するとともに、欠席した者に対しては資料の配布により周知した。 ・新規入職者向けの研修会においても情報セキュリティの研修を実施した。 |
| 204 | | 木曾 | A | (業務の実績) 初任者、転勤者を含む全職員を対象とした情報セキュリティ研修会を開催した。また、研修の未受講者に対しては、別の日にビデオ視聴会を数回に分けて開催し、最終的に職員の7割程度が受講した。 |
| 205 | | こども | A | (業務の実績) 機構本部主催の情報セキュリティ研修会を10月9日、21日に開催した。 受講者総数318名、受講率79.2%。 (課題) 2年間で全職員の受講を目指す。24年度の72名と合わせて429名が受講済み。H25年末受講者95名 |
| 206 | | 機構本部 | A | (業務の実績) ・10月：5病院及び本部にて研修会を開催(計12回 参加人数631名) ・前年度受講済者も合計すると、1,500名もの職員が受講。 |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(1) より安心して信頼できる医療の提供

| | |
|------|--|
| 中期目標 | エ 電子化の推進 医療の質的向上や安全性向上のため、電子カルテシステムを順次導入し、業務の電子化を進めること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|--|----------|---|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 207 | エ 電子化の推進 医療の質的向上や安全性向上のため、システム更新時や改築時期等に併せて、電子カルテシステム等の導入・更新を順次進め、病院の電子化を図る。 なお、システムの導入・更新に当たっては、互換性・経済性を考慮し、可能な限り共通化を図る。 | エ 電子化の推進 阿南病院では、電子カルテシステムの購入契約を受けて、システム開発、運用検討、操作訓練などを行い、平成25年10月の円滑な本稼働を目指す。 | 阿南・機構本部 | A (業務の実績) 24年12月に(株)富士通と契約を締結し、25年9月30日にシステムを本稼働させた。導入当初のユーザアンケートでは看護部門からの不満も伺えたが、稼働半年間で主だったシステム障害の発生はなくほぼ安定的に運用されている。 (課題) 訪問部門と巡回診療では、モバイル端末の活用により遠隔診療によるカルテ入力、オーダ発行が可能となっているが、今後インターネット網のとVPN接続による施設遠隔診療の実現が課題である。(経費的な調整が必要である) |
| 208 | | 木曽病院では、平成26年度に更新を予定している電子カルテシステム等について、互換性及び経済性を考慮し、導入業者及び各部門システムの検討を引き続き行う。 | 木曽・機構本部 | A (業務の実績) 平成26年度の電子カルテシステムの更新に向けて公募型提案協議による業者選定を行い、(株)石川コンピュータ・センターと契約を締結した。 (課題) 電子カルテシステム導入に向けての運用検討 |
| 209 | | こども病院では、電子カルテシステムのバージョンを改修し、レベルアップを図る。 | こども・機構本部 | A (業務の実績) 平成26年1月に富士通電子カルテシステム「EG-MAIN GX」のバージョンアップ(2.0⇒5.0)を実施した。カルテ参照及びカルテ入力機能並びに医療従事者間での意思疎通と指示伝達の確実性が向上し、安全・安心な医療の提供に寄与することができた。 (課題) 全職員にバージョンアップされた内容を十分に周知し、業務を効率的に施行できるようにする。また電子カルテシステムの運用における問題点を列挙し次期更新に備える。 |

- ・ 「信州メディカルネット」を活用した、電子カルテシステム患者基本情報等の災害対策用バックアップシステムを、関係者と共に構築する。(該当病院・機構本部 78再掲)

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(1) より安心で信頼できる医療の提供

| | |
|------|--|
| 中期目標 | オ 医療機器の計画的な更新・整備 良質な医療を持続的に提供することができるように、資金計画を策定した上で医療機器の更新・整備を進めること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|--|-------|---------------|--|-------------------|---------------|------------|------|-------------|------|--------------|-------|---------------------|-----|---|---|
| | | | 病院 | 評価 | | | | | | | | | | | | | |
| 210 | オ 医療機器の計画的な更新・整備 安全で質の高い医療を提供するため、将来を見通した資金計画を策定した上で計画的な医療機器の更新・整備を行う。 なお、医療機器の更新・整備に際しては、機能や価格について十分な検討を行うとともに、該当機器の稼働率も考慮する。 | オ 医療機器の計画的な更新・整備 安全で質の高い医療を提供するため、次のとおり医療機器の更新・整備を行うが、特に高額な医療機器については、今後の収支見通しも踏まえ、各県立病院で計画的な更新やリユース・共同利用を行うためのルールづくりを引き続き行う。 なお、医療機器の選定に際しては、医師・医療技術者の代表等から構成される医療器械等審査部会で、仕様やスペックの妥当性や機種統一等の観点からの検討を引き続き行う。 また、前年度導入した医療機器等について、導入後、想定どおりの費用対効果が得られているか医療器械等審査部会で引き続き検証することとし、活用状況が見込みを下回った医療機器等があれば、各県立病院で利用率向上策の検討を行う。 | 須坂 | A | (業務の実績) ・限られた予算の中で、院内で検討を行い優先順位の高いものから購入をしている。機器ごとに適正な仕様書を作成し、適切な入札を実施した。 ・医療機械等審査部会で、仕様やスペックの妥当性や購入した機器の稼働について検証を行った。 (課題) 購入機器等の効果の検証を継続していく必要がある。 | | | | | | | | | | | | |
| 211 | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>県立病院名</th> <th>更新・整備する主な医療機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>須坂病院</td> <td>N I C Uモニタリングシステム</td> </tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td>地域医療連携システム</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>光干渉式眼軸長測定装置</td> </tr> <tr> <td>木曾病院</td> <td>64列全身用X線CT装置</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>M R I (超電導磁気共鳴診断装置)</td> </tr> </tbody> </table> | 県立病院名 | 更新・整備する主な医療機器 | 須坂病院 | N I C Uモニタリングシステム | こころの医療センター駒ヶ根 | 地域医療連携システム | 阿南病院 | 光干渉式眼軸長測定装置 | 木曾病院 | 64列全身用X線CT装置 | こども病院 | M R I (超電導磁気共鳴診断装置) | 駒ヶ根 | A | (業務の実績) ・医療機器の更新・整備にあたっては順次計画的に行っており、平成25年度は地域医療連携システム及び多項目自動血球分析装置等を導入した。 ・直近の平成22年度に導入した全自動錠剤分包機は、当初見込みを22.5%上回る高い稼働率で稼働している。 |
| 県立病院名 | 更新・整備する主な医療機器 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 須坂病院 | N I C Uモニタリングシステム | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こころの医療センター駒ヶ根 | 地域医療連携システム | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 阿南病院 | 光干渉式眼軸長測定装置 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木曾病院 | 64列全身用X線CT装置 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こども病院 | M R I (超電導磁気共鳴診断装置) | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|------|------|---|
| | | | 病院番号 | 中期計画 | |
| 212 | <p>オ 医療機器の計画的な更新・整備</p> <p>安全で質の高い医療を提供するため、将来を見通した資金計画を策定した上で計画的な医療機器の更新・整備を行う。</p> <p>なお、医療機器の更新・整備に際しては、機能や価格について十分な検討を行うとともに、該当機器の稼働率も考慮する。</p> | <p>オ 医療機器の計画的な更新・整備</p> <p>安全で質の高い医療を提供するため、次のとおり医療機器の更新・整備を行うが、特に高額な医療機器については、今後の収支見通しも踏まえ、各県立病院で計画的な更新やリース・共同利用を行うためのルールづくりを引き続き行う。</p> <p>なお、医療機器の選定に際しては、医師・医療技術者の代表等から構成される医療器械等審査部会で、仕様やスペックの妥当性や機種統一等の観点からの検討を引き続き行う。</p> <p>また、前年度導入した医療機器等について、導入後、想定どおりの費用対効果が得られているか医療器械等審査部会で引き続き検証することとし、活用状況が見込みを下回った医療機器等があれば、各県立病院で利用率向上策の検討を行う。</p> | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>医療機器の更新については、必要性などから計画的に行っている。今年度は、眼科において欠かすことのできない「光干渉式眼軸長測定装置」や新たに一次洗浄室を設置したことから「超音波洗浄機」等について仕様等を検討し購入した。</p> |
| 213 | | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>院内の医療機器等購入委員会を中心に医療機器購入の必要性を審査し、現場での必要性を加味しながら計画的に購入を行っている。今年度、地域医療再生事業補助金が適用となったことから、がん医療に係る機器を積極的に購入した。特に320列CT装置については、高額であることから、長期にわたり価格交渉、利用率の向上等について検討を行い、3月に納品、稼働となった。</p> <p>(課題)</p> <p>今後、関係する医療機関等の協力を得て、購入した高価な機器に見合った収入を上げていく。</p> |
| 214 | | | いごも | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 翌年度分の医療機器の購入については、94品目の購入希望に対して、院長ヒアリングを行い、その必要性・緊急性を精査し30品目に絞り込みを行った。 事務部だけでなく、各部署においても業者との価格交渉を行い、一層の支出額の縮減に努めた。 医療機器購入にあたって事前確認及び院内連携が必要な事項について網羅したチェックシートを作成し、各部署でチェックする体制を作った。 更新により不要となった医療機器について、売却を検討するよう院内に周知し、収益に結び付けていく取組みを行った。平成25年度中は、売却により32,550円の収入となった。 <p>(課題)</p> <p>第2期中期計画の中での医療機器更新計画を検討する必要がある。</p> |

| 県立病院名 | 更新・整備する主な医療機器 |
|---------------|---------------------|
| 須坂病院 | N I C Uモニタリングシステム |
| こころの医療センター駒ヶ根 | 地域医療連携システム |
| 阿南病院 | 光干渉式眼軸長測定装置 |
| 木曾病院 | 64列全身用X線CT装置 |
| こども病院 | M R I (超電導磁気共鳴診断装置) |

| | | | | | |
|-----|--|---|------------------|---|--|
| 215 | | <p>オ 医療機器の計画的な更新・整備</p> <p>安全で質の高い医療を提供するため、次のとおり医療機器の更新・整備を行うが、特に高額な医療機器については、今後の収支見通しも踏まえ、各県立病院で計画的な更新やリユース・共同利用を行うためのルールづくりを引き続き行う。</p> <p>なお、医療機器の選定に際しては、医師・医療技術者の代表等から構成される医療器械等審査部会で、仕様やスペックの妥当性や機種統一等の観点からの検討を引き続き行う。</p> <p>また、前年度導入した医療機器等について、導入後、想定どおりの費用対効果が得られているか医療器械等審査部会で引き続き検証することとし、活用状況を見込みを下回った医療機器等があれば、各県立病院で利用率向上策の検討を行う。</p> | 機 構 本 部 | B | <p>(業務の実績)</p> <p>○医療器械等審査部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審査マニュアル及び審査着眼点等について5月10日に審査部会員へ配布した。 ・平成24年度審査案件の変更審査1件及び平成25年度新規審査案件1件の審査については5月21日に審査を行った。 ・平成24年度審査案件の変更審査2件、平成25年度新規案件4件及び平成26年度当初予算案件31件については、10月22日ほか4回審査を行った。 <p>○導入後の機器の検証等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度検証した案件(平成22、23年度導入)の再検証及び平成24年度導入案件の検証を1月10日に実施した。 <p>(課題)</p> <p>引き続き、予算要求時等における検討及び、審査部会において利用実績及び利活用方策の検証などを行う。</p> |
| 216 | | <p>こども病院では、エコーセンターを適切に運営し、超音波検査機器の効率的な運用や計画的な更新を行う。</p> | こ ど も | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコーセンターでは、25年度NICUにCX50、放射線科にNourusを導入し、産科に診療実態に応じた解析ソフトview palを追加導入した。 ・従来のエコー機器の更新・購入体制を廃止し、複数科の医師や技師によるエコー診断装置の評価に基づいて、更新及び購入計画を立てることにより、効率的なエコー装置の購入が可能とするシステムが浸透した。 ・複数の機器について購入交渉を行うことにより、購入価格を抑えることができ、また使用頻度が少ない非効率的な運用の回避につながった。 ・引き続き従来は、計画性がない機器の更新及び購入により、性能が低い診断装置の在庫が多かったが、病院全体における機器の保有状況の把握を可能としたことで、診療に必要な最新の診断装置とソフトウェアの計画的な導入が可能となった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来診療におけるエコー検査件数及び収益の増加をいかに図るのが課題のひとつである。 ・この収益の増加により、さらに有資格の検査技師を増員するとともに、教育の充実が課題である。 ・外来において技師が実施するエコー検査システムの体制の確立 |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(2) 患者サービスの一層の向上

| | |
|----------|--|
| 中期 目標 | ア 診療待ち時間の改善 外来診療・検査等の待ち時間の改善に努め、患者サービスを向上させること。 |
|----------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|---|----------|--|
| | | | 病院 評価 | 説明 |
| 217 | ア 診療待ち時間の改善 毎年、待ち時間調査を実施するとともに、創意工夫により外来診療・検査等の待ち時間の改善に取り組む。 また、患者が待ち時間中に利用できる院内アメニティーの改善を検討する。 | ア 診療待ち時間の改善 各県立病院において待ち時間調査を実施し、実態を踏まえた改善につながる取り組みを行う。 また、検査機器の効率的な運用により検査待ちの改善を図る。 待合室、トイレ等の院内アメニティーの環境美化を推進する。 | 須坂 | A <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営企画室会議で各診療科外来診察待ち時間、診察開始時間、会計待ち時間について調査分析（電子カルテデータ、診療開始時間の立会調査）を継続（4月11日、5月16日、5月30日、6月27日、8月8日、8月29日）した結果、内科、整形外科、眼科の待ち時間が減少傾向となった。 ・透析患者の待合環境の改善のため待合室の改築を行った。 ・10月7日 院内の採光スペースを庭園に整備 「患者さん、来院者の心を癒したり、落ち着いた気持ちになってほしい」との思いで須坂園芸高等学校造園技術コース2年生が、瀬戸内海をイメージした庭園を造成した。続いて北棟入口通路脇にも庭園を造成し、クリスマスのイルミネーションなどに利用しています。 ・年間を通じて実施した「病院共通アンケート」データ（件数 488件）をもとに委託業者と意見交換を実施し、患者・利用者サービスの向上が図っている。 ・料理長の変更による質の改善とメニューの変更によって、レストランの利用が20%増加した。 ・売店の営業時間の延長、顧客への情報提供の強化、品ぞろえの改善を行うこととなった。 ・ボランティアとの意見交換によって、バスの待合からでも容易に確認できる大型時計を病院正面入り口に設置した。 ・清掃業者は、前年増やしたトイレの清掃回数を継続的に取り組んでいる。 ・院内の危険個所の点検や防火扉等の状態を随時行った。 <p>(課題) 改善した内容の維持継続が求められている。</p> |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|--|
| 218 | | | 駒ヶ根 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1月17日から23日までの5日間、患者満足度調査の中で待ち時間調査を行い、3月の病院運営会議で結果報告を行った。平成25年5月に非常勤医師採用による外来診療態勢強化により、待ち時間の減少(24年度調査 平均35分⇒25年度平均25分)につながった。 外来待合の植木鉢の管理や掲示物の整理等を行い、環境美化に努めた。 トイレに荷物置き場を設置し、利便性の向上を図った。 <p>(課題)</p> <p>予約外の患者の適切なトリアージの実施や、待ち時間を有効に利用してもらうための工夫を検討する必要がある。</p> |
| 219 | | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査の中で待ち時間への満足度を評価した。 25年度は、本館棟の改築工事の完成により、院内アメニティーの向上及び環境美化が図られた。 25年10月の電子カルテシステムの稼働に合わせて、予約制を拡大し、また電光掲示板による院内情報や休診案内、薬の引き渡し案内等によりサービスの向上を図った。 院内掲示物について、整理し、集約化を図った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 予約制の運用に関する院内での情報共有 電子カルテを使わない一部診療科でサービス機能が低下していること。 |
| 220 | | | 木曾 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年度1回患者待ち時間調査を実施し、結果を運営委員会で報告し職員に周知している。 サービス向上委員会において院内掲示物等の整理を行った。 |
| 221 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテデータを活用し12月9日と16日の2週間、曜日毎・診療科別に待ち時間調査を実施した。 平均ではほぼ30分以内の結果であった。 外来看護師が待ち時間表示を行なったことで、クレームは減っている。 会計での待ち時間調査を実施、結果分析から業務改善を行なった。 臨床検査システムの更新により検査進捗状況把握と時間管理が容易となり、検査所要時間の分析が可能となった。生理検査システムの導入により、脳波検査結果がペーパーレスとなり、オーダーと連携した迅速な結果参照 |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | <p>が可能となった。</p> <p>また、MRIの更新により、検査効率が向上し待ち時間短縮を図るとともに、検査枠を7枠から8枠を増やして患者の利便性向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内掲示版及び掲示物等の整理を行い、患者にわかりやすい広報に努めた。 ・第5病棟の床の張り替え工事を行い、環境の改善を図った。 ・不足する院内駐車場の拡張工事（職員用17台、患者用2台）を行い、患者の利便性向上を図った。 <p>(課題)</p> <p>待ち時間調査結果の分析に課題を残した。平均時間は出るものの、患者一人一人に様々な背景があり一概に数字だけで評価ができない。患者満足度調査結果もあわせて、評価する必要がある。</p> |
|--|--|--|--|--|

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(2) 患者サービスの一層の向上

| | |
|----------|--|
| 中期 目標 | イ 患者の満足度の向上 患者を対象とした満足度調査を定期的に行い、患者サービスの改善に努めること。 |
|----------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|--|------|----|---|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 222 | | | 須坂 | B | (業務の実績) 調査方法の共通化の検討等を行った後、機構本部が集計作業等を一括業者に委託する形態で実施した。 (課題) 結果の迅速なフィードバック。 |
| 223 | イ 患者の満足度の向上 来院者の立場に立った、心のこもった接遇が実践できるための研修会を行う。 入院患者、外来患者を対象とする患者満足度調査を毎年度実施し、患者サービスの向上に活かす。 | イ 患者の満足度の向上 入院患者、外来患者を対象とする患者満足度調査については、可能な限り5病院間の共通化などを進めた上で、引き続き実施する。 | 駒ヶ根 | A | (業務の実績) 患者満足度調査（外来は1月17日から23日までの5日間、入院は1月20日から2月19日まで）を行い、3月の病院運営会議で結果報告及び対策の検討を行った。調査項目については5病院で共通化を進め、外来16項目、入院8項目で共通化を行った。 (課題) 入院患者については、調査期間が短かったため35件のみの回答だったため、26年度は、調査期間を延長し、より多くの入院患者さまの意見をいただき、病院運営に生かしたい。 |
| 224 | | | 阿南 | A | (業務の実績) 本部統一の患者満足度調査を3月中旬に6日間実施し、外来患者287名、入院患者21名から回答を得た。 (課題) ・調査の時期が正面玄関、外構工事の完成以前であったことから、駐車場やアメニティに関する不満が散見されが、医療内容や接遇、サービス面では満足度の高い回答が得られた。 |

| | | | | |
|-----|---|------|---|---|
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者やADLの低い患者から有効な回答を得るために、調査項目等の簡素化の検討が必要ではないか。 |
| 225 | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>年1回患者満足度調査を実施しているが、今年度は5病院共通の患者満足度調査を実施した。</p> |
| 226 | | こども | B | <p>(業務の実績)</p> <p>○24年度の患者満足度調査の実施結果を基に各所属で接遇改善などの取組を進めた。平成25年度の患者満足度調査は3月に実施し、調査結果が26年4月に出されたことから、今後分析等を実施する予定</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施時期の検討。年度内に結果が出され評価できるよう実施する。 |
| 227 | | 機構本部 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5から8月 各病院に実施方法等について周知、各病院の意向等の確認 ・12月まで 各病院と質問項目の統一化、質問票の作成 ・2月 委託業者と契約締結、質問票の印刷 ・3月 独自に実施しているこころの医療センター駒ヶ根を除く4病院で満足度調査の実施 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自に実施しているこころの医療センター駒ヶ根との共通化の検討。 ・26年4月以降に結果報告会を開催し、病院ごとに改善活動を行う。その後、各病院の評価及び今後の取組について理事会等で報告する予定。 |
| 228 | こども病院では、子どもや家族に心理的社会的支援を提供するチャイルド・ライフ・スペシャリストや、患者サイドに立って誠実に情報提供や相談等に対応し、医療者との間では中立的立場で対話を促進する医療相談員(医療メディエーター)により、患者サービスの向上に努める。 | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイルド・ライフ・スペシャリストについては、他職種とチームを作り、外来、病棟において患児と家族が安心して納得して医療を受けられるよう、日々の実践をしている。25年度のチャイルド・ライフ・スペシャリストの活動実績は1479件となっている。 ・チャイルド・ライフ・スペシャリストの役割、存在が院内でも理解されるようになり、依頼件数も増加している。 ・病院においては、医療メディエーターの役割が大きく、日々患者家族と対応する職員にとってもその存在は有効であることから、毎月管理者を含めての検討が行われた。中立的立場で患者家族だけでなく、職員からの相談件数も多い状況にある。25年度の活動実績は197件となっている。 <p>(課題)</p> <p>チャイルド・ライフ・スペシャリストに関しては、依頼件数が増加する中で、どのように効率的に業務をこなしていくかが課題となっていく。</p> |

- ・ 来院される方が気持ちよく病院を利用いただけるよう、利用者へのあいさつを徹底するなど、患者対応の向上を図る。(5病院・機構本部 174～179再掲)

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(2) 患者サービスの一層の向上

| | |
|------|---|
| 中期目標 | ウ 患者の利便性向上 クレジットカードによる料金支払いやコンビニエンスストアでの料金収納など、患者の利便性の向上に資する取り組みを行うこと。 また、ホームページ等を通じて病院情報を積極的に公開すること。 |
|------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|---|------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 229 | ウ 患者の利便性向上 クレジットカードによる決済方式を順次導入するほか、コンビニエンスストアでの料金収納を導入する。 来院者があらかじめ県立病院に関する情報を容易に入手し、安心して県立病院を利用できるように、ホームページ上における診療情報等を充実させる。また、市町村の広報誌など各種媒体を活用して病院情報の積極的な広報に努める。 | ウ 患者の利便性向上 病院利用者がインターネットを通して病院の診療情報等を容易に入手できるように、手術件数やクリニカルインディケータ（臨床評価指標）を広く県民にアピールするなど、各県立病院のホームページの充実及び診療案内の作成を積極的に行う。 また、テレビCM等各種媒体を活用した県立病院機構及び県立病院の広報を積極的に行う。 | 須坂 | A (業務の実績) ・経営企画室会議において診療実績のホームページ掲載を議論し、以下の内容を掲載した。(12月24日から掲載 閲覧数519) 「年齢階層別退院患者数」「疾病大分類別退院患者数」「地域別退院患者の割合」 「地域別、年度別退院患者数」「診療各科実績・入院化学療法件数」 「患者満足度調査結果」 ・興味を引く「看護師ブログ」のため、看護師の新入職員に対して行った就職活動アンケートを参考資料として9月12日にリニューアルオープンしiPadにて維持管理している。(閲覧数約1200件) ・実施した広報活動について 月刊誌：「長野こまち」への掲載 TV・ラジオ：「お天気フィラー」「須高ケーブルテレビ」 新聞：「須坂新聞」への掲載 その他：「県立図書館カバー」「須坂市便利帳」「広報すぎか」他 (課題) 費用対効果を常に考慮した対応 |
| 230 | | | 駒ヶ根 | B (業務の実績) ・ホームページを随時更新し、各種統計や患者満足度調査の結果等の情報提供を行った。デイケア・作業療法の活動表、公開講座等の情報を随時掲載し、情報発信を行っている。 ・患者が、より見やすくわかりやすくなるように入院案内の改訂を行った。 |

| | | | | |
|-----|--|-----|---|--|
| | | | | (課 題) クリニカルインディケーターについてより多くの情報を提供するよう検討する。 |
| 231 | | 阿南 | A | (業務の実績) ・ 広報活動については、阿南町等の広報誌に診療情報等を毎月掲載した。また、中日新聞長野県版に「長寿日本一長野県」として阿南病院の特色や地元の長寿に向けた取り組みなどをPRした。 ・ 手術件数やクリニカルインディケーターの公表については、診療情報管理士連絡会などにおいてホームページへの掲載等について検討している。 (課 題) ・ 死亡率の公表など一律に行うことは妥当であるのか。 ・ 臨床指標の公表により患者が病院に対してポジティブな目を向けられるようではない。 |
| 232 | | 木曾 | B | (業務の実績) ホームページは改装を行うなど見やすさを向上させるため、随時更新しているが、手術件数やクリニカルインディケーターの掲載方法については、他の病院の状況などについて研究中である。 |
| 233 | | こども | B | (業務の実績) ・ 7月ホームページのリニューアルを実施した。 ・ 「診療の案内H25年度版」を作成し、5月から6月に県内及び近県の病院を訪問し配布をするとともに、当院の広報及び連携強化を図った。 ・ 診療体制や公開講座などの周知事項をホームページでリアルタイムに発信した。 ・ 6月29日テレビ特別番組「支えられ共に歩んだ20年～長野県立こども病院」を放映し、こども病院のテレビCMを放映した。 ・ 病院だよりである「しろくまニューズレター」の発行回数を年4回から6回（2箇月に1回）に増やし広報活動に努めた。 ・ 診療情報管理士会において、クリニカルインディケーターの項目についての検討を行い機構ホームページに掲載を行った。 (課 題) ・ ホームページ更新作業者の複数化 ・ 平成26年度にQ I（医療の質）についての検討を行う予定 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|------|------|---|
| | | | 病院番号 | 中期計画 | |
| 234 | <p>ウ 患者の利便性向上</p> <p>クレジットカードによる決済方式を順次導入するほか、コンビニエンスストアでの料金収納を導入する。</p> <p>来院者があらかじめ県立病院に関する情報を容易に入手し、安心して県立病院を利用できるように、ホームページ上における診療情報等を充実させる。また、市町村の広報誌など各種媒体を活用して病院情報の積極的な広報に努める。</p> | <p>ウ 患者の利便性向上</p> <p>病院利用者がインターネットを通して病院の診療情報等を容易に入手できるように、手術件数やクリニカルインディケータ（臨床評価指標）を広く県民にアピールするなど、各県立病院のホームページの充実及び診療案内の作成を積極的に行う。</p> <p>また、テレビCM等各種媒体を活用した県立病院機構及び県立病院の広報を積極的に行う。</p> | 機構本部 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルインディケータWGを9回開催した。 ・クリニカルインディケータの拡充の考え方に基づいた検討の結果13項目拡充し、26年3月に機構本部ホームページに公表した。 ・県立病院機構ニュースを4号発行した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機構本部ホームページのリニューアル。 ・視聴率、放送局バナーからのアクセス解析の結果等で検討しCM放送を中止した。 |
| 235 | | <p>須坂病院では、平成23年12月から正面玄関前まで乗り入れている路線バスの安全運行と利用促進のため、須坂市及びバス運行会社との一層の連携を図る。</p> <p>また、広報誌を須高地域に全戸配布するほか、須坂市報への当院の情報掲載、須高ケーブルテレビへの休診情報等の掲載を継続する。</p> | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの安全運行について須坂市及びバス運行会社と協議を行い、カーブミラーの設置(4月)と視認性向上のため街路樹の剪定を行った。 ・広報誌を須高地域に全戸配布するほか、須坂市報への当院の情報掲載、須高ケーブルテレビへの休診情報等の掲載を継続した。 <p>(課題)</p> <p>今後も臨機応変な対応が必要である。</p> |
| 236 | | <p>こども病院では、来院者が安心して快適に診療を受けられるよう、受診や各種手続きの案内、困りごとへのサポートを行うフロアアテンダントに加え、外来の総合的な案内を行う担当者をエントランスホールに配置する。</p> | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>エントランスホールにフロアアテンダントに加え、外来の総合的な案内を行う担当者を配置し、2名体制とすることで、来院者を待たせることなく案内やサポートなどを行うことができた。</p> |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(3) 地域との協力体制の構築

| | |
|------|--|
| 中期目標 | <p>ア ボランティア団体、市町村等との連携 県立病院への理解を深め、医療サービスの向上を図るため、地域やボランティア団体、市町村等との連携を強化し、協力体制を構築すること。 また、積極的に広報活動を行って、地域住民の県立病院に対する理解を深めてもらう努力をすること。</p> |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|---|------|----------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 | |
| 237 | <p>ア ボランティア団体、市町村等との連携 県立病院ごとに、地域住民やボランティア団体等各種団体、市町村との連携を密にできる体制を整備し、地域における医療、保健、福祉を始めとする各種活動に参画する。 また、病院祭の開催などを通じて地域との交流を深め、県立病院の活動等を広く広報することにより、病院運営に対する地域の理解を深めていく。 なお、木曽病院は、上松町が行う赤沢自然休養林森林セラピー事業と協調した森林セラピードックを充実する。</p> | <p>ア ボランティア団体、市町村等との連携 地域住民やボランティア団体等各種団体、市町村との情報交換に努め、地域と連携した活動を強化する。</p> | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月20日 須坂カッタカタ祭り 参加者68人 7月20日 須坂カッタカタ祭り 健康相談実施 8月3日～10日 エントランスホールにて「地域づくり須坂未来塾」作成の七夕飾りを展示 8月22日 エントランスホールにて河村康尚さんによるサマーコンサート開催 10月27日 須坂市健康まつりと病院祭の同時開催 11月20日 講堂にて地域保健医療福祉懇談会開催 11月22日 エントランスホールにてM o i r a iによるオータムコンサート開催 12月13日 エントランスホールにてコーラスシャンテ&コーロ・ブリランテによるクリスマスコンサート実施 <p>(課題) 地域住民との活動の維持継続</p> |
| 238 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年度5回開催される地元関係機関の長による連絡会議に出席し、良好的な協力関係の維持に努めている。 駒ヶ根市下平地区、西駒郷との連絡協議会を年1回開催し、精神科医療への協力を求めている。 10月に行った防災訓練で地元下平区の役員と西駒郷職員に参加を依頼し、災害時等での協力体制について確認を行った。 10月に、病院祭を開催し、地域との交流を図った(参加者：約400名)。 <p>(課題) 地域に開かれた病院を目指して、継続的に地域住民や関係者が参加できる病院祭等の開催に引き続き努める。</p> |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|---|------|--|
| | | | 病院番号 | 中期計画 |
| 239 | <p>ア ボランティア団体、市町村等との連携</p> <p>県立病院ごとに、地域住民やボランティア団体等各種団体、市町村との連携を密にできる体制を整備し、地域における医療、保健、福祉を始めとする各種活動に参画する。</p> <p>また、病院祭の開催などを通じて地域との交流を深め、県立病院の活動等を広く広報することにより、病院運営に対する地域の理解を深めていく。</p> | <p>ア ボランティア団体、市町村等との連携</p> <p>地域住民やボランティア団体等各種団体、市町村との情報交換に努め、地域と連携した活動を強化する。</p> | 阿南 | <p>A</p> <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院祭については、平成23年度から耐震化改築工事が行われていたことから開催が見送られた。 ・地元ボランティアグループとの花壇の整備など環境美化活動を行った。 ・地元福祉・医療関係機関との交流会の実施、また定期的な会議により連携を図った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は外構工事も含め全面竣工となることから、病院祭及び地域住民との環境美化作業を実施する。 |
| 240 | <p>なお、木曽病院は、上松町が行う赤沢自然休養林森林セラピー事業と協調した森林セラピードックを充実する。</p> | | 木曽 | <p>A</p> <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曽病院・木曽地域の医療を守る会と地域医療の維持について情報交換を行った(随時)。 ・7月9日に広域連合、医師会、老人クラブ、木曽病院・木曽地域の医療を守る会等を委員とする「運営協議会」を開催し、情報交換を行った。 ・シーツ交換(毎週水曜日)、誕生日会の演芸(月1回程度)で地域ボランティアに協力していただいている。現在5団体が出入りしている。 |
| 241 | | | こども | <p>A</p> <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアコーディネーターが主となり院内のボランティア活動の調整、実施をしている。 ・25年度の登録ボランティアは43団体、実施実績は、申し込み・相談1,679件、活動延人員1,777名となっている。 ・講演会の開催、病院職員との交流及び意見交換の場を設けるための、ボランティア交流会を2月25日に開催した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・託児希望者が増加していることから、院内の託児ボランティアをどのように確保し、受け入れを行うかが課題である。 ・ボランティアコーディネーターの雇用形態が非常勤であることから、活動範囲が限定される。 |
| 242 | | | 須坂 | <p>A</p> <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月18日、3月2日須坂市の依頼により「マタニティーセミナー」実施。 |

座」の開催に際しては、県・地元市町村・NPO法人等各種団体との協働を推進する。

- ・6月12日、7月26日、9月19日、11月13日、11月14日、11月22日、3月8日須坂市の依頼により「子育てセミナー」実施。
- ・須高医師会と共催の出前講座を39件実施した。

| | | |
|-------|-------------------------|--------------------|
| 5月31日 | 一次救命処置 | グリーンアルム福祉会地域交流センター |
| 6月4日 | メタボリックシンドロームって何？ | 須坂市商工会議所2階会議室 |
| 6月5日 | 小児（乳幼児）救急法 | 東部児童センター（高橋町） |
| 6月12日 | （子育てセミナー）小児の病気の対応と事故の防止 | 北旭ヶ丘保育園 |
| 6月12日 | 小児（乳幼児）救急法 | 中央児童センター（馬場町） |
| 6月13日 | 乳幼児の感染症と予防接種について | 中央児童センター（馬場町） |
| 6月18日 | 小児（乳幼児）救急法 | 北部児童センター（北旭ヶ丘町） |
| 7月2日 | 家庭でできる応急手当 | 須坂市消防本部大会議室 |
| 7月6日 | 潰瘍性大腸炎の診断と治療について | 北信保健福祉事務所3階大会議室 |
| 7月11日 | 一次救命処置 | 千曲市戸倉庁舎 |
| 7月11日 | エイズについて | 墨坂中学校 |
| 7月18日 | 小児（乳幼児）救急法 | 南部児童センター（屋部町） |
| 7月26日 | （子育てセミナー）小児の救急法、応急手当 | 須坂市立須坂千曲保育園 |
| 8月5日 | めまいについて | 馬場町公会堂 |
| 9月3日 | 健康に役立つ漢方の知恵 | すざか女性みらい館 |
| 9月6日 | 肺がんについて | 長野市 南石堂町公民館 |
| 9月14日 | 健康に過ごすための食生活について | 須坂市中央公民館 |

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--------|----------------------------|--------------------------|
| | | | | 9月19日 | (子育てセミナー) 小児の救急法、応急手当 | 井上保育園 |
| | | | | 10月17日 | 大腸がんの治療について | 須坂温泉古城荘 |
| | | | | 10月29日 | 感染対策について | 須坂市社会福祉協議会 2階 大会議室 |
| | | | | 11月1日 | 学童の感染予防 | 仁礼小学校視聴覚室 |
| | | | | 11月6日 | 家庭でできる応急手当 | 小布施町エンゼルランドセンターホール |
| | | | | 11月13日 | ピロリ菌と胃の疾患 | 須高建労会館 |
| | | | | 11月13日 | (子育てセミナー) 小児(乳幼児)の救急法、応急手当 | 子育て支援センター |
| | | | | 11月14日 | (子育てセミナー) 小児の感染症と予防接種 | 福祉会館 2階 |
| | | | | 11月20日 | 感染対策について | 須坂市社会福祉協議会 ディサービス Cぬくもり園 |
| | | | | 11月22日 | (子育てセミナー) 小児の病気 | 米子町公会堂 |
| | | | | 11月22日 | 健康に過ごすための食生活について | 安茂里公民館 |
| | | | | 11月30日 | 高齢者の食生活について | 豊野温泉・りんごの湯多目的ホール |
| | | | | 12月11日 | 正しい薬の飲み方 | 須坂市社会福祉協議会 2階 大会議室 |
| | | | | 2月25日 | 健康に過ごすための食生活について | 小布施町健康福祉センター |
| | | | | 2月25日 | 健康に役立つ漢方の知恵 | 須坂市中央公民館ホール (3階) |
| | | | | 2月25日 | 高齢者の食生活について | 須高広域シルバー人材センター 2F 作業訓練室 |
| | | | | 2月27日 | 性教育について | 墨坂中学校 武道場 |
| | | | | 2月28日 | 性教育について | 須坂市立東中学校視聴覚室 |
| | | | | 3月8日 | (子育てセミナー) 中高生と赤ちゃんのふれあい交流事 | 須坂病院北棟 4F 講堂 |

| | | | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|---|-------------|-------------------------|
| | | | | | 業 | | |
| | | | | | 3月11日 | 高齢者の食生活について | 高山村保健福祉総合センター内高齢者福祉センター |
| | | | | | 3月12日 | 性教育について | 常盤中学校 清心館 |
| | | | | | 3月22日 | 高齢者の食生活について | 豊野温泉りんごの湯多目的ホール |
| | | | | | (課題) 須高医師会との協働を維持継続 | | |
| 243 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座「こころを健やかにたもちたい～こころの病んでも地域で暮らしたい～」 実施日：9月14日（参加者 約160名） ・出前講座 アルコール依存症 開催回数3回（昭和伊南病院・飯島町・箕輪町） ・県・市町村・各種団体等が開催する研修会等に当院医師等の職員を講師として派遣した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座の開催回数を増やし、病院のブランド力の向上を図る。 ・出前講座のメニュー拡充による病院機能のアピール | | |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---|---|---|------|--|--|---------|------|-----|------|--|-------|-----|------|--|-------|------|-----|--|--------|------|-----|--|------|-------|
| | | | 病院番号 | 中期計画 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 244 | <p>ア ボランティア団体、市町村等との連携</p> <p>県立病院ごとに、地域住民やボランティア団体等各種団体、市町村との連携を密にできる体制を整備し、地域における医療、保健、福祉を始めとする各種活動に参画する。</p> <p>また、病院祭の開催などを通じて地域との交流を深め、県立病院の活動等を広く広報することにより、病院運営に対する地域の理解を深めていく。</p> | <p>広く県民に県立病院の取組みや健康情報をお知らせする「公開講座」の開催に際しては、県・地元市町村・NPO法人等各種団体との協働を推進する。</p> | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>「公開講座」として地域住民を対象とした医療講演会を、下伊那南部保健医療協議会と共催で2回開催したところ、地域住民、町村関係者等多くの参加があり、地域に開かれた病院をアピールできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月4日「ストレスに関する基礎知識 ～原因、症状とその対処法」メンタルサポートそよかぜ病院長 吉田朋孝医師 (56名参加) ・3月18日「認知症とその対応について」飯田病院 精神科部長 南風原 泰医師 (97名参加) 全面竣工記念講演会を兼ねて実施した。 <p>・郡内町村広報誌へ掲載の依頼を行い、当院の医療に関する情報や医療機器の紹介、改築のお知らせなど当院の記事が毎月掲載された。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 245 | <p>なお、木曾病院は、上松町が行う赤沢自然休養林森林セラピー事業と協調した森林セラピードックを充実する。</p> | | <p>広く県民に県立病院の取組みや健康情報をお知らせする「公開講座」の開催に際しては、県・地元市町村・NPO法人等各種団体との協働を推進する。</p> | 木曾 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に病院での取り組みを知ってもらうために、病院総合防災訓練を9月28日に、木曾保健福祉事務所、木曾広域消防本部、木曾医師会、地元川西区、木曾看護専門学校、地元消防団等と連携して実施した。(参加者約100名) ・トリアージ講習会を、県、地元町村、医師会と協働して開催(6月26日と7月3日の2回)した。 ・広域連合が実施している介護保険サービス事業所を対象にした「介護保険サービスに係る研修会」(6～11月に月1回開催)に認定看護師、薬剤師、理学療法士等を派遣した。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 246 | | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーと小児の病気をテーマとした公開講座を開催し、参加者から多くの質問等があった。 <table border="0"> <tr> <td>食物アレルギー</td> <td>7月6日</td> <td>塩尻市</td> <td>117名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7月20日</td> <td>長野市</td> <td>109名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10月5日</td> <td>軽井沢町</td> <td>54名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月16日</td> <td>駒ヶ根市</td> <td>46名</td> </tr> </table> <p>小児病気「こんな時どうする？」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>3月8日</td> <td>こども病院</td> <td>69名</td> </tr> </table> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26年度も公開講座を継続して開催する予定 | 食物アレルギー | 7月6日 | 塩尻市 | 117名 | | 7月20日 | 長野市 | 109名 | | 10月5日 | 軽井沢町 | 54名 | | 11月16日 | 駒ヶ根市 | 46名 | | 3月8日 | こども病院 |
| 食物アレルギー | 7月6日 | 塩尻市 | | 117名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7月20日 | 長野市 | 109名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10月5日 | 軽井沢町 | 54名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 11月16日 | 駒ヶ根市 | 46名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3月8日 | こども病院 | 69名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-----|--|--|------|---|--|
| 247 | | | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>こどもの食物アレルギーなど県民に関心の高いテーマについて講演を行う「公開講座」については、25年度も県や市町村、県内医療機関とも連携しながら県下各地で開催され、機構本部では、プレスリリース及び開催への援助などを行った。</p> <p>(課題)</p> <p>26年度も積極的な開催を働きかけていく。</p> |
| 248 | | | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月27日 須坂市の須坂健康まつりと共催で第12回須坂病院祭を開催した。(参加者約 3,600名) 当院の医師、看護師、医療技術職員が講師を務める出前講座を計39回実施した。 地域医療福祉連携室及び在宅診療運営委員会が中心となって、地域の行政・介護施設等と連携して、10回の「家族介護教室」の開催・運営に参画した。(参加者：586名) <p>(課題)</p> <p>地域に対するアピールの継続</p> |
| 249 | | 地域に県立病院をアピールするため、地域に開かれた病院祭や講演会等を開催する。 | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月14日に「こころを健やかにたもちたい～こころを病んでも地域で暮らしたい～」と題し清泉女学院大学学長を講師に公開講座を行った。(参加者：合計約160名) 10月5日に病院祭を開催し、「人はなぜ犬や猫を飼うのか」と題した講演会を行い多くの地域住民が参加した。(病院祭参加者：約400名) 2月15日に地域住民対象の公開講座を予定していたが、大雪のため中止となった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開講座の開催回数を増やし、病院のブランド力の向上を図る。 出前講座のメニュー拡充による病院機能のアピール |
| 250 | | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>地域住民を対象とした医療講演会を、下伊那南部保健医療協議会と共催で2回開催したところ、地域住民、町村関係者等多くの参加があり、地域に開かれた病院をアピールできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月4日「ストレスに関する基礎知識 ～原因、症状とその対処法」メンタルサポートそよかぜ病院長 吉田朋孝医師 (56名参加) 3月18日「認知症とその対応について」飯田病院 精神科部長 南風原 泰医師 (97名参加) 全面竣工記念講演会を兼ねて実施した <p>(課題)</p> <p>病院祭については、耐震化改築工事により開催が見送られていたが来年度から再開する。(再掲)</p> |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | | |
|-----|---|---|---|------|--|--|
| | | | 病院番号 | 中期計画 | | |
| 251 | <p>ア ボランティア団体、市町村等との連携</p> <p>県立病院ごとに、地域住民やボランティア団体等各種団体、市町村との連携を密にできる体制を整備し、地域における医療、保健、福祉を始めとする各種活動に参画する。</p> <p>また、病院祭の開催などを通じて地域との交流を深め、県立病院の活動等を広く広報することにより、病院運営に対する地域の理解を深めていく。</p> <p>なお、木曾病院は、上松町が行う赤沢自然休養林森林セラピー事業と協調した森林セラピードックを充実する。</p> | <p>地域に県立病院をアピールするため、地域に開かれた病院祭や講演会等を開催する。</p> | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 半年かけて準備してきた病院祭は、台風の接近により中止となってしまったが、「出前病院」を上松町と木曾町で実施するとともに、木曾郡木曾町及び木祖村で開催された駅伝大会には当院チームが参加することで、地域とのつながりを深めることができた。 <p>(課題)</p> <p>今後も住民から興味が持たれるように工夫したイベントなどを企画し、積極的なアピールを行っていく。</p> | |
| 252 | <p>須坂病院では、地元医師会と協力しての夕暮れ総合診療（水曜日）や日曜・祝日診療を引き続き実施する。</p> <p>また、市町村、病院、福祉団体等で構成される「須高地域医療福祉推進協議会」に積極的に参加する。</p> | | <p>須坂病院では、地元医師会と協力しての夕暮れ総合診療（水曜日）や日曜・祝日診療を引き続き実施する。</p> <p>また、市町村、病院、福祉団体等で構成される「須高地域医療福祉推進協議会」に積極的に参加する。</p> | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当院の取組などを多くの者に周知する機会として、「HAPPY HAPPY CHILDREN 愛と希望と生きる力」をキャッチフレーズとした第5回病院祭を10月14日に開催し、約 3,000名の来場者にアピールすることができた。 また、当院を市民により身近に感じていただくため、病院キャラクターである「しろくま」の着ぐるみを新たに作成し、病院祭当日にお披露目をするるとともに、市民から募集して決定したキャラクター名「ちるくま」の発表を行った。 食物アレルギーと小児の病気をテーマとした公開講座を開催し、参加者から多くの質問等があった。 <p>食物アレルギー 7月6日 塩尻市 117名 7月20日 長野市 109名 10月5日 軽井沢町 54名 11月16日 駒ヶ根市 46名</p> <p>小児病气「こんな時どうする？」 3月8日 こども病院 69名</p> |
| 253 | <p>須坂病院では、地元医師会と協力しての夕暮れ総合診療（水曜日）や日曜・祝日診療を引き続き実施する。</p> <p>また、市町村、病院、福祉団体等で構成される「須高地域医療福祉推進協議会」に積極的に参加する。</p> | | <p>須坂病院では、地元医師会と協力しての夕暮れ総合診療（水曜日）や日曜・祝日診療を引き続き実施する。</p> <p>また、市町村、病院、福祉団体等で構成される「須高地域医療福祉推進協議会」に積極的に参加する。</p> | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 須高医師会と協力して、夕暮れ総合診療、日曜・祝日診療を引き続き実施した。 市町村、病院、福祉団体等で構成される「須高地域医療福祉推進協議会」に参加した。 <p>(課題)</p> <p>須高医師会との協働を維持継続</p> |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|---|
| 254 | | 阿南病院では、診療圏内の市町村及び福祉施設等へのリハビリ指導等のための職員派遣を継続する。 | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>25年度 リハビリ理学療法士派遣実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天龍村 集団15回 ・泰阜村 (テイクア) 集団36回、個別108件 ・売木村 集団12回 ・救護施設阿南富草寮 集団11回 <p>(課題)</p> <p>地域からのニーズが高いことから、今後も言語聴覚士、作業療法士の派遣も含めて展開を図っていきたい。</p> |
| 255 | | 木曾病院では、診療圏内の町村との事業展開での協働も図りながら、木曾地域の自然を活用した「木曾路の森セラピードック」を推進する。 | 木曾 | B | <p>(業務の実績)</p> <p>木曾郡上松町と協調し、「赤沢自然休養林森林セラピードック」を実施したが、「木曾路の森セラピードック」については希望者がなかった。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元町村との連携した「木曾路の森セラピードック」のPR ・「セラピードック」の実施個所については、木曾郡上松町赤沢自然休養林及び同郡王滝村エリア以外への拡大を図る。 |
| 256 | | <p>こども病院では、民間団体との協働による「こども療育推進事業」を実施し、長期入院患者の在宅療養への移行等を支援する。</p> <p>小児医療の環境向上に重要な役割を担う住民との連携を強化して、小児医療を守るために様々な活動を展開する「こども病院サポーター制度」を創設する。</p> | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児救急シミュレーションを福祉事業所で実施した。 ・歯科検診を実施、こども病院の事業として行えるよう導入の支援をし、事業の確立を図った。 ・DVDマニュアル（気管切開マニュアル）の作成をした。 ・患者会の協力を得て、「重症心身障がい児啓発シンポジウム」を開催し約70名の参加を得た。 ・長野こども療育情報誌「あしあとてらす」の発行を4回行った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児在宅医療における「顔の見える連携」体制構築の必要性、ニーズ調査や資源開拓のための全数調査の必要性を認識した。 ・小児在宅医療連携を行う診療所、事業所を増やし、長野県全域に連携を拡大する必要がある。 |

- ・ 長野県全域の小児医療を担うという観点から、研修会・学習会を開催するとともに、支援チームの派遣や情報通信技術（ICT）を活用することにより、全県的な医療・福祉ネットワークの構築を推進する在宅医療連携拠点事業を実施する。（こども 55再掲）

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(3) 地域との協力体制の構築

| | |
|------|--|
| 中期目標 | イ 病院運営に関する地域の意見の反映 県立病院の運営について、地域住民の意見を取り入れる組織を設置し、地域との積極的な連携を図ること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|---|----------|--|
| | | | 病院 評価 | 説明 |
| 257 | | | 須坂 | A (業務の実績) 須坂病院運営協議会を第1回7月29日、第2回1月30日に開催し、当院の運営動向や決算、診療体制、看護師募集等の状況について説明した。 |
| 258 | イ 病院運営に関する地域の意見の反映 各県立病院に、市町村、地域住民の代表、病院支援団体及び保健・医療・福祉機関等が参加する病院運営協議会等を設置し、県立病院の運営に地域の意見を反映させる。 | イ 病院運営に関する地域の意見の反映 各県立病院において、市町村、地域住民の代表、病院支援団体及び保健・医療・福祉機関等が参加する病院運営協議会等を開催して、積極的に地域意見を反映させるよう取り組む。 | 駒ヶ根 | A (業務の実績) 地元市町村、地域の患者家族会、精神科医療関係団体の代表等が参加する病院運営協議会を1月10日に開催し、病院運営の状況、今後の課題について、意見交換を行った。 (課題) 次期中期計画を策定するため、26年度は病院運営協議会を7月と10～11月の2回開催予定。地元市町村、地域の患者家族会、精神科病院利用者の意見や患者満足度調査の結果等を活かして中期計画を策定する必要がある。 |
| 259 | | | 阿南 | A (業務の実績) ・7月12日に開催した下伊那南部保健医療協議会の定期総会において、阿南病院の中長期ビジョンを説明し、関係機関等の理解を得たとともに、新本館棟のヘリポートの運行開始のため信州大学医学部附属病院の救急科岩下具美准教授を迎えて「ドクターヘリ活用について」の講演会を開催してPRした。 ・2か月に1度開催される南部保健医療協議会保健師ブロック会に事務部次長、医事課長、保健師が出席し、健康管理センター開業に向けての健診事業に関する提案及び意見要望を聴取した。 |
| 260 | | | 木曾 | A (業務の実績) 病院運営協議会、病院モニター会議、病院・保健福祉関係者連絡会議を開催し、病院の運営状況について地域の住民や関係機関に説明するとともに意見交換を行っている。 |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|---|
| 261 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>こども病院運営協議会を8月8日と3月13日に開催した。地域の行政・住民組織、医療、患者、ボランティア関係者などが委員となっており、多方面から病院運営に関する貴重な意見を頂戴することができた。</p> |
| 262 | | <p>病院モニターからの意見や、患者家族と病院管理者との懇談会等の様々な提言などを病院運営に活用するように引き続き取り組む。</p> | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて実施した「病院共通アンケート」データ(件数 488件)をもとに委託業者等と意見交換を実施し、患者・利用者サービスの向上を図っている。 公開講座の評価は「やや不満」と「不満」を合わせ88%と高評価だった。 病院共通アンケート(488件)の結果で職員の対応について「やや不満」「不満」が13%だったことから、「利用する側は、1つの不満・不安がずっと忘れられない。ずっと覚えている。そうならないように気をつけねばならない」と接遇委員会で意見交換を行い委員会の活動に生かしている。 レストランのアンケート結果で「やや不満」「不満」が20%だったことから、料理長の変更による質の改善とメニューの変更によって利用が20%増加した。 売店のアンケート結果で「やや不満」「不満」が20%だったことから、営業時間の延長、顧客への情報提供の強化、品ぞろえの改善を行うこととなった。 ボランティアとの意見交換によって、バスの待合からでも容易に確認できる大型時計を病院正面入り口に設置した。 3月13日 以前から行われてこなかったボランティア間の連絡会を実施した。 <p>(課題)</p> <p>利用者の幅広い意見の聴取</p> |
| 263 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民から信頼される病院としての円滑な運営を図るために設置する病院運営協議会の委員として、病院利用者を代表としてNPO法人はらっぱの会患者代表、上伊那精神障害者家族会代表を委嘱し、その意見を病院運営に取り入れる取組を行っている。 毎月開催する患者家族会において意見を聴取し、病院経営に反映させている。 「患者ご意見箱」や外来・入院患者を対象に実施した患者満足度調査(外来403名、入院35名から回答)で寄せられた意見を病院経営に反映させている。 <p>(課題)</p> <p>上記取組を引き続き実施する。入院患者については、患者満足度調査の期間を長くし、より多くの患者さまの意見を伺い病院経営に活用する。</p> <p>なお、26年度は、次期中期計画策定にあたるので、病院運営協議会を7月と10～11月の2回開催し病院利用者の意見や患者満足度調査の結果等を活かして中期計画を策定する必要がある。</p> |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|--|
| 264 | | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政、診療所医師及び保健師などで構成される下伊那南部保健医療協議会において積極的な情報・意見交換を行っている。 当院では、環境美化活動に参加している地域ボランティアの者の意見など、機会を捉えて地域住民からの意見等の聴取を行っている。 |
| 265 | | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>障害者団体、老人団体等の他、一般人から9名が参加した、病院モニター会議を2回開催し、病院の概況説明、施設見学及び病院の状況についてのチェックなどを実施し、利用者の意見を病院経営に反映させる取組を行った。</p> |
| 266 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来・入院患者を対象とした「提案箱」を院内8箇所に設置し、提案内容については、該当部署及び病院管理者で検討の上、回答を院内に掲示するとともに病院運営に反映させている。 院内外に参加者を募集して、応募のあった1組の患者家族と病院管理者の懇談会を3月8日に新たに開催した。 <p>病院サポーターの構築や成人移行患者への地域病院と連携した取組について、今後の病院運営に繋がる有意義な意見を得ることが出来た。</p> |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

4 人材の育成・確保と県内医療水準の向上への貢献

(1) 研修体制と医療従事者確保対策の充実

| | |
|----------|--|
| 中期 目標 | ア 研修体制の構築 (ア) 研修システムの構築 各県立病院の持つ特長を活かした研修システムを構築し、研修体制を強化することにより医師をはじめとする職員の知識・技術の向上を図ること。 |
|----------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|----|------|------|----------|----|
| | | | 病院 評価 | 説明 |
| | | | | |

| | | | | |
|-----|--|--|------|---|
| 267 | <p>ア 研修体制の構築</p> <p>(ア) 研修システムの構築</p> <p>職員研修の企画運営を行う研修センターを創設し、基礎研修や職種ごとの専門研修など充実した研修カリキュラムを作成・運用して職員の知識・技術を向上させる。</p> <p>また、職員が積極的に学会等で発表できる環境を整備して、職員の研究意欲の増進につなげる。</p> | <p>(ア) 研修システムの構築</p> <p>研修センターは、基礎研修から専門研修まで含めた以下の研修体系と研修カリキュラムを構築して職員の知識・技術の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全職員の基礎研修受講体制を構築する。(病院経営・医療安全・感染防止・医療倫理・メンタルヘルス・ハラスメント防止等) リーダー職員養成研修を実施する。 先進病院等への職員派遣研修を実施する。 幅広い診療対応能力を持つ家庭医・病院総合医を育成する。 信州型総合医養成に寄与する5病院の特色を生かしたプログラムを策定する。 | 機構本部 | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規採用職員への保健師による巡回相談を各病院に対し各3回実施し、延べ252人から相談があった。 7月12日に、管理監督者メンタルヘルス研修会をこころの医療センター駒ヶ根で開催し、36人の参加があった。また、新規採用課程研修でメンタルヘルス研修を実施した。(病院経営・医療安全・感染防止・医療倫理)については各病院で行った。 研修は、「課程別研修」、「選択研修」、「専門研修」を企画実施した。 「課程別研修」: 新規採用者Ⅰ：1回目(4月11日～12日)2回目(4月18日～19日)、3回目(4月25日～26日)、4回目(5月9日～10日)、計125人が受講 新規採用者Ⅱ：11月1日、67人が受講 中堅課程研修：8月2日、15人が受講 サブリーダー課程研修：9月27日、31人が受講 「選択研修」 問題発見・解決力向上研修：第1回(6月28日)、第2回(7月26日)、第3回(8月23日)、第4回(1月24日)、のべ57人が受講 コミュニケーション研修：第1回(9月13日)、第2回(10月4日)、第3回(11月29日)、のべ42人が受講 ベテラン研修：第1回(6月14日)、第2回(7月19日)、第3回(1月10日)、のべ31人が受講 成人教育実践編：第1回(6月7日)、第2回(8月30日)、第3回(9月20日)、第4回(10月16日～17日)、第5回(12月14日)、のべ60人受講 「専門研修」 薬剤師研修会：6月29日「県立病院薬剤師のあるべき姿、進むべき方向」29人受講 栄養部門研修会：12月3日「栄養部門における危険予防トレーニング」14人受講 管理栄養士研修：10月19日「管理栄養士研修プログラムについて 情報交換会」12人受講 リハビリテーション技師会研修会：10月26日「呼吸器疾患、脳血管障害の画像の読み方、血液検査・血液ガス検査の理解」、「実習：吸引に必要な基礎知識」17人受講 放射線技師研修会：「診療放射線技師に必要な感染症の知識」17人受講 11月 産業医科大学訪問研究員を、須坂、木曾、本部から計3名を1週間短期派遣した。DPCデータの分析、活用に係る研修を受講し派遣元病院等での報告会を開催した。 信州型総合医養成プログラムの認定を受けた(須坂病院・平成26年から3年間)。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果の普及、業務への活用。 今後の継続的派遣方法の検討。 須坂病院を中心とした研修プログラム内容の具体的検討。 平成27年度から3年間のプログラム認定申請。 各病院間での研修内容の調整。 指導医体制の充実。 研修医の確保策の検討(募集PR等)。 |
|-----|--|--|------|---|

| | | | | |
|-----|--|------|---|---|
| 268 | <p>研修センターは、基礎研修から専門研修まで含めた以下の研修体系と研修カリキュラムを構築して職員の知識・技術の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新人看護職員研修体制の構築、支援を行う。 ・ 看護師のキャリア開発ラダーレベルに応じた研修の実施と各病院への支援を行う。 ・ スキルラボを使用したシミュレーション研修を実施する。 | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スキルラボを使用した研修は、研修医 (24回延べ35名)、研修医・医学生 (1回延べ4名)、医学生 (2回延べ6名)、医師 (6回延べ6名) 新人看護師 (3回延べ84名)、看護師 (13回延べ54名) 医師・看護師 (1回延べ16名)、ICLS事前研修 (4回延べ40名)、看護師復帰支援 (3回延べ12名) 実施。 ・ その他、高校生1日体験においても使用された。 <p>(課題)</p> <p>取組の継続</p> |
| 269 | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>研修センターが実施する基礎研修及び専門研修により職員の知識・技術の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新人技術研修スキルラボ使用 (2回) ・ BLS研修 (25名参加) ・ 管理者研修 (17名参加) ・ コーチング研修 (16名参加) |
| 270 | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>新規看護職員研修において、研修センターから貸与を受けたシミュレーターを活用した。</p> |
| 271 | | 木曾 | B | <p>(業務の実績)</p> <p>新規職員を対象とした研修では、研修センターのシミュレーターを活用した。</p> |
| 272 | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>毎月1回程度、院内各部署においてシミュレーション研修会を開催した。</p> |
| 273 | | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>スキルラボの利用実績。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H25年度シミュレーターの地域医療機関への貸出し等は、のべ334台 ・ シミュレーター使用研修受講者数は、のべ1679人 ・ スキルラボ使用実績は、65回 ・ スキルラボ利用者数は、のべ345人 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|--|------|----|---|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 274 | <p>ア 研修体制の構築</p> <p>(ア) 研修システムの構築</p> <p>職員研修の企画運営を行う研修センターを創設し、基礎研修や職種ごとの専門研修など充実した研修カリキュラムを作成・運用して職員の知識・技術を向上させる。</p> <p>また、職員が積極的に学会等で発表できる環境を整備して、職員の研究意欲の増進につなげる。</p> | <p>医療現場での実践力を高めチーム医療の推進に有効な医療シミュレーション研修については、引き続き年2回ハワイ大学医学部SimTikiシミュレーションセンターにおいて実施することとし、成人教育理論に基づいたシミュレーション教育の教授法を学ぶこととする。</p> | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハワイ大学医学部研修 <ul style="list-style-type: none"> 5月13日から15日の研修に機構から12名が参加 9月30日から10月2日の研修に機構から10名が参加（今年度は新たに2つの民間病院の医師2名が参加） ・受講生の主な活動状況 <ul style="list-style-type: none"> 各病院での研修の実施、シミュレーションのシナリオ作成等 ・機構内部におけるスキルスラボの使用及びシミュレーション研修の実施 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修受講者が中心となって企画、実施したシミュレーション研修等の実施状況及び課題の把握 ・シミュレーション研修受講者が院内への研修成果のフィードバックを行うための手法の確立 |
| 275 | | | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を受けた職員が看護師新入職員教育と全職員対象の研修において講師を務めている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組の継続 |
| 276 | | <p>研修受講者自らが各県立病院において指導者となり実施するシミュレーション教育の内容を充実させる。</p> | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> シミュレーション指導者による救急場面を想定した研修を行った（4回実施）。 研修センター主催の成人教育研修に5回参加した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修内容の更なる充実 |
| 277 | | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修受講者によるシミュレーション研修を全職員を対象に2回開催した。 |

| | | | | |
|-----|--|---------|---|---|
| 278 | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を受けた職員が中心となり、BLSの新人を対象としたシミュレーション研修を行った。(看護部) ・新人看護職員を対象とした多重課題シミュレーション研修を行った。(看護部) ・新卒臨床検査技師を対象にシミュレーショントレーニングを2回実施した。(医療技術部) ・研修受講者による定期的な勉強会においてシミュレーショントレーニングの内容についての発表を行った。(医療技術部) |
| 279 | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>院長補佐が、当院から本部研修センターに異動となった。</p> |
| 280 | | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択研修のうち、ハワイ大学医学部SimTikiシミュレーションセンター研修を終了した者を主な対象者とする、成人教育実践編の受講者12人が、シミュレーションのシナリオ作成や各病院各部署でシミュレーション研修を実施した。 6月7日(金)、8月30日(金)、9月20日(金)、10月16日(木)、17日(金)、12月14日(土) ・機構内部におけるスキルスラボの使用及びシミュレーション研修の実施 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修受講者が中心となって企画、実施したシミュレーション研修等の実施状況及び課題の把握 ・成人教育実践編研修にてシミュレーション教育を担う指導者研修会の実施 |
| 281 | ハワイ大学医学部SimTikiシミュレーションセンターの教授を引き続き招聘し、職員及び県内外の医療関係者を対象とした「シミュレーション・トレーニング」に関するセミナーを開催する。 | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>10月15日から17日に、ハワイ大学医学部ベンジャミン.W.バーク教授を長野県へ招へいし、機構職員のほか、県内外から参加を希望する病院職員に対して信州上田医療センター、須阪病院、こども病院で3回にわたり実践的なシミュレーション研修会を開催し、145名の参加があった。</p> <p>(課題)</p> <p>より効果的なセミナーの開催方法の検討</p> |
| 282 | <p>県立病院の研修センター分室では、各県立病院が持つ機能や特色を活かした研修を実施することにより、多様な医療ニーズに対応できる専門性の高い人材の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曾病院の研修センター分室では、新卒の臨床検査技師及び診療放射線技師等を対象とした研修を行う。 | 木曾・機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>病院内の研修センターを中心に、新卒の医療技術部職員(6名)を対象にした研修を4月から6月にかけて、院内各部署の協力の下、実施した。病棟・受付・外来などを1週間単位で体験し、全体的な病院の業務体系を学んだ。</p> |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|----------|----|---|
| | | | 病院 評価 | 説明 | |
| 283 | <p>ア 研修体制の構築 (ア) 研修システムの構築 職員研修の企画運営を行う研修センターを創設し、基礎研修や職種ごとの専門研修など充実した研修カリキュラムを作成・運用して職員の知識・技術を向上させる。 また、職員が積極的に学会等で発表できる環境を整備して、職員の研究意欲の増進につなげる。</p> | <p>県立病院の研修センター分室では、各県立病院が持つ機能や特色を活かした研修を実施することにより、多様な医療ニーズに対応できる専門性の高い人材の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> こども病院の研修センター分室では、研修医を対象とした研修を充実させる。 | こども・機構本部 | A | <p>(業務の実績) 小児科専門研修医に対して、週1回の研修を院内外の講師を招へいして行った。また、二ヶ月に一度県内周産期医療従事者対象の周産期カンファレンスを開催した。</p> |
| 284 | | <p>県立病院の研修センター分室では、各県立病院が持つ機能や特色を活かした研修を実施することにより、多様な医療ニーズに対応できる専門性の高い人材の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿南病院では、家庭医や病院総合医に関する研修等を実施する研修センター分室(へき地医療研修センター)の設置に向けて、拠点となる東館改修工事を実施するとともに、受入態勢を構築する。 | 阿南・機構本部 | A | <p>(業務の実績) 平成26年の「へき地医療研修センター」の設置に向け、東館の改修を行うとともに備品等を購入するなど準備を進めた。</p> <p>(課題) 本部研修センターと連携した研修プログラムの検討が必要である。</p> |
| 285 | | <p>医療技術職員については、「人事・研修の基本方針(平成24年3月策定)」に基づく各職種の研修を実施するとともに、専門研修の充実を検討する。</p> | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各技術部門は、自らが構築した研修体系に基づき職員の知識技術の向上を図っている。 臨床検査科では超音波検査士(循環器)取得のため、こども病院エコーセンターの専門研修を実施中である。また、専門認定取得においては、認定血液検査技師、超音波検査士(体表)、緊急検査士各1名取得。 臨床工学科では人工呼吸器点検技術講習会、栄養ポンプ、フットポンプ保守点検研修会等に参加し、メンテナンス技術の向上を図った。 <p>血液浄化専門臨床工学技士、呼吸専門臨床工学技士の資格を各1名が取得した。</p> <p>(課題) 各種研修の継続的な運用が求められている。</p> |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|---|
| 286 | | | 駒ヶ根 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務に必要な外部研修を積極的に受講したほか、県立病院リハビリ技師会作成の教育プログラム等を人材育成に活用した。 ・日本作業療法学会、医療観察法通院医療研究会、日本医療薬学会等、各種学会において、各職種の職員が日頃の研究成果等を積極的に発表するとともに、先進的な研究成果の習得などを図った。 <p>(課題)</p> <p>限られた人員の中で業務を行っているため、研修等で不在となる時の業務分担が課題である。</p> |
| 287 | | | 阿南 | B | <p>(業務の実績)</p> <p>各職種の専門研修については、各職種において資格取得、知識・技術の向上のための研修会等にそれぞれ参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診マンモグラフィ撮影認定技師の更新研修へ参加した。 ・専門研修に積極的に参加して、認定心電検査技師の資格を取得した。 <p>(課題)</p> <p>新規採用者に対する、院内の他のセクションによる研修等は、少人数の職場であって本来業務の習得を優先させている現状下では、実施が難しい。</p> |
| 288 | | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>従前の新卒の臨床検査技師を中心に行った研修について、24年度から医療技術部の新卒の職員にその対象を広げ、引き続き実施している。</p> |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|---|----------|----|--|
| | | | 病院 評価 | 説明 | |
| 289 | <p>ア 研修体制の構築</p> <p>(ア) 研修システムの構築</p> <p>職員研修の企画運営を行う研修センターを創設し、基礎研修や職種ごとの専門研修など充実した研修カリキュラムを作成・運用して職員の知識・技術を向上させる。</p> <p>また、職員が積極的に学会等で発表できる環境を整備して、職員の研究意欲の増進につなげる。</p> | <p>医療技術職員については、「人事・研修の基本方針（平成24年3月策定）」に基づく各職種の研修を実施するとともに、専門研修の充実を検討する。</p> | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>○研修等実績</p> <p>(1) 臨床検査科 ア, 卒後研修「検査全般から専門分野まで」を15回実施 イ, 認定臨床微生物検査技師精度研修施設認定取得 ウ, エコーセンター研修会「小児泌尿器疾患の超音波画像」等を4回実施, エコーシミュレーター研修を2回実施</p> <p>(2) 放射線技術科 ア, 卒後研修「放射線障害防止法に基づく研修」を実施 イ, 放射線安全管理講習会の開催 ウ, 中間管理研修「問題発見・解決力向上」研修への参加 エ, 成育医療センター主催「小児放射線検査技術講習会」へ参加</p> <p>(3) 薬剤科 日本薬剤師研修センター認定の学会、研修会等へ17回参加</p> <p>(4) 栄養科 NST認定研修（相澤病院）受講2名</p> <p>(5) 臨床工学科 ア, JaSECT実技セミナーへ2回参加 イ, 第12回臨床ME専門認定士認定更新講習会へ参加 ウ, 医療機器安全管理研修を38回実施</p> <p>(6) リハビリ科 ア, 卒後・専門研修等へ10回参加 イ, 長野盲学校公開授業の開催</p> <p>○認定資格取得実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線治療専門技師&放射線治療品質管理技師 取得1名 ・核医学専門技師 取得1名 ・放射線管理士 取得1名 ・微生物学二級臨床検士資格認定 取得1名 ・緊急臨床検査士資格認定 取得1名 ・一級遺伝子分析科学認定士 取得1名 ・感染制御認定臨床微生物検査技師 取得1名 ・臨床細胞遺伝学認定士・指導士 取得1名 ・NST専門療法士 取得1名 ・学位取得信州大学博士（工学） 取得1名 ・小児薬物療法認定薬剤師 取得2名 ・放射線機器管理士 取得2名 ・Ai認定診療放射線技師 取得1名 ・認定臨床微生物検査技師 取得1名 |

| | | | | |
|-----|--|------|---|---|
| | | | | (課 題) 職種毎の業績評価と整合した人事・研修の基本方針に基づく研修の推進を図る。 |
| 290 | | 機構本部 | B | (業務の実績) ・「人事・研修の基本方針（平成24年3月策定）」に基づき、研修を実施した。 ・9月 医療技術部長会議開催し、研修プログラム未策定の職種について策定を依頼した。会議では研修の進め方に係る意見交換を行い、課題を整理した。 (課 題) ・研修実施に際しての課題への対応策の検討 ・研修プログラムの作成（未作成の職種） |
| 291 | | 須坂 | A | (業務の実績) ・院内研究発表会、医療安全研修会、院内感染対策研修会等を企画運営した。 ・5月30日 クリニカルパス大会の企画と運営を行った（11演題）。 ・1月26日 院内研究発表会の企画と運営を行った（16演題）。 (課 題) 引き続き研究会等を企画運営しスキルアップに努める |
| 292 | 各県立病院においては、病院独自の中堅職員等院内研修の実施、学会等の企画・運営への積極的な関与等の取組みを通じ、職員の目的意識の醸成、知識・技術の向上を図る。 | 駒ヶ根 | A | (業務の実績) ・感染症対策、省エネ対策、経営状況、統合失調症、うつ病、自閉症、行動制限最小化、接遇、情報セキュリティ、褥瘡予防及び栄養サポート等をテーマとする各種院内共通の研修を延べ30回以上実施したほか職種ごとに必要な院内外の研修や学会に積極的に参加することを通じて職員の資質向上を図った。 ・11月2日に長野県自治体病院研究会、12月7日に長野県立病院等合同研究会を開催し、その企画・運営に多くの職員が携わることで、研究会の成功に貢献した。 ・院内において日頃の研究成果を発表する機会を複数回設けて、各部門における取組状況等について院内で共有化を図った。 (課 題) 院内における体系的な人材育成の仕組みの構築 |
| 293 | | 阿南 | A | (業務の実績) ・中堅看護師研修をシリーズ形式で引き続き3回実施した。（講師：信州大学医学部附属病院 牛田先生） ・院内で医療安全研修会を開催し59名の参加があった。 |
| 294 | | 木曾 | A | (業務の実績) ・院内の各委員会が準備し、早朝勉強会、医療安全研修会、院内感染対策研修会、診療報酬勉強会及び症例検討会等を活発に行っている。 ・7月26日に災害医療講演会、12月5日に医療安全講演会、12月13日に緩和ケア研修会、2月4日に医の倫理講演会等を行い、職員の資質向上に努めた。 |

| | | | | | |
|-----|--|---|------|---|--|
| 295 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>院内臨床研修助成制度、院内業績優秀制度、院外研修助成制度を制定し、職員の研修、研究体制を充実させたことで、英文論文、著書の数も増加した。医療技術部職員が信州大学で博士号を取得した。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 当院の将来を担う人材を育成するために平成24年度に創設した「こども病院職員研修助成基金制度」について、新生児の発達支援のための研修に対する助成を決定し、東京都立墨東病院（10月）及び愛仁会高槻病院（1月）へそれぞれ1名の職員派遣を行った。 • また、学術活動を通して職員の資質向上を図り、小児専門医療機関としての当院の専門性、学術レベルを一層向上させるとともに、当院の対外的な認知度を高めるために、学会等における職員の研究発表等について支援を行う制度を今年度新たに創設し、165件の研究発表等を支援した。 • 小児の専門的救急医療対応ができる職員のスキルアップ・教育制度 <ol style="list-style-type: none"> ① 6月19日から22日に、モスクワで開催された世界周産期学会において、小児科後期専門研修医2名が発表を行った。 ② 9月14日に信州大学で開催された信州医学英語フォーラムにおいて、小児科後期専門研修医1名が発表を行った。 ③ 9月29日から10月6日までのハワイ大学SimTikiでのシミュレーション研修に小児科後期専門研修医1名が参加した。 <p>(課題)</p> <p>今後の継続により、厚生労働省からの科学研究費の確保に努める。</p> |
| 296 | | <p>機構本部では、各病院とも協力し、事務職員を対象とした体系的な研修プログラムを整備するとともに、通年で、病院内及び機構全体での集合研修などを行う。</p> <p>また、県立病院等合同研究会の開催、職員が関与する学会運営への支援等を通じ、職員が研究成果等を発表できる場を提供する。</p> | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 第10回県立病院等合同研究会を以下のとおり開催した。 <p>日時：12月7日 場所：長野県看護大学講堂 参加者：191名</p> <p>参集範囲：5病院及び県総合リハビリテーションセンターの役職員</p> <p>一般演題：14題、特別講演：「震災後のメンタルケアについて」</p> <p>講師：ふくしま心のケアセンター所長 昼田原四郎先生</p> <p>※終了後、一般演題を共有データとして公開した。</p> • 11月2日にこころの医療センター駒ヶ根で開催される長野県自治体病院研究会の講師について、助言を行った。 |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

4 人材の育成・確保と県内医療水準の向上への貢献

(1) 研修体制と医療従事者確保対策の充実

| | |
|------|---|
| 中期目標 | <p>ア 研修体制の構築</p> <p>(イ) 臨床研修医の積極的な受入れ</p> <p>魅力ある研修システムを構築し、初期（卒後）臨床研修医及び後期（専門）臨床研修医の確保に努め、県内医療機関への定着を図ること。</p> |
|------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|---|------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 297 | | | 須坂 | A (業務の実績) ・初期臨床研修医は今年度新たに2名を受入れた。 ・研修医に対する臨床研修病院合同説明会へ4回参加した。 ・指導医講習会を未受講であった医師4名が講習会を受講した。 |
| 298 | ア 研修体制の構築 (イ) 臨床研修医の積極的な受入れ 研修センターの設置により、県立病院のネットワークを活かした特色のある臨床研修プログラムを充実させて臨床研修医の受け入れの拡大を図る。 | (イ) 臨床研修医の積極的な受入れ 各県立病院が持つ特長的な機能を活用した臨床研修プログラムに基づき臨床研修医を積極的に受け入れる。 | 駒ヶ根 | A (業務の実績) 協力型臨床研修指定病院として、初期臨床研修医7名の受け入れを行った。 (課題) 引き続き、臨床研修指導医の確保に努める。 |
| 299 | また、各県立病院の持つ専門性や特長を活かしながら受け入れ体制を整備して、後期（専門）臨床研修医を積極的に受け入れる。 | | 阿南 | A (業務の実績) 協力施設として「家庭医コース」を担当し、須坂病院から3名、飯田市立病院から2名の研修医を受け入れた。 |
| 300 | | | 木曾 | A (業務の実績) ・基幹型病院として、25年度は1年目初期臨床研修医を1名受け入れた。昨年度からの初期研修医1名が2年目として在籍した。 ・松本市立病院の2年目初期臨床研修医を2週間受け入れた（王滝村国民健康保険診療所で研修）。 |
| 301 | | | こども | B (業務の実績) 延べ11名の小児科後期専門研修医を当院または関連する施設で受け入れた。また、6月から当院集中治療科副部長が、本部研修センターの副センター長に就任し、当院での経験と実績を活かして、機構内における小児医療の |

| | | | | |
|-----|---|-----|-----------|--|
| | | | | 質の向上に貢献した。 (課 題) 継続的で魅力ある研修体制の整備 |
| 302 | | | 機構本部 B | (業務の実績) ・ 3月 須坂病院とともに研修医合同説明会に参加し研修体制等を説明、研修医確保を働きかけた。 ・ 研修医の受け入れ各病院の取組への支援等 (課 題) 研修医確保対策について病院との連携 |
| 303 | こども病院では、各県立病院の研修医に対する英語教育の強化を図るとともに、短期小児専門診療研修制度の整備を行う。 また、小児シミュレーション研修等小児の専門的救急医療対応ができる職員のスキルアップ・教育制度を整備し、質の高い小児救急医療サービスの確保を図る。 | こども | B | (業務の実績) ・ 信州英語カンファランスでの発表が一題あり。 ・ 国際学会で2名の研修医が発表、1名の研修医が英文論文を作成受理された。 (課 題) 引き続き国際学会発表、英文論文作成を指導する。 |
| 304 | 県立病院が担う地域医療の実践に求められる家庭医及び病院総合医を育成するための研修プログラムを引き続き構築するとともに、指導医の確保・養成のための体制確立に努める。 | | 機構本部 B | (業務の実績) ・ 信州型総合医養成プログラムの認定を受けた(須坂病院)。 ・ プライマリケア連合学会の指導医取得4名(須坂3名、阿南1名)した。 ・ 研修医をはじめとした医療従事者向け講演会を実施。 (課 題) ・ 須坂病院を中心とした研修プログラム内容の具体的検討 ・ 各病院間での研修内容の調整 |
| 305 | 研修センターでは、県の「信州医師確保総合支援センター」分室として、県医学修学金貸与学生等からの相談に応じ、将来のキャリア形成支援と受け入れを行うなど、県の医師確保対策の支援を行う。 | | 機構本部 B | (業務の実績) 阿南病院内にへき地医療研修センターを設け、信州型総合医養成プログラムの研修拠点として位置付けた。 (課 題) ・ 研修カリキュラム内容の具体的検討 ・ 須坂病院等との病院間の研修内容の調整 ・ 指導医体制の充実 |

- ・ 信州型総合医養成のための5病院の特色を生かしたプログラムを策定する。(機構本部 267再掲)
- ・ 医師卒後研修施設がある県内の公的病院と連携し、各病院のスキルラボを用いたシミュレーション研修を引き続き実施するとともに、チーム医療の推進のため複数の職種との連携に関する教育・啓発の推進を図るなど、多施設連携による地域医療人研修ネットワークの構築を引き続き推進する。(機構本部 115再掲)

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

4 人材の育成・確保と県内医療水準の向上への貢献

(1) 研修体制と医療従事者確保対策の充実

| | |
|------|--|
| 中期目標 | <p>ア 研修体制の構築</p> <p>(ウ) 認定資格等の取得の推進</p> <p>認定看護師・専門看護師の資格取得を促し、看護水準の向上を図ること。</p> <p>医療技術職を対象とした専門的な研修体制等を充実するとともに、病院機能の向上に資する認定資格の取得を奨励し、技術水準の向上を図ること。</p> |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|---|------|----------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 | |
| 306 | <p>ア 研修体制の構築</p> <p>(ウ) 認定資格等の取得の推進</p> <p>看護水準の向上を図るために、認定看護師・専門看護師の資格取得を奨励するとともに、そのための専門研修が受けられる環境を整える。</p> <p>医療技術職がより高度な医療技術を修得するための研修が受けられる環境を整え、県立病院の医療機能向上のため必要な認定資格の取得を奨励する。</p> | <p>(ウ) 認定資格等の取得の推進</p> <p>各県立病院において認定看護師・専門看護師等の資格を取得するための専門研修への派遣を積極的に行う。</p> <p>また、医療技術職員については、「人事・研修の基本方針」に基づき、認定資格等の取得を奨励するとともに、専門研修への派遣体制を整える。</p> <p>なお、研修センターは、各職種と連携して県立病院の医療機能向上のために必要な資格に関する積極的な情報提供を行うとともに、認定資格の取得に向けた支援を行う。</p> | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の認定看護師の取得状況は以下のとおり。 救急看護認定看護師 2名 感染管理認定看護師 1名 皮膚・排泄ケア認定看護師 1名 摂食・嚥下認定看護師 1名 がん化学療法看護認定看護師 1名 (研修終了) <ul style="list-style-type: none"> 臨床検査科では超音波検査士(循環器)取得のため、こども病院エコーセンターの専門研修を実施中である。また、専門認定取得においては、認定血液検査技師、超音波検査士(体表)、緊急検査士各1名取得した。 血液浄化専門臨床工学技士、呼吸専門臨床工学技士の資格を各1名が取得した。 |
| 307 | | | 駒ヶ根 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 1名受講 看護大学大学院 1名修学 <p>(課題)</p> <p>退院調整、うつ病、訪問看護、行動制限最小化、児童精神科及び司法医療等の精神科医療に専門特化した認定看護師及び専門看護師等の育成を行う。</p> |
| 308 | | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定看護師の資格取得のための専門研修派遣を行った。(2名派遣) 26年6月認知症認定看護師1名について資格取得予定 臨床検査科 認定心電検査技師取得 1名 |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|---|
| 309 | | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護管理研修ファーストレベルに2名の看護師派遣 ・糖尿病認定看護師教育課程修了 1名 ・認知症認定看護師教育課程修了 1名 ・細胞検査士 取得 1名 ・三学合同呼吸療法認定士 取得 1名 ・放送大学院(修士課程) 1名 ・放射線治療認定技師更新ポイント取得 1名 ・マンモグラフィ認定技師更新 1名 ・放射線治療認定資格更新ポイント取得 1名 ・中信地域糖尿病療養指導士 取得 1名 ・がん薬物療養認定薬剤師更新 1名 |
| 310 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児看護専門看護師資格取得 1名 ・小児救急看護認定看護師資格取得 1名 ・がん化学療法認定看護師資格取得 1名 ・微生物学二級臨床検士資格認定 1名 ・緊急臨床検査士資格認定 1名 ・一級遺伝子分析科学認定士 1名 ・感染制御認定臨床微生物検査技師取得 1名 ・臨床細胞遺伝学認定士・指導士取得 1名 ・放射線治療専門技師&放射線治療品質管理技師資格取得 1名 ・核医学専門技師資格取得 1名 ・放射線機器管理士資格取得 2名 ・放射線管理士資格取得 1名 ・Ai撮影認定技師資格取得 1名 ・NST専門療法士取得 1名 ・学位取得信州大学博士(工学)取得 1名 ・小児薬物療法認定薬剤師取得 2名 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門及び認定看護師資格を取得した看護師が、院内で組織横断的な活動を拡大してきているが、組織としてその活動を支援する体制整備を行う |

| 311 | | | 機 構 本 部 | B | <p>(業務の実績)</p> <p>9月の医療技術部長会議において、研修プログラム未策定の職種について策定を依頼、研修の進め方に係る意見交換と課題の整理を行った。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修実施に際しての課題への対応策の検討 ・研修プログラムの作成（未作成の職種） | | | | | | | | | | | | |
|---------|-------------|--|------------------|-------------|---|---------|----|----|------------------|---|--|----|--------|--------|---------|----|----|
| 312 | | <p>認定資格の取得人数</p> <table border="1" data-bbox="577 443 1016 544"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>24年度 実 績</th> <th>25年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定看護師資格</td> <td>3名</td> <td>2名</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記のほか、平成25年度は研修派遣 予定5名</p> | 区分 | 24年度 実 績 | 25年度 目標値 | 認定看護師資格 | 3名 | 2名 | 機 構 本 部 | B | <p>(業務の実績)</p> <p>認定資格の取得人数</p> <table border="1" data-bbox="1160 485 1841 560"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>24年度実績</th> <th>25年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定看護師資格</td> <td>3名</td> <td>2名</td> </tr> </tbody> </table> | 区分 | 24年度実績 | 25年度実績 | 認定看護師資格 | 3名 | 2名 |
| 区分 | 24年度 実 績 | 25年度 目標値 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定看護師資格 | 3名 | 2名 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区分 | 24年度実績 | 25年度実績 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定看護師資格 | 3名 | 2名 | | | | | | | | | | | | | | | |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

4 人材の育成・確保と県内医療水準の向上への貢献

(1) 研修体制と医療従事者確保対策の充実

| | |
|------|---|
| 中期目標 | ア 研修体制の構築 (エ) 大学院等への就学支援 県立病院で働きながら、大学院等で学べるシステムを導入して、医療従事者の資質の向上を図ること。 |
|------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|------|--|---|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 313 | ア 研修体制の構築 (エ) 大学院等への就学支援 県立病院での業務に活かせる知識・技術等を修得するため、病院で働きながら大学院等に進学できる環境を整備する。 また、自己研鑽のために大学院等への進学を希望する職員に対しても、一定の配慮を行う。 | (エ) 大学院等への就学支援 県立病院での業務に活かせる知識・技術等を取得させるため、大学院等へ進学できる環境を整備する。 | 機構本部 | A | (業務の実績) ・機構ホームページにおいて、看護職員募集と併せて修学部分休業制度利用者の声を掲載した。 ・25年度はこども病院で1名の利用者があった。 (課題) さらなる人材の確保と定着へ向けて病院機構ニュースにおいて引き続き周知を行う。 |
| 314 | | | 須坂 | — | (業務の実績) 利用者なし |
| 315 | | 駒ヶ根 | A | (業務の実績) 看護師1名が修学部分休業制度を利用し看護大学大学院へ修学している。平成26年4月からさらに看護師1名がこの制度を利用し、看護大学大学院へ入学予定。 | |
| 316 | | 阿南 | A | (業務の実績) ・通信課程の看護学校へ進学した職員については勤務体制への配慮を行い、資格取得のための環境を整備した。 ・2名が放送大学を受講中 | |
| 317 | | 木曾 | — | (業務の実績) 利用者なし | |

| | | | | | |
|-----|--|--|------|---|--|
| 318 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>当院看護師 1 名が修学部分休業を活用して信州大学大学院の課程を履修した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信州大学大学院医学系研究科修士課程医科学専攻遺伝カウンセリングコース ・部分休業期間：平成25年 4 月 1 日～26年 3 月31日 ・勤務の形態 週23時間15分勤務 ・当該職員は平成26年度は自己啓発休業を活用予定 |
| 319 | | | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機構ホームページにおいて、看護職員募集と併せて修学部分休業制度利用者の声を掲載した。 ・25年度はこども病院で 1 名の利用者があった。 <p>(課題)</p> <p>さらなる人材の確保と定着へ向けて病院機構ニュースなどにおいて引き続き周知を行う。</p> |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 4 人材の育成・確保と県内医療水準の向上への貢献
 (1) 研修体制と医療従事者確保対策の充実

| | |
|------|---|
| 中期目標 | イ 医療従事者の確保 多様な勤務形態の導入及び診療等に専念できる環境の整備等を進め、医師をはじめとする医療従事者の確保に努めること。 |
|------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|------|----------|---|
| | | | 病院 | 評価 説明 | |
| 320 | イ 医療従事者の確保 研修システムの構築に加え、医師をはじめとする医療従事者が魅力を感じる多様な雇用形態や勤務形態の整備及び医師等の負担を軽減するための医療クラーク（医師事務作業補助者）等の導入などにより医療従事者の確保に努めるとともに、県立病院への定着を図るための環境を整備する。 また、病院機構に就職を希望する看護学生に対する修学資金貸与制度を創設し、看護師等の確保を図る。 | イ 医療従事者の確保 医師・看護師をはじめとする積極的な人材確保に引き続き取り組むとともに、機構本部では人材確保と採用事務を一体的に担う体制を整備するなど、医療従事者の確保に向けた取組みを強化する。 （ア）医師・看護師・医療技術職員の確保 ・ テレビCMの活用等広報の充実、医療系職種養成学校や高校への積極的な訪問活動、看護師採用セミナーへの積極的な参加等医療系職種採用活動の充実を図る。 ・ 医師求人サイトへの掲載の継続や、新たに創設した医師研究資金の活用などにより医師確保対策の充実を図る。 ・ 看護学生に対する修学資金貸与制度を積極的に活用する。 ・ 医療技術職員のプロパー化を計画的に進めるための、平成26年度以降の採用計画を策定する。 | 須坂 | A | （業務の実績） ○広報活動 ・ 情報誌「長野こまち」への掲載 ・ TV・ラジオ「須高ケーブルテレビ」 ・ 7月29日～8月2日 テレビ信州「奥様はホームドクター」川村達哉形成外科部長「小外傷の応急処置」 ・ 9月28日 長野放送「健康ばんざい」山崎善隆呼吸器内科部長兼感染制御部長「結核」 ・ 12月1日 SBCラジオ「こんにちはドクター」張淑美内視鏡診療部長「胆石」 ・ 12月16日～12月20日 テレビ信州「奥様はホームドクター」鈴木一史在宅診療部長「いつまでも「我が家」で暮らすために～在宅医療とは何か～」 ・ 長野こまち「Komachi1月号」石井栄三郎小児科部長「子どもの感染症は予防が第一！予防接種の大切さを知ろう」 ・ 長野こまち「Komachi3月号」坂口みほ健康管理センター部長補佐「生活習慣病について」 ・ 長野こまち「Komachi5月号」石井栄三郎小児科部長「予防接種の重要性について」 ・ 新聞「須坂新聞」への掲載 ・ その他「県立図書館カバー」「須坂市便利帳」「広報すぎか」ほか ・ 業者が主催した就職ガイダンスに、県内外合わせて4回参加した。 ・ 看護学生修学資金貸与制度利用者は13名 |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|---|
| 321 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年4月に児童精神科担当の副院長を採用したほか、退職補充で新たに2名の医師を採用し、診療機能の維持・向上に努めた。 看護師確保のため、機構本部と連携して県内3箇所、県外7箇所の養成校や大学を訪問し、病院の紹介、看護師応募の案内、修学資金貸与制度の活用の働きかけ等を行った。 平成26年4月から精神保健福祉士1名を正規採用し、多機能デイケア機能強化を図った。 平成26年4月から薬剤師1名、管理栄養士1名をプロパー化し職員体制の充実を図った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師の安定的な確保に引き続き取り組む。 看護師の年齢構成のバランスを考慮し、修学資金貸与制度を活用した若年層の看護師の計画的な確保に努める。 |
| 322 | | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師募集チラシを新たに作成し、7月に新聞折込広告を行った。 地元包括医療協議会と協働し、4月27日に飯田女子短期大学キャンパスにて地域版の合同就職ガイダンスを開催し、当院では7名を受付けた。 地元高等学校を9校訪問し、看護師及び医療技術者確保のためのアプローチを行った。 修学資金貸与制度の利用があった看護学生は4名 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|---|----------|---|
| | | | 病院 評価 | 説明 |
| 323 | | イ 医療従事者の確保 医師・看護師をはじめとする積極的な人材確保に引き続き取り組むとともに、機構本部では人材確保と採用事務を一体的に担う体制を整備するなど、医療従事者の確保に向けた取組みを強化する。 | 木曾 | A (業務の実績) 高等学校や専門学校を積極的に訪問（県内5校、県外11校）するとともに、修学資金の利用促進を図り、看護師の確保に努めた。 |
| 324 | イ 医療従事者の確保 研修システムの構築に加え、医師をはじめとする医療従事者が魅力を感じる多様な雇用形態や勤務形態の整備及び医師等の負担を軽減するための医療クラーク（医師事務作業補助者）等の導入などにより医療従事者の確保に努めるとともに、県立病院への定着を図るための環境を整備する。 | (ア) 医師・看護師・医療技術職員の確保 ・ テレビCMの活用等広報の充実、医療系職種養成学校や高校への積極的な訪問活動、看護師採用セミナーへの積極的な参加等医療系職種採用活動の充実を図る。 ・ 医師求人サイトへの掲載の継続や、新たに創設した医師研究資金の活用などにより医師確保対策の充実を図る。 ・ 看護学生に対する修学資金貸与制度を積極的に活用する。 ・ 医療技術職員のプロパー化を計画的に進めるための、平成26年度以降の採用計画を策定する。 | こども | A (業務の実績) ・ 看護師確保のため、機構本部と協力し養成学校への訪問を行った（18校） ・ 県内外の病院合同説明会に、積極的に参加した（8会場） ・ 病院見学会は、年間9回開催し延べ78人が参加、インターンシップは、1泊2日で年間2回開催し30人の参加があった ・ 高校生1日看護体験の開催を2回にし、50人の高校生が看護体験を行った ・ 看護師の採用予定数を確保することができた（正規採用40名） |
| 325 | また、病院機構に就職を希望する看護学生に対する修学資金貸与制度を創設し、看護師等の確保を図る。 | イ 医療従事者の確保 医師・看護師をはじめとする積極的な人材確保に引き続き取り組むとともに、機構本部では人材確保と採用事務を一体的に担う体制を整備するなど、医療従事者の確保に向けた取組みを強化する。 | 機構本部 | B (業務の実績) ○看護師確保対策 ・ 県内外の看護師養成校を訪問し、当機構の研修体制などを説明するとともに受験動向などの情報収集を実施。 （大学41校、短大7校、専門学校等29施設 計77箇所） ・ 薬剤師確保のため東京の薬学部3校訪問 ・ 看護師の通年募集を継続し、選考試験は年5回行うなど、受験しやすい環境整備に努めた。 ・ インターンシップ、病院見学会についてホームページにより周知を行った。 ○修学資金貸与制度 ・ 25年度は2回の募集により28名に貸与が決定した。 ・ 7月の看護部長会議で貸与制度の課題と見直しについて検討し、阿南、木曾病院卒の8万円貸与者について、就業義務年限 |

| | | | | | |
|-----|--|--|----|---|---|
| | | <p>用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療技術職員のプロパー化を計画的に進めるための、平成26年度以降の採用計画を策定する。 人材確保が困難な阿南・木曾病院について、医療技術系学生向けの修学資金貸与制度の活用を検討する。 | | | <p>の取扱を変更した。</p> <p>○医療技術職員の採用</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間2回の採用選考試験により、11職種37名を採用した。 |
| 326 | | <p>医師・看護師をはじめとする積極的な人材確保に引き続き取り組むとともに、機構本部に人材確保担当を設置するなど、医療従事者の確保に向けた取組みを強化する。</p> <p>(7) 医師・看護師・医療技術職員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿南病院では、電子カルテ代行入力業務等を行う、医療クラークを1名増員し、医師事務の負担軽減を図る。 | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療クラークを2名体制とし、電子カルテ代行入力、診断書、意見書作成補助にあたらせ、医師等の負担軽減を図った。 <p>(課題)</p> <p>電子カルテ代行入力、マスター管理を行うため即戦力となる医療クラークの安定的確保が必要である。</p> |
| 327 | | <p>医師・看護師をはじめとする積極的な人材確保に引き続き取り組むとともに、機構本部に人材確保担当を設置するなど、医療従事者の確保に向けた取組みを強化する。</p> <p>(7) 医師・看護師・医療技術職員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 木曾病院では看護師・助産師確保のため、木曾地域の魅力を体験できるインターンシップ事業を展開する。 | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>インターンシップ事業では3名の参加者を得ることができ、そのうち2名を平成26年度に採用できた。</p> |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|---|------|---|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 328 | イ 医療従事者の確保 研修システムの構築に加え、医師をはじめとする医療従事者が魅力を感じる多様な雇用形態や勤務形態の整備及び医師等の負担を軽減するための医療クラーク（医師事務作業補助者）等の導入などにより医療従事者の確保に努めるとともに、県立病院への定着を図るための環境を整備する。 また、病院機構に就職を希望する看護学生に対する修学資金貸与制度を創設し、看護師等の確保を図る。 | (イ) 働きやすい職場環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 育児と仕事の両立を可能とするよう、小学校入学前までの子を養育するための育児短時間勤務制度を活用する。 女性職員が働き続けることのできる環境づくりを検討するなど、女性職員のライフプランの支援を行う。 他の医療機関との相互支援が可能となる兼業制度を活用する。 医師等の負担を軽減するため医療クラーク（医師事務作業補助者）を積極的に採用する。 看護師不足を解消するため、他職種の協力を得ながら看護業務を実施する院内体制を整備する。 | 須坂 | A (業務の実績) <ul style="list-style-type: none"> H24年4月に開設した院内保育所「カンガルーのぼっけ」（定員10名）では、夏季期間はプール及び砂遊び場を設置したほか、保護者会や、親子・職員と楽しむ「夕涼み会」を開催し、ソフト・ハード両面での充実を図るとともに、安心して働ける環境の提供に努めたことで、潜在看護師からの問い合わせも寄せられています。 保育総延人数990名（一日最多実人数 7名） 医師保育延人数 401名 看護師保育延人数 511名 薬剤師保育延人数 78名 <ul style="list-style-type: none"> 育児短時間勤務制度は8人が活用している。 看護師が働き続けられるよう、夜勤回数や勤務年数の検討を行っている。 医師事務作業補助者を配置し、40対1の加算を取得した。診断書作成業務、画像及び手術記録の整理、各種データベース、統計の作成など、積極的に医師の事務作業の軽減を図っている。 看護師不足を解消するため、看護師が行っていた採血を可能な範囲で臨床検査技師が行うこととしたほか、全病棟へ薬剤師を配置するなどの協力体制を維持した。 |
| 329 | | | 駒ヶ根 | A (業務の実績) <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度は看護師2名が育児短時間勤務制度を活用して勤務した。 乳幼児を育てる職員に対し、保育所や子育て支援を行うNPO法人の保育サービスの紹介や斡旋等により、子育て支援を行った。また、職員の子育て支援に対するニーズを把握するためにアンケート調査を実施し、必要な予算を次年度に措置した。 外来に医療クラーク1名を引き続き配置し、医師の負担軽減等を図った。 B1（救急・急性期）病棟に薬剤師が1日2時間程度常駐し、病棟薬剤業務を実施することで医師や看護師の負担軽減を図った。 看護師をはじめ医療スタッフが業務に専念できる環境を整えるとともに障害者雇用を推進するため、平成26年4月に病院業務補助員として障害者2名を採用した。 (課題) 育児短時間勤務職員、産前産後休暇及び育児休業職員の代替職員の確保 |

| | | | | | |
|-----|--|---|------|---|--|
| 330 | | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25年度復帰予定の職員に育児短時間勤務制度活用の周知等を行い制度の活用ができた。また、26年度復帰予定の職員にも周知を行った。 ・医療クラークを2名体制とし、電子カルテ代行入力、診断書、意見書作成補助にあたらせ、医師等の負担軽減を図っている。 <p>(課題)</p> <p>電子カルテ代行入力、マスター管理を行うため即戦力となる医療クラークの安定的確保が必要である。</p> |
| 331 | | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児短時間勤務制度を活用した看護職員は11名であった。 ・23年度から配置した2名の医療クラークを継続雇用し、診断書作成業務を中心に医師事務の補助にあらせている。 ・内視鏡検査業務において、医療技術部職員が看護業務の補助にあたった。 |
| 332 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児短時間制度及び育児部分休業制度を7名が活用して、子育てと仕事の両立を図っている。 ・一般病棟で保育士が1名だった病棟を2名にして、早出・遅出体制とし、患者の対応を協力して行った。 ・平成25年4月から、看護当直職員の心身の負担軽減及び超過勤務の縮減を図ることを目的とした、変形労働時間制を導入した。 ・リハビリテーション科の女性医師1名について、勤務形態である有期短時間勤務職員の制度を有効活用することで、子育て中の女性医師のライフスタイルにあわせて常勤化を図ることができた。 ・他の医療機関との相互支援を行うため、診療業務に係る兼業承認及び職員派遣を積極的に実施した。(25年度実績：112名) ・医療クラークを2名増員して9名を配置し、医師の負担軽減を図っている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜勤回数等の勤務実態の評価は、継続して行っていく。 |
| 333 | | <p>(イ) 働きやすい職場環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児と仕事の両立を可能とするよう、小学校入学前までの子を養育するための育児短時間勤務制度を活用する。 | 機構本部 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25年度育児短時間制度利用者は24名。 ・育児短時間勤務の区分を追加し、より柔軟な勤務ができるよう規程を改正し、12月理事会において可決した。 |

| | | | | |
|--|--|---|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> 女性職員が働き続けることのできる環境づくりを検討するなど、女性職員のライフプランの支援を行う。 他の医療機関との相互支援が可能となる兼業制度を活用する。 | | <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> さらなる人材の確保と定着へ向けて病院機構ニュースなどにおいて引き続き周知を行う。 職員相談等を通じて、今後の制度見直しの必要性を把握するため、利用職員のニーズを把握する。 |
|--|--|---|--|--|

- 働きながら大学院等への進学を希望する職員に配慮した修学部分休業制度を活用する（5病院・機構本部 314～319再掲）

(ウ) 職員のキャリアアップに対する支援

- 基礎研修から専門研修まで含めた職員にとって魅力のある研修体系と研修カリキュラムを構築する（機構本部 267再掲）
- 医療技術職員については、「人事・研修の基本方針」に基づき各職種の研修体系を構築し、運用を開始する（5病院・機構本部 306～311再掲）

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

4 人材の育成・確保と県内医療水準の向上への貢献

(1) 研修体制と医療従事者確保対策の充実

| | |
|----------|--|
| 中期 目標 | ウ 医療関係教育機関等への支援 県立看護専門学校等の医療関係教育機関へ職員を講師として派遣するとともに、実習の受入れ等を積極的に行い、県内医療従事者の育成に貢献すること。 |
|----------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|------|----|--|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 334 | ウ 医療関係教育機関等への支援 県内での活躍が期待される医療従事者等の育成に資するため、医療関係教育機関からの要請に基づいて職員を講師として派遣するとともに、県立病院の持つ機能を活用して実習の受入れ等を積極的に行う。 | ウ 医療関係教育機関等への支援 県内医療関係教育機関等での教育を担うため職員を派遣する。また、実習生を積極的に受け入れる。 | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県立須坂看護専門学校に医師、看護師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の講師を派遣し、実習指定病院として積極的に看護学生を受入れている。 講義は保健医療論、病理学、疾病と治療論、治療論、総合看護等合計342時間行っている。 医師講義時間 140時間 看護師、助産師講義時間 188時間 診療放射線技師、臨床検査技師講義時間 14時間 ・県内勤務者で2年課程の通信制看護学校の学生実習も3名を受け入れた。 ・高校生1日看護師体験を2回実施した。 7月24日 参加者25名 7月31日 参加者18名 <p>(課題)</p> <p>引き続き継続していく</p> |
| 335 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県看護大学、飯田女子短期大学、須坂看護専門学校、木曾看護専門学校及び上伊那医師会附属准看護学院へ看護師等延べ11名を講師として派遣した。 ・長野県看護大学、須坂看護専門学校及び木曾看護専門学校を始めとする看護師養成校、上伊那准看護学院の実習生について、合計140名を順次受け入れたほか、県内外の精神保健福祉士養成校、作業療法士養成校の実習生25名及び認定看護師実習生1名を受け入れた。 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|----------|------|---|
| | | | 病院 番号 | 中期計画 | |
| 336 | ウ 医療関係教育機関等への支援 県内での活躍が期待される医療従事者等の育成に資するため、医療関係教育機関からの要請に基づいて職員を講師として派遣するとともに、県立病院の持つ機能を活用して実習の受入れ等を積極的に行う。 | ウ 医療関係教育機関等への支援 県内医療関係教育機関等での教育を担うため職員を派遣する。また、実習生を積極的に受け入れる。 | 阿南 | A | (業務の実績) 飯田女子短期大学へ「基礎看護技術論Ⅴ」の講師として、2名を3回ずつ派遣した。また、実習生については以下のとおり積極的に受け入れた。 ・飯田女子短期大学(2回) 10名 ・阿南高校 30名 ・阿南第一中学校 2名 |
| 337 | | | 木曾 | A | (業務の実績) ・看護大学の認定看護師養成課程に年数回講師として認定看護師1名を派遣した。 ・医師、看護師、理学療法士等の受入れを積極的に行った。 |
| 338 | | | こども | A | (業務の実績) ・県看護大学、信州大学医学部医学科・保健学科、佐久大学、松本短期大学、岡谷看護専門学校等に小児、産科講義の講師として10名の職員を派遣した。 ・信州大学医学部保健学科及び県看護大学の実習生を積極的に受け入れた。 (課題) 信州大学医学部との連携大学院構想を進める。 |
| 339 | | | 機構本部 | B | (業務の実績) 10回の講演会を開催した。 ・5月18日「ERにおけるトラブル回避」(松本市) ・6月29日「医療の場のコミュニケーション」(松本市)、 ・8月3日「呼吸器科の診療」(松本市)、 ・8月20日「プライマリケアでの高血圧のマネジメント」(須坂市)、 ・10月15日、16日、17日ハワイ大学医学部ベンジャミン・W.バーク教授によるシミュレーション教育(上田市・須坂市・安曇野市) ・11月2日「総合診療科の教育、診療、指導者養成の実際」(長野市) ・12月14日「新人・後輩指導にいかす シミュレーション教育での指導法(阿南町)」 ・1月25日「新たな専門医の仕組みと総合診療専門医」「東京医療センターでの総合診療科の立ち上げの経緯と診療の実際(上田市) (課題) 地域医療再生基金活用事業による講演会等で、大学などとの積極的な交流を進める。 |

- ・ 地域医療機関等に研修センターのスキルラボや装置を活用できる仕組みを整備するとともに、地域医療機関の職員が参加できるシミュレーション研修等の充実を図る。(機構本部 123再掲)
- ・ ハワイ大学医学部SimTikiシミュレーションセンターの教授を引き続き招聘し、職員及び県内外の医療関係者を対象とした「シミュレーション・トレーニング」に関するセミナーを開催する。(機構本部 281再掲)
- ・ 3Dモデル造形センターについては、県内医療水準の向上にも貢献できるよう、地域の医療機関・医療関係教育機関からの利用にも対応していく。(こども病院) (こども 125・188再掲)

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

4 人材の育成・確保と県内医療水準の向上への貢献

(2) 医療に関する調査及び研究

| | |
|----------|--|
| 中期 目標 | ア 診療情報等の活用 診療等を通じて得られる診療情報を医療の質の向上のために活用すること。また、他の医療機関へも情報提供を行い、県内の医療水準の向上に努めること。 なお、個人情報の取扱いには十分留意すること。 |
|----------|--|

【中期計画】

ア 診療情報等の活用

情報通信技術を活用し、これまで県立病院に蓄積された診療情報を適切に保存・管理するとともに分析し、医療の質の向上に活用する。
また、必要に応じて他の医療機関へも情報提供を行い、共同研究等を通じて県内の医療水準の向上に取り組む。
なお、病院機構として個人情報保護規程を定め、個人情報の取り扱いと保護に十分な注意を払う。

【年度計画】

ア 診療情報等の活用（以下再掲）

県立病院間で統一性を持った、診療情報の分類・集計が可能になるような体制を整備する。（機構本部 90再掲）

- ・ 県立病院間高画質診療支援ネットワークシステムのハイビジョン映像と医用画像等を介しての、多地点連結医療従事者カンファレンスを実施する。
- ・ 上記システムを用いて信州大学医学部附属病院とこども病院の間で手術室映像やセントラルモニタ（生体情報モニタ）のデータを配信、共有して行うカンファレンスを実施する。
- ・ こども・須坂・信州大学医学部附属・長野赤十字病院間で実施している、「信州メディカルネット」を利用した電子カルテの相互参照について、他の県内医療機関との相互参照の拡充を図るとともに、こころの医療センター駒ヶ根についても、平成26年度の本稼働に向け構築を進める。
- ・ 阿南病院では平成25年度の電子カルテシステム等の開発に併せて平成26年度からの「信州メディカルネット」への参画を目指す。
- ・ DWH（データウェアハウス）の抽出・分析ツールの構築を引き続き進め必要に応じた診療・会計データの参照・分析等が行えるようにするとともに、DPC（診断群分類包括評価）調査データを様々な分析に活用する。
- ・ 県立5病院の主要なクリニカルインディケーター（臨床評価指標）をイントラネット上などで確認ができるシステムを構築する。

個人の権利利益の保護と併せ、県民の情報公開を求める権利に配慮して、長野県個人情報保護条例及び長野県情報公開条例に基づいた適切な情報管理を行う。
個人情報の適正な取り扱いを継続していくために、全職員に対する研修を引き続き実施する。

併せて、県立病院情報基盤ネットワークの適切な運用を図るとともに、情報セキュリティに関する知識の習得や意識の高揚を図るため、機構独自の情報セキュリティ研修を引き続き開催する。

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

4 人材の育成・確保と県内医療水準の向上への貢献

(2) 医療に関する調査及び研究

| | |
|------|--|
| 中期目標 | イ 地域への情報発信 県立病院で行った調査及び研究の成果をホームページや地域との懇談会等を通じて公開していくこと。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|--|------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 340 | イ 地域への情報発信 地域における健康に対する関心を高め、健康維持・増進に対する取り組みを促すために、ホームページや地域の懇談会、各種講演会等で県立病院の調査及び研究の成果等を公開し、県民の健康増進に寄与するとともに県立病院に対する信頼の向上にもつなげる。 | それぞれの病院が取り組む調査及び研究の成果等について、県立病院のホームページに掲載する。 | 須坂 | A (業務の実績) ・ 当院医師の学会等における優秀賞の情報を公開している。 赤松副院長 (兼内視鏡センター長) 「上原 H. Pylori賞 優秀賞」を受賞 「ヘリコバクター・ピロリ感染症の学校検診への導入」 (平成25年6月28日 (金) 29日 (土) 第19回日本ヘリコバクター学会) ・ 医師 (126件) 看護部 (38件) 医療技術部 (26件) の講演会講師、学会活動等を8月からホームページに掲載している。(ホームページ総閲覧数 1030件 月平均128.8件) ・ 長野県立須坂看護専門学校への医師、看護師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の講師派遣については以下の実績を掲載している。 医師講義時間 140時間 看護師、助産師講義時間 188時間 診療放射線技師、臨床検査技師講義時間 14時間 (講義は保健医療論、病理学、疾病と治療論、治療論、総合看護等合計342時間) ・ 経営企画室会議において診療実績のホームページ掲載を議論し、以下の内容を12月24日から掲載した。(ホームページ閲覧数 519件) 「年齢階層別退院患者数」「疾病大分類別退院患者数」「地域別退院患者の割合」「地域別、年度別退院患者数」「診療各科実績・入院化学療法件数」「患者満足度調査結果」 ・ 興味を引く「看護師ブログ」のため、看護師の新入職員に対して行った就職活動アンケートを参考資料として9月12日にリニューアルオープンしiPadにて維持管理している。(ホームページ閲覧数 約1200件) |

| | | | | |
|-----|--|--|-------|---|
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・当院の医師、看護師、医療技術職員が講師を務める出前講座の53のメニューを公開している。 ・NSTの活動状況を公開している。 ・摂食・嚥下チームの活動状況を公開している。 <p>(課題) ホームページ構成の見直し</p> |
| 341 | | | 駒ヶ根 A | <p>(業務の実績) 1月と2月に実施した患者満足度調査の結果をホームページに掲載した。 病名別のデータを取りまとめホームページに掲載した。</p> <p>(課題) 見やすいホームページへの変更、データの充実</p> |
| 342 | | | 阿南 A | <p>(業務の実績) 医療講演会の開催案内、改築工事の進捗状況、その他病院のお知らせなどをその都度ホームページに掲載し、常に新しい情報の発信に努めた。</p> |
| 343 | | | 木曾 B | <p>(業務の実績) 当院職員、地域の関係者を対象に、緩和ケア、災害医療等の講演会を実施した。</p> <p>(課題) ホームページに公開し、地域住民の参加を促す。</p> |
| 344 | | | こども B | <p>(業務の実績) ・公開講座の開催案内のホームページへの掲載。 ・感染症流行での注意喚起・ ・各診療科での診療実績や手術成績についてホームページで公開している。</p> <p>・地方紙で連載している感染症の記事について、発行先の了解の基ホームページに掲載している。</p> <p>(課題) ・ホームページ更新作業者の複数化</p> |

| | | | | | | | | |
|-------|---|---|-------------------|---|--|-------|----------------------------|---|
| 345 | イ 地域への情報発信 地域における健康に対する関心を高め、健康維持・増進に対する取り組みを促すために、ホームページや地域の懇談会、各種講演会等で県立病院の調査及び研究の成果等を公開し、県民の健康増進に寄与するとともに県立病院に対する信頼の向上にもつなげる。 | 以下のような県立病院の取り組みや健康情報を広く県民に対しお知らせする「公開講座」を積極的に開催するなど、地域への情報発信に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症診療について（須坂病院） ・ 社会生活における心のケアについて（こころの医療センター駒ヶ根） ・ 在宅医療、疾病の早期発見・早期治療について（阿南病院） ・ 認知症の現状と対策、感染症・糖尿病・腰痛等対策、森林セラピーについて（木曽病院） ・ 出生前診断、口唇口蓋裂、子どもの感染症対策、発達障害について（こども病院） | 須坂 | A | (業務の実績) | | | |
| | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 長野県「世界エイズデー」普及啓発週間に参加し、レッドリボンツリー、啓発品の展示や配布を行った。 ・ 7月～1月 長野県医師会「H I V感染症実態調査（受診者調査）実施。（現在集計中） ・ 情報発信については以下の取組を行った。 | | | |
| | | | | | 5月18日 | 山崎善隆 | 増加する高齢者結核の特徴と院内感染対策 | 北信 ICT 連絡協議会（須坂市） |
| | | | | | 5月28日 | 山崎善隆 | 関節リウマチ治療における感染症対策 | 第175回上水内医師会臨床懇話会（長野市） |
| | | | | | 6月13日 | 石井栄三郎 | 乳幼児の感染症と予防接種について | 中央児童センター（馬場町） |
| | | | | | 6月21日 | 山崎善隆 | 増加する高齢者結核の特徴および COPD の最新治療 | 第35回須高医師会病診連携症例検討会（須坂市） |
| | | | | | 7月11日 | 齊藤博 | エイズについて | 須坂病院、須高医師会出前講座（墨坂中学校） |
| | | | | | 7月18日 | 山崎善隆 | 重症喘息治療に関する講演会 | Expert Meeting for Severe Allergic Asthma in Nagano |
| | | | | | 8月29日 | 山崎善隆 | 結核の基礎知識と感染対策 | 長野県立木曽病院院内感染研修会 |
| | | | | | 9月17日 | 山崎善隆 | 非結核性抗酸菌症の最近の話題 | 第69回秋田県感染症研究会 |
| | | | | | 9月19日 | 山崎善隆 | 結核の病態と高齢者施設における対応 | 長野保健所管内保健師等研修会 |
| | | | | | 9月28日 | 山崎善隆 | 結核 | NBS「健康ばんざい」 |
| | | | | | 9月28日 | 山崎善隆 | 肺結核および非結核性抗酸菌症の最近の話題 | 第6回新潟臨床微生物研究会 |
| 10月5日 | 山崎善隆 | 非結核性抗酸菌症の最近の話題 | 第7回呼吸器感染症の診断と治療を考 | | | | | |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|---|----------|--|
| | | | 病院 評価 | 説明 |
| 346 | イ 地域への情報発信 地域における健康に対する関心を高め、健康維持・増進に対する取り組みを促すために、ホームページや地域の懇談会、各種講演会等で県立病院の調査及び研究の成果等を公開し、県民の健康増進に寄与するとともに県立病院に対する信頼の向上にもつなげる。 | 以下のような県立病院の取り組みや健康情報を広く県民に対しお知らせする「公開講座」を積極的に開催するなど、地域への情報発信に努める。 <ul style="list-style-type: none"> 感染症診療について（須坂病院） 社会生活における心のケアについて（こころの医療センター駒ヶ根） 在宅医療、疾病の早期発見・早期治療について（阿南病院） 認知症の現状と対策、感染症・糖尿病・腰痛等対策、森林セラピーについて（木曽病院） 出生前診断、口唇口蓋裂、子どもの感染症対策、発達障害について（こども病院） | 駒ヶ根 A | （業務の実績） <ul style="list-style-type: none"> 公開講座「こころを健やかにもちたい～こころの病んでも地域で暮らしたい～」実施日：9月14日（参加者 約160名） 出前講座 アルコール依存症 開催回数3回（昭和伊南病院・飯島町・箕輪町） 県・市町村・各種団体等が開催する研修会等に当院医師等の職員を講師として派遣した。（課題） 公開講座の開催回数を増やし、病院のブランド力の向上を図る。 出前講座のメニュー拡充による病院機能のアピール |
| 347 | | | 阿南 A | （業務の実績） 地域住民を対象とした医療講演会を、下伊那南部保健医療協議会と共催で2回開催したところ、地域住民、町村関係者等多くの参加があり、地域に開かれた病院をアピールできた。 <ul style="list-style-type: none"> 10月4日「ストレスに関する基礎知識 ～原因、症状とその対処法」メンタルサポートそよかぜ病院長 吉田朋孝医師（56名参加） 3月18日「認知症とその対応について」飯田病院 精神科部長 南風原 泰医師（97名参加） 全面竣工記念講演会を兼ねて実施した （課題） 病院祭については、耐震化改築工事により開催が見送られていたが来年度から再開する。（再掲） |
| 348 | | | 木曽 A | （業務の実績） <ul style="list-style-type: none"> 糖尿病教室を6月から9月にかけて毎月1回の計9回開催した。『医師と歩く森林セラピー』（10月20日開催）において血糖測定を行い、啓発に努めた。 例年の事業に加え、千葉大学等と協力して森林セラピーの未病者への効果を検証する実験を開始した。 （課題） 地域と協力しながら森林セラピーの広報に努める。 |

| | | | | | |
|-----|--|---|------|---|--|
| 349 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギーと小児の病気をテーマとした公開講座を開催し、参加者から多くの質問等があった。 <p>食物アレルギー 7月6日 塩尻市 117名 7月20日 長野市 109名 10月5日 軽井沢町 54名 11月16日 駒ヶ根市 46名</p> <p>小児病気「こんな時どうする？」 3月8日 こども病院 69名</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 26年度も公開講座を継続して開催する予定 |
| 350 | | | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>こどもの食物アレルギーなど県民に関心の高いテーマについて講演を行う「公開講座」については、25年度も県や市町村、県内医療機関とも連携しながら県下各地で開催され、機構本部では、プレスリリース及び開催への援助などを行った。</p> <p>(課題)</p> <p>26年度も積極的な開催を働きかけていく。</p> |
| 351 | | こども病院では、創立20周年記念事業を開催し、病院の取り組みや役割等に関する情報発信に努める。 | こども | A | <p>5月25日に、慰霊式、記念式典及び記念祝賀会を内容とする創立20周年記念事業を開催するとともに、記念DVDの作成、記念特別テレビ番組の放映、新聞広告掲載及び新聞への特集連載記事掲載への協力などを通じて、これまでの病院の取組やその果たす役割などについて積極的に情報発信を行った。</p> |

- 県立病院を身近に感じてもらうために、テレビCM等各種媒体を活用した県立病院機構及び県立病院の広報を積極的に行う。(5病院・機構本部 229～234再掲)

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

4 人材の育成・確保と県内医療水準の向上への貢献

(2) 医療に関する調査及び研究

| | |
|------|--|
| 中期目標 | ウ 医療に関する試験研究への参加 治験（国へ新薬の製造を承認申請するための成績収集を目的とする臨床試験）や医療に関する研究開発事業等に積極的に参加し、医療水準の向上に資すること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|---|------|--|
| | | | 病院 | 評価 説明 |
| 352 | ウ 医療に関する試験研究への参加 治療の効果や安全性を高めるために、各県立病院の持つ機能、特長を活かして治験（国へ新薬の製造を承認申請するための成績収集を目的とする臨床試験）を推進する。治験の実施に際しては、治験に参加する患者の人権と安全に問題が生じないように十分な配慮をする。 また、大学等の研究機関や企業と連携した共同研究等に積極的に取り組み、県内の医療水準の向上を図る。 | 治験（国へ新薬の製造を承認申請するための成績収集を目的とする臨床試験）については、審査委員会の設置などで適正かつ安全な実施環境を整備するとともに、各県立病院の状況に応じて積極的な実施を図る。 | 須坂 | A (業務の実績) ・治験審査委員会を必要時に開催し、議事録をホームページに掲載している。 ・治験実施件数：2件（慢性閉塞性肺疾患、子宮内膜症） |
| 353 | | | 駒ヶ根 | A (業務の実績) 双極性Ⅰ型障害を対象とした治験を開始し、平成24年度から実施している統合失調症を対象とした治験と並行して行っている。 件数：実施予定件数13件（実施中件数8件 うち2件終了） (課題) ・単剤投与のため患者側にリスクがあり、治験の対象となる患者が少ない。 ・評価尺度の作成に時間がかかるなど、医師の負担が大きい。 |
| 354 | | | 阿南 | B (業務の実績) ・製薬会社からの治験の依頼はなし。 ・市販直後調査へは2症例で調査に協力した。 (課題) 地理的条件等により、当院への治験依頼は期待できない。 |
| 355 | | | 木曾 | A (業務の実績) 新薬承認申請のための臨床試験は1件実施した。製造販売後後調査は実施しており、25年度製薬メーカーからの実施報告分は6件。 |
| 356 | | | こども | A (業務の実績) 治験管理室の業務として、小児治験ネットワークを介した多施設共同治験への参加が2件当院単独で2件実施した。被験者の選定は継続して行っている。 治験支援機関である(株)エシックとの間でCRC業務等の委託契約を締結しており、治 |

| | | | | |
|-----|--|---------------------------------|---|--|
| | | | | 験事務局と連携しながら業務を行った。 実施中の治験4件のうち平成26年度終了の治験1件 |
| 357 | | 医療に関する共同研究等へ積極的に参加し、医療水準の向上を図る。 | 須坂 A | (業務の実績) ・信州インфекションコントロールサーベイランスシステム(SICCS)に参加している。 ・浅野直子遺伝子検査科部長 マントルリンパ腫多施設共同研究・中央診断 (2014年3月1日 名古屋) |
| 358 | 駒ヶ根 A | | (業務の実績) 自治体病院研究会の企画運営を行い、多くの職員が参加しBCPについて研究を行った。 開催日:11月2日 参加者:約120人 | |
| 359 | 阿南 A | | (業務の実績) ・内科医が信州大学医学部附属病院と局所麻酔薬に関する動物実験の共同研究を実施している。 (課題) 常勤医師の減少により医師の負担が増加しており、共同研究等に参加できる環境整備が必要である。 | |
| 360 | ウ 医療に関する試験研究への参加 治療の効果や安全性を高めるために、各県立病院の持つ機能、特長を活かして治験(国へ新薬の製造を承認申請するための成績収集を目的とする臨床試験)を推進する。治験の実施に際しては、治験に参加する患者の人権と安全に問題が生じないように十分な配慮をする。 また、大学等の研究機関や企業と連携した共同研究等に積極的に取り組み、県内の医療水準の向上を図る。 | 医療に関する共同研究等へ積極的に参加し、医療水準の向上を図る。 | 木曾 A | (業務の実績) 千葉大学等と協力し、森林セラピーの未病者への効果を検証する実験を開始した。 |
| 361 | | | こども A | (業務の実績) 厚生労働省科学研究費補助事業1件を受託し、小児医療に関する研究に参加した。 |
| 362 | | | 須坂 A | (業務の実績) ・産業医科大学に職員を派遣しDPCデータの活用を図った。 ・8月6日 職員接遇研修会 「患者対応事例で振り返る接遇の問題点」～患者さま(ご家族)に対する“言葉”を考える～(講師:株式会社医療タイムス社 浅羽 恵氏) 参加者101名 ・1月28日 医療安全研修会「院内暴力、暴言への対応」船橋市立医療センター 池田勝紀先生(こども病院配信 参加者40名) ・11月29日 医療安全研修会「ヒューマンエラーの心理学」(須坂病院配信 参加者86名) ・2月19日 健康づくり講演会「女性だけでなく男性にもわかって欲しい女性の心と体について」木曾病院産婦人科長 吉岡郁郎先生 |

| | | | | |
|-----|--|------|---|---|
| 363 | | 駒ヶ根 | A | (業務の実績) ・聖路加看護大学に院内教育についての指導を依頼し、教育体制についての指導を受けた。 ・長野県看護大学の教員に、当センターの現任看護職員が行っている臨床事例の研究の指導を依頼し、精神科看護の質の向上に努めた。 |
| 364 | | 阿南 | A | (業務の実績) 信州大学からの病理医の派遣を受け、病理診断を行うだけではなく細胞診検査や標本作製などの指導を受けている。また、25年度からは、新たに導入した「病理診断支援システム」を用い信州大学医学部附属病院との間で遠隔レポート通信を行い、病理診断の迅速化及び質の向上を図った。 |
| 365 | | 木曾 | A | (業務の実績) 大学から病理医を招いて臨床症例の検証・研究を行っている。C P Cを6月に開催した。 |
| 366 | | こども | A | (業務の実績) 信州大学保健学科、東京医科歯科大学保健学科より定期的に臨床検査科に教授に研究・臨床指導に来てもらったことが、英文論文作成に有用であった。 (課題) 信州大学医学部との連携大学院構想を進める |
| 367 | | 機構本部 | B | (業務の実績) 大学との人材交流については、講演会及び研修会の開催などを通じて行われた。 |
| 368 | こども病院では、安全で質の高い医療の提供に貢献するため、民間企業と連携した医療機器等の研究・開発に取り組む。 | こども | A | (業務の実績) ・財団法人長野県テクノ財団メディカル産業支援センターが仲介し、県内民間企業のノウハウを活用した当院独自の仕様のコンパクトドクターカーを導入した。 ・平成24年度に当院を視察したN P O法人諏訪圏ものづくり推進機構の会員企業が、手術用の医療機器や検査用の機器の試作品を作成し、当院関係者と意見交換を行った。 (課題) |

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

4 人材の育成・確保と県内医療水準の向上への貢献

(3) 看護師養成所の運営

| | |
|------|--|
| 中期目標 | 地域医療を担う看護師の育成及び確保を図るため、看護師養成所の運営を行うこと。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|------|----|--|
| | | | 病院 | 評価 | 説明 |
| 369 | 3年課程の看護師養成所の運営を行うことで、地域内での看護師の養成・定着の推進により県内医療水準の向上に貢献するとともに、県のへき地医療を担う県立病院の医療機能強化のために必要な看護師確保を図る。 | <p>(3) 新木曾看護専門学校（仮称）の開設準備 平成26年4月の新木曾看護専門学校（仮称）の開設に向け、中期計画及び定款の変更などについて県関係機関と連携して適時に実施の上、国等に対し設置申請を行うとともに、新校のPRや教員の確保・養成、校舎・設備等の整備などを行い、学生を受け入れる体制を整備する。</p> <p>ア 教育体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの展開に向けた詳細な授業計画を立案するとともに、臨地実習施設との調整により実習体制を整備する。 県から専任教員の派遣を受けるほか、専任教員養成講習会の受講などを通じて機構教員人材を育成する。 学会や臨床実習指導者研修会等への参加を通じた、専任教員の質の向上を図る。 | 木曾看護 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>看護師養成所の設置については、県が木曾地域に新たに3年課程の看護専門学校を設置し、その運営主体を当機構とすることにより、県のへき地医療を担う当機構の機能強化や地域内での看護師の養成・定着の推進を図るとの方針の決定を受け、平成24年度当初から看護学校準備室を設置し、平成26年4月の開設に向けた準備を進めてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月には、当機構が看護師養成所の運用を行う旨の中期目標の変更指示が知事から示された。 5月には、第6回懇話会を開催し、26年4月の開校に向けた進捗状況を報告するとともに意見交換を行い、公募した校名の選考を実施した。 9月には、知事からの中期目標変更指示を受けて定款変更が認可となった。 10月には、中期計画が変更認可となった。 11月には、オープンキャンパスを実施し、113名の参加者があった。 26年4月開校にあたり、33名の新入生を迎えスタートすることになった。 <p>(課題)</p> <p>引き続きオープンキャンパスの実施や、ホームページのブログを活用して新入生の確保に努める。</p> |
| 370 | | <p>イ 校舎施設・設備等の改修・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の学習環境の向上などのため、機構が県から無償で借り受ける校舎施設・設備等に、3年課程の新校として必要な改修等を実施する。 | 木曾看護 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月には、校舎改修工事が竣工し、看護師養成所の基準を満たす施設・設備を整備した。 ホームページを立ち上げ、中南信地区の高校訪問等を行い開校の周知を図った。 学生宿舍1棟10戸を借り上げ、木曾地域以外からの学生確保に向けた環境整備を行った。 |

| | | | | |
|-----|--|---|--------|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> 木曾地域外からの学生確保や、学生の生活環境整備のため、民間賃貸宿舎を借り上げる。 | | <p>(課 題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐車場整備等に係る基本・実施設計 学生宿舎の追加確保 |
| 371 | | <p>ウ 教材等の整備</p> <p>現在の2年課程から譲渡を受ける教材等を活用し、3年課程に相応しく必要な教材等を整備する。</p> | 木曾看護 B | <p>(業務の実績)</p> <p>3年課程に相応しい教材の整備に努めた。</p> <p>(課 題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年課程から譲渡される教材等を明確にして活用できるよう整理 授業展開に合わせて各部屋ごとの物品配置を明確にし、必要物品を追加整備 |
| 372 | | <p>エ 学生確保に向けたPR</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の認知度を高めるため、各種の広告媒体（ホームページ上でのPR、CMの出稿、高校の進路ガイダンスへの参画、オープンキャンパスの実施など）を通じた県内外への幅広い広報活動を実施する。 地元中学校及び高等学校への訪問等を実施する。 | 木曾看護 B | <p>(業務の実績)</p> <p>オープンキャンパスの実施、近隣地域を主とする高等学校訪問、ホームページのブログ等を活用して新入生の確保に努め、多くの出願が得られた。</p> <p>(課 題)</p> <p>引き続きオープンキャンパスの実施や、ホームページのブログを活用して新入生の確保に努める。</p> |
| 373 | | <p>オ 学生募集及び入学選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般入試に指定校などの推薦入試を組み合わせ、木曾地域を中心とした近隣地域からの学生を確保する。 社会人への広報（ハローワーク等）により、学習意欲・目的意識の高い学生を確保する。 | 木曾看護 B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集要項を広く配布し、且つ木曾及び近隣地域を主とする高等学校への訪問を実施した。 特別な入試制度（地域特定推薦）を設けて3地域からの推薦を受けた。 推薦、社会人、一般で計4回入学試験を実施し、33名の新入生を確保した。 <p>(課 題)</p> <p>引き続きオープンキャンパスの実施や、ホームページのブログを活用して新入生の確保に努める。</p> |
| 374 | | <p>カ 地元関係団体などとの連携・協力体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元自治体・医療機関・学校関係者などで構成される「地域とともに新木曾看護専門学校（仮称）を創る懇話会」を引き続き開催し、意見聴取などを行う。 学校の開設により、若者の進学・就職の選択肢の拡大や、地域医療や福祉に従事する看護人材の地元定着が図られることなどを、上記懇話会を始めとした関係団体などに広く認識いただくとともに、幅広い支援や協力を仰ぐ。 | 木曾看護 B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域とともに新木曾看護専門学校（仮称）を創る懇話会」を3回開催、広く意見をいただいて開校準備に役立て、3月解散した。 木曾郡町村会からの専門図書整備への支援をいただいた。 <p>(課 題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度入学者の状況をふまえて、学生宿舎確保等の課題について認識していただくとともに、幅広い支援や協力を仰ぐ。 引き続き地域等からの意見を聴取して学校運営に役立てる場を新たに設ける。 |

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
 1 組織運営体制の構築
 (1) 柔軟な組織・人事運営

中期目標 医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるように、的確な組織・人事運営を行うこと。

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|--|------------------|----|---|
| | | | 病院 評価 | 説明 | |
| 375 | 医療環境の変化に迅速に対応し、患者のニーズに沿った安全で安心な医療提供を行うため、年度途中における必要人員の補充等に速やかに対応できるように随時採用ができる制度を導入するほか、病院機構の有する人的資源の有効な活用を図るなど、地方独立行政法人制度の特長を十分に活かした柔軟で的確な組織・人事運営を行う。 | 県立病院の機能を維持向上させるため、医療機関に適した病院機構独自の人事制度について引き続き検討する。 | 機 構 本 部 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月 事務職員の職分類を病院組織に相応しいものに見直すよう職員労働組合に提案。 ・ 11月 同提案について職員労働組合と妥結。 <p>(課題)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 職員の納得性の高い昇任制度の導入 職員の昇任にあたり、組織内公募を導入するよう検討する。 (2) 医療技術職員の採用・人事異動のあり方の検討 医療技術部長会議等において、病院機能や人材確保困難地域の状況を踏まえた上で、引き続き採用・人事異動のあり方を検討する。 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|---|----------|----|---|
| | | | 病院 評価 | 説明 | |
| 376 | 医療環境の変化に迅速に対応し、患者のニーズに沿った安全で安心な医療提供を行うため、年度途中における必要人員の補充等に速やかに対応できるように随時採用ができる制度を導入するほか、病院機構の有する人的資源の有効な活用を図るなど、地方独立行政法人制度の特長を十分に活かした柔軟で的確な組織・人事運営を行う。 | <p>年度途中における職員の確保が速やかに行えるよう、適時適切な採用試験の実施や随時採用などにより、必要に応じて職員を採用する。</p> <p>採用計画の立案に際しては、各県立病院が提供する医療サービスの内容・施設基準・収支の見通しを十分把握・分析し、効率的な職員配置に努めるものとする。</p> <p>なお、人件費の医業収益に対する比率（人件費率）を随時注視し、その低減に努める。</p> | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7対1看護体制の維持に努め、積極的な看護師の採用を行った。 ・ 取扱患者数に対応する職員数の見直しを行う中でコメディカル職員の業務スケールを見直し、各部門における人員管理を強化した。 ・ 事務業務における人員配置を見直し、特に医事部門に対し総人員コントロールに着手した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前の計画に制約され必要とする職員の獲得が容易に行えない現状を見直し、常勤職員の病院での採用を可能とする制度構築を検討する必要がある。 ・ 医師の獲得に向けては、年俸制の導入が具体化されていない状況を再考する必要がある。 ・ 育成した看護師が長期間勤務可能な環境整備のために、夜勤勤務者の確保及び夜勤回数の適正化、看護の質を担保するための人員確保などが課題である。 ・ 夜勤対応可能者の確保 |
| 377 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに非常勤医師2名を採用し、外来診療の強化と診療待ち時間の短縮を実現した。平成26年4月に児童精神科担当の副院長を採用した。 ・ 育児休業等に対応するため、必要な職員を年度中途に随時採用した。 ・ 多機能デイケアの機能を強化するため、平成26年4月に精神保健福祉士1名を採用した。 ・ 地域連携室の機能強化を図るため、平成26年4月に事務職員1名を増員した。 ・ 病院機能の向上を図るため平成26年4月から薬剤師1名、管理栄養士1名、事務職員2名のプロパー化を図った。 ・ 職員の教育研修機能を強化するため平成26年4月に教育研修担当の専任看護師を配置した。 ・ 看護体制の強化を図るため、平成26年4月に看護師4名を採用した。 ・ 医業収益の増加を図ることにより、人件費比率の低減に努めた。人件費比率92.7%（対前年度比3.1ポイントの減） <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床利用率を高めることで医業収益を向上させ、更なる人件費比率の抑制を図 |

| | | | | |
|-----|--|------|---|---|
| | | | | <p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師、看護師の確保に引き続き努めるとともに若手人材の育成を図る。 ・ 事務職員のプロパー化を推進する。 |
| 378 | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>産休・育児休業代替え職員や欠員が生じているセクションについては、ハローワークに求人登録を行ったり、関係機関等への働きかけにより人材確保に努めており、有期雇用職員として随時採用等を行っている。</p> |
| 379 | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>医師をはじめ、職員の産休・育児休業等に対応し、随時職員を採用している。 (年度中途の採用：看護職員 1 名)</p> |
| 380 | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>診療部、看護部等、必要な部署には、随時正規職員をはじめ有期常勤職員の採用を迅速に行っている。(年度中途の採用：医師 3 名、看護師 7 名、医療技術職員 6 名、事務職員 3 名)</p> |
| 381 | | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>(1) 看護職員採用試験の実施 (年 5 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師選考試験については通年募集を実施 ・ 選考試験を年 5 回実施し、合計 83 名を確保 ・ 年度中途採用者 7 名 <p>(2) 医療技術職員選考試験の実施 (年 2 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選考試験を年 2 回実施し、11 職種 37 名を採用 <p>(3) 事務職員選考試験の実施</p> <p>26 年 4 月：採用選考により、新たに 7 名の事務職員を採用 (内訳：事務部長候補 1 名、スタッフ職層 6 名)</p> |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|--|----------|----|---|
| | | | 病院 評価 | 説明 | |
| 382 | | 病院運営上の様々な課題について、病院の担当者間で横断的に議論・検討などを行うプロジェクトチームを積極的に活用する。 | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>各病院や個人の持つノウハウや情報を共有するとともに、経費節減を目的として設置した経費節減プロジェクトチーム、収益力の向上や事務処理の効率化などを目的として設置した収益力向上ワーキンググループ、診療情報管理士連絡会議等のプロジェクトチームなど、何れも複数回の会議を開催し、経費節減等に積極的に活動した。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26年度以降も一層積極的に取組を進める必要がある。 ・共有した情報を病院ごとに実行するための体制整備が必要。 |
| 383 | 医療環境の変化に迅速に対応し、患者のニーズに沿った安全で安心な医療提供を行うため、年度途中における必要人員の補充等に速やかに対応できるように随時採用ができる制度を導入するほか、病院機構の有する人的資源の有効な活用を図るなど、地方独立行政法人制度の特長を十分に活かした柔軟で的確な組織・人事運営を行う。 | 各県立病院においても、担当者レベルまでの確実な情報伝達手段の確立及び院内横断的な検討を行う組織の設置を積極的に行う。 | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループウェア「Aipo」を活用し、院内研修会や各委員会からの伝達事項の周知を行っているほか、職員全員へ配布する院内新聞「みちしるべ」による情報伝達も行っている。 ・定期的に各種委員会、運営会議を開催し、院内横断的な検討、情報伝達を行っている。 ・毎月1回全体朝礼を行い職員に対する周知を行っている。 ・年に1回、医師、看護師、医療技術部職員、医事事務職員及び事務職員が、院内研究発表会を行い、相互に研究結果を発表する場を設けている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループウェアの安定運用のため、新たなグループウェアの検討や「Aipo」の維持管理体制の確立が急務である。 ・さらなる組織内における情報伝達のため、院内デジタルサイネージの検討が必要。 |
| 384 | | | 駒ヶ根 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・全職種が参加し毎朝実施している朝会（840会議）において、ベッドコントロール等、必要な情報共有などを行っている。 ・院内横断的な検討を行う組織として、病院運営会議を毎月開催しているほか、多職種の職員が参加する各種委員会を開催している。 |
| 385 | | | 阿南 | A | <p>運営会議を毎月開催して、各セクション代表に情報伝達するとともに重要案件の検討を行っているほか、院内の各セクションにおいて各種委員会を開催し、日常的な業務等についての検討が行われている。</p> |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|---|
| 386 | | | 木曾 | A | 月に2回開催している運営委員会のほか、各委員会活動、院内情報システムを通じて情報の共有が行われている。 |
| 387 | | | こども | A | 各種院内会議において周知の徹底を図っているほか、電子メールによる即時の情報の配信などにより情報伝達の徹底に努めている。 |

- ・ 事務職員及び医療技術職員のプロパー化を計画的に進めるための、平成26年度以降の採用計画を策定する。(機構本部 325再掲)
- ・ 各県立病院間での医師等の人事交流及び相互派遣が円滑に行えるように、各県立病院間の連携体制の整備を進める。(5病院・機構本部 80～85再掲)

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 組織運営体制の構築

(2) 職員満足度の向上

| | |
|------|------------------------------|
| 中期目標 | 職員の満足度が向上する働きやすい環境の整備に努めること。 |
|------|------------------------------|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|--|------|---|
| | | | 病院 | 説明 |
| 388 | <p>就労環境に関する職員ニーズの把握に努め、院内保育所や職員宿舎の整備など、職員の仕事と生活の両立に配慮した働きやすい環境の整備を進める。</p> | <p>職員の要望を踏まえて、院内保育所の拡充について引き続き検討する。 須坂病院では、平成24年4月に開所した院内保育所「カンガルーのぼっけ」の充実を図る。</p> | 須坂 | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年4月に開設した院内保育所「カンガルーのぼっけ」(定員10名)では、夏季期間はプール及び砂遊び場を設置したほか、保護者会や、親子・職員と楽しむ「夕涼み会」を開催し、ソフト・ハード両面での充実を図るとともに、安心して働ける環境の提供に努めたことで、潜在看護師からの問い合わせも寄せられている。 <p>保育総延人数990名(一日最多実人数 7名)</p> <p>医師保育延人数 401名 看護師保育延人数 511名 薬剤師保育延人数 78名</p> |
| 389 | | | 駒ヶ根 | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の子育てに対するニーズを把握するためにアンケート調査を実施し、現在実施している民間の託児サービスの斡旋等に加え、平成26年度は託児サービスを利用した場合に助成するための予算を確保した。 院内保育所は、託児サービス利用助成の利用状況やその成果等を踏まえて、引き続き検討を行う。 |
| 390 | | | 阿南 | <p>(業務の実績)</p> <p>現在、院内保育所の設置についての要望ないが、未満児保育を実施している近隣の保育園の斡旋等により対応している。</p> |
| 391 | | | 木曾 | <p>(業務の実績)</p> <p>床の修繕、エアコンのクリーニングを実施し、院内保育所の環境整備を図った。</p> |
| 392 | | | こども | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員のニーズを踏まえた保育体制を提供するため、保育士の欠員などには迅速な補充を行うなどの対応を行っている。 今後の保育所の充実に向けて、看護職員へのアンケートによるニーズ調査を実施した。 |

| | | | | |
|-----|---|-----|---|--|
| | | | | (課 題) ・保育所の体制充実のため、運営の業務委託も含めた保育所の体制について検討を行っていく必要がある。 |
| 393 | | 須坂 | A | (業務の実績) 看護師確保のため必要に応じて、民間アパートの借り上げ等、柔軟に対応した。 |
| 394 | | 駒ヶ根 | A | (業務の実績) ・民間の賃貸物件の活用や看護大学が所有している宿舎の借上げなどにより対応を行っている。 ・空き宿舎の有効利用を図るため新たに入居基準を定め、宿舎の有効利用に努めた。 |
| 395 | 職員宿舎については、職員のニーズ等に常に留意しながら計画的な充実・確保を図る。 | 阿南 | A | (業務の実績) 独身寮の「アークヒル阿南」については、ワンルームマンション化を進めており、今年度から来年度にかけて新たに3部屋を整備中である。 また、医師住宅については、2戸改修を行った。 (課 題) ・独身寮の「アークヒル阿南」については、26年度も引き続き未改修の部屋のワンルームマンション化を進める計画である。 |
| 396 | | 木曾 | A | (業務の実績) 看護師宿舎の老朽化に伴うリニューアル工事を平成24年度から4年間の計画で進めており、平成25年度は12棟の改修を行った。 |
| 397 | | こども | A | (業務の実績) ・設備の経年劣化が著しいため、年次計画に基づき、給湯器を始めとする設備の更新を進めている。 ・医師確保のため、民間の賃貸物件を一部活用している。 (課 題) ライフスタイルの変化による入居者の要望(畳をフローリングにするなど)に合ったリフォームを段階的に実施している。 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|---|------|----|--|
| | | | 病院 | 評価 | |
| 398 | 就労環境に関する職員ニーズの把握に努め、院内保育所や職員宿舎の整備など、職員の仕事と生活の両立に配慮した働きやすい環境の整備を進める。 | 職員の心身の健康の保持増進及び快適な職場環境の形成のために、健康相談の充実を図るとともに、健康づくり等心身の健康に関する研修を実施する。また、福利厚生の一環として県立5病院合同のスポーツ大会を開催する。 | 須坂 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の心身の健康の保持増進と病院職員同士の横断的な交流を図るため、サークル活動支援制度を作り、エアロビサークルへの支援で職員間の交流が深まるなど、魅力ある職場づくりに努めている。 ・ H26年度には、職員からカイゼン会議に提案のあった院内ソフトバレーボール大会を、職員親睦会主催で実施する。 |
| 399 | | | 駒ヶ根 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院独自に毎月1回外部の専門家によるメンタルヘルス相談窓口を設けて職員の心の健康を確保することに努めたほか、メンタルヘルスのセルフチェックを促進した。 ・ また、労働安全の視点からビデオ研修会を開催して意識啓発に努めた。 |
| 400 | | | 阿南 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全衛生委員会を年2回開催、また職場環境の巡視を毎月行い、快適な環境の整備に努めた。 |
| 401 | | | 木曾 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規採用職員の巡回相談、健康診断結果による健康相談等を年3回実施した。 ・ 健康づくり講演会を実施した（18名参加）。 |
| 402 | | | こども | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 県立5病院合同のスポーツ大会に当院から2名の職員が参加した。 |
| 403 | | | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 保健師による新規採用職員向けの巡回相談 各病院に対し3回実施（延 252名に対し実施） (2) 全職員を対象に健康診断結果に基づく健康相談、メンタルヘルス相談を巡回により実施 各病院に対し3回実施（メンタルヘルス相談 延 469名、保健指導 延 387名に実施） (3) メンタルヘルス研修等心身の健康に関する研修 <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月 管理監督者メンタルヘルス研修会を実施（36名受講） ・ 健康づくり講演会を実施（63名参加） (4) 須坂病院が幹事となりボーリング大会を実施 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定保健指導対象者及び保健指導未実施者は、次年度巡回相談により実施する。 ・ 26年度以降の継続実施に向けてこころの医療センター駒ヶ根へ幹事を依頼した。 |
| 404 | | 5病院共通の職員満足度調査を継続的に実施する。 | 須坂 | A | 実施した。 |

| | | | | |
|-----|--|------|---|--|
| 405 | | 駒ヶ根 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・24年度に実施した調査結果について6月に院内で3回説明会を開催し、病院運営会議で決定した職員満足度を高めるための具体的な取り組みを推進した。 ・25年度に実施した調査結果について、経年分析をしたうえで2月に院内で3回説明会を行い新たな視点を加えた取組方針を決定した。 |
| 406 | | 阿南 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果に基づき、経営企画会議において改善策の検討を開始した。 |
| 407 | | 木曾 | A | 引き続き実施し、その結果を踏まえ、改善策を検討した。 |
| 408 | | こども | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年12月 職員満足度調査を実施。 ・ 26年1月 職場責任者等を対象とした説明会を実施。 ・ 1月～ 調査結果を踏まえた職場ごとの取組及び病院としての取組の推進 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルによる取組の推進 |
| 409 | | 機構本部 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月 打ち合わせ会議を開催し、実施内容の確認及び昨年度の業者に委託して実施することを決定 ・10月 実施会議の開催 ・12月中旬 調査の実施及び改修 ・1～2月 分析結果報告会を開催し、病院ごと改善活動に取り組むこととした <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託業者の分析に誤りがあったため、26年度4月以降に訂正報告会を開催し、その後各病院の評価や今後の取組について、理事会等で報告する予定。 |

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 組織運営体制の構築

(3) 医療組織にふさわしい人事評価制度の構築

| | |
|------|---|
| 中期目標 | 医療組織に適した、職員の能力や業績を適正に評価する人事評価制度の構築を進めること。 |
|------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|---|------|----|--|
| | | | 病院 | 評価 | |
| 410 | 人材育成、人事管理に活用するため、現行の人事評価制度を医療組織に適する公正で客観的な制度に再構築し、早期の実施を目指す。 | <p>職員の業績や能力を的確に評価し、人材育成、人事管理に活用するため、現行の人事評価制度を医療組織に適する制度に再構築する。</p> <p>医師については、業績評価の導入に向けて引き続き制度の検討を行う。</p> <p>医療技術職については、「人事・研修の基本方針」に基づき制度の見直しについて引き続き検討する。</p> | 機構本部 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月 独法化先行県である静岡県を調査 医療技術部長会議を開催 <p>(課題)</p> <p>院長等との意見交換を踏まえて引続き検討</p> |

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 組織運営体制の構築

(4) 多様な勤務形態の導入

中期目標 多様な勤務形態を導入して、医師をはじめとする医療従事者の人材確保を図ること。

【中期計画】

必要な人材の確保を図るため、育児を行う医療従事者等が勤務しやすい短時間勤務制度や他の医療機関との相互支援が可能となる兼業制度など、多様な勤務形態を導入する。

【年度計画】

職員が仕事と生活を調和（ワーク・ライフ・バランス）させ、安心して働き続けられるように、次の制度を活用する。（以下再掲）

- ・ 育児と仕事の両立を可能とするよう、小学校入学前までの子を養育するための育児短時間勤務制度
- ・ 働きながら大学院等への進学を希望する職員に配慮した修学部分休業制度
- ・ 他の医療機関との相互支援が可能となる兼業制度

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 組織運営体制の構築

(5) 機構本部のあり方の検討

中期目標 (なし)

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|------|--|------|----|--|
| | | | 病院 | 評価 | |
| 411 | (なし) | <p>機構本部がその機能を最大限に発揮でき、各県立病院への支援などをより効果的に実施するための、組織形態や職務範囲に関する検討を行う。</p> <p>特に、その所在地については、現在の県庁内から外部への移転を前提に具体的な時期及び場所の検討を引き続き行う。</p> | 機構本部 | B | <p>(業務の実績) 本部移転候補先となりうる場所についての調査を実施した。</p> <p>(課題) 移転した場合、県との連携が取りにくくなり、加えて人事・給与システムの新たな構築が必要。</p> |

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

2 経営体制の強化

(1) 病院運営への参画

| | |
|------|--|
| 中期目標 | 職員の業務改善に対する意欲を高めて、病院運営へ積極的に参画していく仕組みを作ること。 |
|------|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|----------|----|---|
| | | | 病院 評価 | 説明 | |
| 412 | 病院経営に関する情報等を定期的に職員に周知するほか、業務改善や増収・経費節減策に関する職員提案制度を設けるなどして、職員の病院運営への参画意識を醸成する。 | <p>月次決算をはじめとする経営指標を引き続き理事会で確認するとともに、その状況の全職員への周知を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営感覚の向上などを目的とした、全職員を対象とした病院経営に関する研修を引き続き実施する。 | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>病院機構会計制度等研修会を初任者及び中堅者に分けて実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者（8月27日 参加者：33名） ・中堅者（9月12日 参加者：44名） |

| | | | | |
|-----|--|--|-----------------|---|
| 413 | | <p>病院経営に対する職員の意識の向上や、その運営への積極的な参画を促すため、機構全体及び各県立病院において業務改善や増収・経費節減策に関する職員提案制度等を活用し、職員のアイデアを幅広く吸い上げ、それらを医療機能の向上につなげる。</p> | <p>須院 A</p> | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな視点からの問題点、改善案等を各部署の代表者により検討する「カイゼン会議」を10回開催した。 ・25年度実績は以下の通り。(アンダーラインが採用提案) <p>第1回 平成25年4月15日 (13件)</p> <p><u>1.</u> キャンペーン月間の設定について <u>2.</u> 実費請求できるものの洗い出し <u>3.</u> 患者認証の運用ルール変更についての提案 <u>4.</u> 「造影剤アレルギーチェック」についての改善案 <u>5.</u> 2つ以上患者IDを取得された同一患者カルテの統合について <u>6.</u> 新規および異動職員の登録にかかる作業について <u>7.</u> 外来診療担当表の作成に関して <u>8.</u> 人間ドックでのオプション検査の無料サービスによる受検者増大に伴う <u>9.</u> 脳ドックのCD作成を希望者のみに有料で提供する <u>10.</u> 夕暮れ診療の時間帯前倒しによって放射線技術科内の業務のムラを改善することと、午後予約外来の開設による収益の増加 <u>11.</u> 病院入口のアンケート記入デスクについて <u>12.</u> リユース棚の設置 <u>13.</u> 職員の名札に病院名を入れる</p> <p>第2回 平成25年5月20日 (6件)</p> <p><u>1.</u> 決定事項の組織内での周知・徹底の工夫 <u>2.</u> 玄関前の放置傘の管理 <u>3.</u> 医事にかかわる疑義紹介 <u>4.</u> 病院職員のドック受診者数を上げるための方策 <u>5.</u> 個人情報保護、病院危機管理意識について <u>6.</u> 医師講義等のホームページへの掲載</p> <p>第3回 平成25年6月17日 (3件)</p> <p><u>1.</u> 入院化学療法施行時のDPCと出来高払いについて <u>2.</u> 出前講座数増によって地域の健康と患者増を図る <u>3.</u> メディパピルス書類作成の合理的運用</p> <p>第4回 平成25年7月22日 (3件)</p> <p><u>1.</u> 病院駐車場の職員利用について <u>2.</u> 健診の充実(ワンコイン健診、経鼻内視鏡・セデーション下実施) <u>3.</u> 病院行事における共通利用者アンケート実施について</p> <p>第5回 平成25年8月19日 (3件)</p> <p><u>1.</u> 患者認証の運用ルール変更についての提案 <u>2.</u> 季節的な医療戦略を考える <u>3.</u> 勤務中の靴の着用をルール化する</p> <p>第6回 平成25年9月9日 (1件)</p> <p><u>1.</u> 看護師確保のためのHP有効活用</p> |
|-----|--|--|-----------------|---|

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | <p>第7回 平成25年10月21日（5件＋「病院力アップ職員提案」2件）</p> <p>1. MRI検査（単純撮影）における問診および同意書の追加 2. 外来への授乳室設置要望 3. 文書管理データベースを活用した文書管理 4. 病院ホームページのリニューアル 5. 患者認証の運用ルール変更についての変更案</p> <p>以下機構全体の病院力アップ職員提案</p> <p>1. 日本透析医学会共通通信プロトコルを用いた電子カルテと透析装置の接続 2. 文書管理データベースを活用した文書管理</p> <p>第8回 平成25年11月18日（4件）</p> <p>1. MRI検査（単純撮影を含む）における問診および同意書の追加 2. 院内ソフトボール大会 3. 女性職員に対し病院の感謝の意としてグリーティングカードを贈る 4. 病院ホームページのリニューアル</p> <p>第9回 平成26年1月20日（1件）</p> <p>1. 院内の各種規程・内規・マニュアル類の一元管理</p> <p>第10回 平成25年3月17日（4件）</p> <p>1. 院内の節電 2. 時間外外来入口周辺の照明と案内 3. 院内で扱う（使用頻度の少ない）物品の病院機構内での調達 4. 「出前講座」の院内での開催 （課題）</p> <p>提案制度の維持継続</p> |
|--|--|--|--|

| | | | | | |
|-----|--|--|------|---|---|
| 414 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務室内のホワイトボードに前日の入院・外来患者数や病床利用率を表示し、病院の現状をタイムリーに把握できるようにした。 ・毎月開催する病院運営会議において、患者数、診療単価、平均在院日数等の経営状況に関するデータを資料として提出し、職員へ周知するなど各職員の経営への参加意識の醸成に努めた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月を「業務改善強調月間」と定め、職員提案を集中的に募集するとともに、職員が提案を行いやすい職場環境の整備に努めたが、提案が低調だったため、積極的な職員提案が得られるような工夫を検討する。 |
| 415 | | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>経営企画会議において、増収策などを検討するとともに、経費節減にも取り組み、職員全体の意識の向上を図っている。</p> |
| 416 | | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>業務改善委員会において、業務の利便性・安全性・効率化・機能性を高めそれらが省エネや経費節減に繋がることを目的に、各部署から提案された対策等を検討している。</p> |
| 417 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>業務改善や増収・経費削減策に関する職員提案を募集し、26件の提案のうち6件を採択（院内独自3件、病院機構全体3件）し、業務改善等の取組の推進につなげた。</p> <p>また、例月の収支状況を各種会議で報告、周知し、職員個々が病院運営への参画意識を高めるよう努めている。</p> |
| 418 | | | 機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 事務部長会議で年間スケジュールの提示及び趣旨説明等 ・7月 「強調月間」として提案募集を行った（提案数：16件） ・8月以降 提案の検討等 ・関連会議等へ意見照会を実施 <p>(課題)</p> <p>26年6月に開催される理事会で優秀提案の表彰及び発表を予定</p> |

- ・ 病院運営上の様々な課題について、病院の担当者間で横断的に議論・検討などを行うプロジェクトチームを積極的に活用する。(機構本部 382再掲)
- ・ 各県立病院においても、担当者レベルまでの確実な情報伝達手段の確立及び院内横断的な検討を行う組織の設置を積極的に行う。(5病院 383～387再掲)

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

2 経営体制の強化

(2) 権限と責任の明確化

| | |
|------|---|
| 中期目標 | 県立病院と病院機構本部の権限と責任を明確にして、迅速な意思決定ができるようにすること。 |
|------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|--|------|--|
| | | | 病院 | 説明 |
| 419 | <p>迅速な意思決定により県立病院の医療機能が最大限に発揮できるように、病院現場の実態に即した権限の付与を行うなど、県立病院と病院機構本部の役割を明確にして効率的な業務運営を行う。</p> | <p>各県立病院が、その医療機能を最大限に発揮するために、病院長はその付与された権限に基づき、迅速な職員採用、効率的な予算原案の作成及び予算執行などを責任を持って行う。</p> | 須坂 | <p>A</p> <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産休・育児・休業等に対しては、ハローワークや新聞広告、情報誌等により人材確保に努めている。 <p>(課題)</p> <p>職員採用について、院長権限が最大限発揮できる機構全体の組織風土</p> |
| 420 | | | 駒ヶ根 | <p>A</p> <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人員不足が生じている部門や機能強化を図る必要がある部門について、随時必要な人材の採用を行った。 経費の抑制を図りつつ、当院の目標を達成するため、メリハリをつけた予算編成に取り組んだ。 各部門の収支を分析するため、平成24年度から試行しているセグメント会計について事務部内で検討会を開催するなどその精度の向上を図った。 臨時的な修繕、緊急の物品調達等、柔軟な予算執行により円滑な病院運営に努めた。 |
| 421 | | | 阿南 | <p>A</p> <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産休・育児休業代替え職員や欠員が生じているセクションについては、ハローワークに求人登録を行ったり、関係機関等への働きかけにより人材確保に努めており、有期雇用職員として随時採用等を行っている。(再掲) 本館棟の完成に伴い光熱水費等の支出が不透明ななか、経費の抑制を図りながら、当院の特色を踏まえた予算編成に努めた。また、減価償却費も増大したため、収支見通しを考慮しながら、必要度、緊急度を踏まえ予算執行に努めた。 |

| | | | | | |
|-----|--|--|-----|---|---|
| 422 | | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>パート職員については、募集から採用まで迅速な対応を行っている。</p> <p>年度計画を踏まえるとともに、年度末の収支見通しや、昨今の電力不足等による省エネルギー対策等社会的要請等も考慮しながら、支出の削減を行うなど、責任を持った予算の執行を行った。</p> |
| 423 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤職員については、ハローワークへの求人を速やかに行い、病院経営上必要な職員採用を行っている。 ・翌年度分の医療機器の購入については、94品目の購入希望に対して、院長ヒアリングを行い、その必要性・緊急性を精査し30品目に絞り込みを行った。(再掲) ・事務部だけでなく、各部署においても業者との価格交渉を行い、一層の支出額の縮減に努めた。(再掲) ・比較的緊急度の低い医療器械については年度末の更新とし、器械の有効活用と減価償却費の抑制に努めた。 ・納入価が償還価格を上回る、いわゆる逆ざやとなっている診療材料についてピックアップし、重点的に価格交渉を行い、費用の削減に努めた。 ・250台を超える院内のプリンターとコピー機のうち、約60台を整理統合し、トナーカートリッジの削減を図った。併せて、新たに導入した複合機にはICカード認証機能を持たせ、無駄な紙出力を削減することとし、また、カラーによるプリント、コピーには使用簿の記入と各部署の責任者の承認を必要とすることとしたことにより、カラー使用の抑制を図った。 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|--|---|------------|----|--|
| | | | 病院 評価 | 説明 | |
| 424 | <p>迅速な意思決定により県立病院の医療機能が最大限に発揮できるように、病院現場の実態に即した権限の付与を行うなど、県立病院と病院機構本部の役割を明確にして効率的な業務運営を行う。</p> | <p>機構全体で、年度計画を達成するための行動計画（アクションプラン）を策定し、PDCAサイクルによる業務運営を行う。</p> | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療科、各病棟、各部門が年度計画を策定している。 年度初めと上半期に診療科部長、各部門師長、各部門科長が院長ヒアリングを行い目標の進捗を確認した。 |
| 425 | | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> アクションプランに基づく実績・成果については、各部門において10月に中間評価を、3月に期末評価を実施し、今後の課題を検討した後、病院運営会議において各部門から成果・課題の発表を行った。 今年度の反省を踏まえて次年度のアクションプランの目標設定を行った。 |
| 426 | | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>年度計画を達成するため、各科でBSCの作成及び評価を実施しており、「年度計画」→「各科BSC」→「自己業績評価」について整合性を図った取組を行っている。</p> |
| 427 | | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画を基に、各関係部署の計画をまとめたアクションプランを策定した。 四半期毎に実施する各所属責任者との院長ヒアリングの際、アクションプランの進捗状況の確認を行った。 |
| 428 | | | 県立5病院・機構本部 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中長期ビジョン及び年度計画に基づき、アクションプランを年度当初に策定し4月の理事会において報告している。 毎週の機構本部連絡会議及び戦略会議などにおいて、必要な情報の共有が図られている。 <p>(課題)</p> <p>進捗が思わしくない事業などの計画の見直しや実施内容の再検討など</p> |

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

2 経営体制の強化

(3) 経営部門の体制強化

| | |
|----------|---|
| 中期 目標 | 経営環境の変化に迅速かつ効果的に対応できる体制を充実強化すること。 病院特有の事務に精通した職員を育成・確保して専門性の向上を図ること。 |
|----------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | |
|-----|---|--|----------|----|--|
| | | | 病院 評価 | 説明 | |
| 429 | <p>経営環境の変化に迅速かつ的確に対応して安定的な病院経営を行うため、病院機構本部及び各県立病院の経営企画体制を充実する。</p> <p>また、病院運営や医療事務等に精通した人材を積極的に確保・育成して経営能力等を強化することにより、健全な病院経営を図る。</p> | <p>病院経営を支える事務職員の確保・育成を図るため「事務部門強化に係る平成25年度計画」に基づき、機構本部及び各県立病院の体制強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「プロパー化推進計画」を見直しながら、病院勤務経験者の採用を実施するなど職員のプロパー化を進める。 | 機構 本部 | B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月 3名の事務職員を割愛採用 事務部長会議において、今年度の検証スケジュール、事務職員の採用計画を明示 5月、8月 ヒアリングにより各病院の人員配置を確認し採用数を決定 9月から 採用計画に基づき採用選考を実施 10月 各病院の上半期の取組みについて、効果とコストを検証 1月から 上半期の検証を踏まえ26年度計画を作成 3月 事務部長会議において26年度計画を決定、理事会において報告 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門知識を有した病院運営に精通した人材を確保するため、一定の病院経験や同等の能力を有する者の採用を引き続き行っていく。 |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|--|----------|--|
| | | | 病院 評価 | 説明 |
| 430 | | | 須坂 | A (業務の実績) ・施設経営意識の変革を推進するとともに、経費の削減管理や収支バランスの改善を目的として、事務部役職者が各部門との折衝を行うなど、多角的に経営評価を行う院内体制の構築に努めた。 ・医事課業務の全般的な見直しを進め、職員一人ひとりの残業管理から業務分掌への変更と整理を行った。人員の実質的な削減が可能となり、業務効率に貢献した。 ・業務の直営化については、その専門性の維持等を考慮し、アウトソーシングが望ましい分野については、積極的に機能を振り分けた。 |
| 431 | 経営環境の変化に迅速かつ的確に対応して安定的な病院経営を行うため、病院機構本部及び各県立病院の経営企画体制を充実する。 また、病院運営や医療事務等に精通した人材を積極的に確保・育成して経営能力等を強化することにより、健全な病院経営を図る。 | 病院経営を支える事務職員の確保・育成を図るため「事務部門強化に係る平成25年度計画」に基づき、機構本部及び各県立病院の体制強化を図る。 ・ 順次直営化を進めた医事部門の円滑な運営に努めるとともに、さらなる直営化に向けた検討を行う。 | 駒ヶ根 | A (業務の実績) ・ 医事部門は、費用対効果の観点から引き続き(株)ニチイ学館への委託により対応した。 ・ 平成25年7月より病院の診療情報管理士が入院レセプトの点検を開始した。ニチイとのダブルチェックを行うことで算定漏れ防止を図っている。 |
| 432 | | | 阿南 | A (業務の実績) ・ 検診事務担当者については、24年度から(株)ニチイ学館の派遣から直営化しているが、25年度にはさらに、指揮命令が直接およびこと、町村との連絡調整、対外的な折衝、院内各部門との連絡調整がスムーズに行えるようになった。 ・ 診療情報管理士の欠員補充として、ニチイ派遣により有資格者を確保した。 |
| 433 | | | 木曾 | A (業務の実績) 医事業務委託職員との連携を密にし、業務改善や診療報酬請求の適正化に努めた。 |
| 434 | | | こども | A (業務の実績) ・ 直営化した入院診療請求部門の専門性の向上を進めたことで、返戻率の低減を図ることができた。 ・ 職員1名が新たに診療情報管理士の資格を取得した。 |

| | | | | |
|-----|---|-----|---|---|
| 435 | <p>病院経営を支える事務職員の確保・育成を図るため「事務部門強化に係る平成24年度計画」に基づき、機構本部及び各県立病院の体制強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院長の目指す経営方針の実現に向け、情報の共有化を推進する。 | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>○須坂病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に各種委員会、運営会議を開催し、院内横断的な検討、情報伝達を行っている。 ・ 毎月行っている運営会議では、院長自らが作成した資料による説明が行われている ・ 毎月全体朝礼を行い、職員に対する周知を行っている。 ・ 12月5日、17日 「須坂病院中長期ビジョン説明会」を開催し、院長自らが職員に中長期ビジョンを語り、職員一人一人が病院の将来を考える機会となった。(参加者 146名) ・ 2月27日 国や県が考える地域医療ビジョンを探り、益々厳しくなる病院事業に対し、役職者が何をすべきかを考える機会として「平成25年度決算見込み、平成26年度予算から見た今後の須坂病院の課題」と題し、役職者を対象とした検討会を開催し、役職者が現状を認識し改善を促すよい機会となった。(講師 内川事務部長) ・ グループウェア「Aipo」を活用し、院内研修会や各委員会からの伝達事項の周知を図ったほか、職員全員に配布している院内新聞「みちしるべ」による情報伝達を行った。 ・ 年に1回、医師、看護師、医療技術部職員、医事事務職員及び事務職員が、院内研究発表会を行い、相互に研究結果を発表する場を設けている。 |
| 436 | | 駒ヶ根 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>院長が目指す経営方針を踏まえて、各部門が業務目標を定め、目標管理を行った。目標設定及び目標管理に必要な経営指標等の情報は、毎月開催する病院運営会議において資料提供を行い、職員へ周知するなど、各職員の経営への参加意識の醸成に努めた。</p> |
| 437 | | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院長の目指す経営方針について、具体的に企画、立案、検討を行う組織として経営企画会議を毎月開催し、経営指標などの情報の共有化を図っている。 ・ 計画に基づき事務職員のプロパー化を進めている。 ・ 医事部門の入院会計事務にベテランを配し請求事務の強化を図った。 ・ 電子カルテ開発部門ではSE 2名体制で推進した。 |
| 438 | | 木曾 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>BSC (バランスト・スコアカード) により、病院全体の年度目標の認識を行うとともに、各部署及び個人の目標への落とし込みや具体化を図った。</p> |
| 439 | | こども | A | <p>(業務の実績)</p> <p>病院長の目指す経営方針について、具体的に企画、立案、検討を行うため経営</p> |

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | も | 企画会議を月2回開催した。会議の結果については、院内の各種会議、メールマガジン等を通じて職員に周知し、情報の共有化を図っている。 |
|--|--|--|---|--|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|---|------|--|
| | | | 病院 | 説明 |
| 440 | <p>経営環境の変化に迅速かつ的確に対応して安定的な病院経営を行うため、病院機構本部及び各県立病院の経営企画体制を充実する。</p> <p>また、病院運営や医療事務等に精通した人材を積極的に確保・育成して経営能力等を強化することにより、健全な病院経営を図る。</p> | 須坂病院では、経営改善を目的に既存の制度、規則等の見直しを図り、良好な施設運営の実現を目指す。 | 須坂 | B ・院内では経営企画室会議等で休日出勤時の休日給支給を改め、代休取得を進める方向を確認した。 |
| 441 | | 須坂病院と木曽病院では、DPC請求における精度向上のため、DPC分析結果の各科及び経営企画室会、運営委員会等へのフィードバックを行いながら改善策を検討する体制を整備する。 | 須坂 | A (業務の実績) ・DPC請求に関しては、適切なコーディングを行うとともに他職種との連携により精度向上のための取組を行った。 ・DPC分析については、増収を図るためのデータ収集等分析ソフトを活用し、経営企画室会議、DPC委員会等で提案を行った。 ・診療情報管理士による院内広報誌「診療情報管理士だより」を発行し院内への情報発信を行った。 (課題) 自院のデータを様々な角度から分析し収益改善につながるよう、一層の取組の充実を図る。 |
| 442 | | | 木曽 | A (業務の実績) ・個々の請求の場面でDPC請求における精度の向上に努めた。 ・DPC委員会でコーディングマニュアルの説明を行い、適切なコーディングの考え方について医師に周知した。 (課題) DPCデータ分析結果により、各部門へ情報提供し、情報の活用に努める。 |
| 443 | | こども病院では、DPC準備病院として、DPCの平成26年度導入に向け引き続き準備を進める。 | こども | A (業務の実績) ・県外小児病院と小児ネットワーク研究会を立上げ(15施設)症例検討会を行った。 ・平成24年4月からDPC準備病院として厚生労働省に対して当院の診療データを提出した結果、平成26年2月にDPC対象病院の決定通知があった。決定にあたっては、機能評価係数を増加させるための医療技術部門との検討を行い、係数アップを行った。 |

| | | | | |
|-----|--|----------|---|---|
| 444 | 信州大学医学部附属病院との勉強会の開催や他県こども病院との情報交換を行い、DPC調査データの分析力・解析力の向上を図る。 | 須坂 | A | (業務の実績) 信州大学医学部附属病院とのDPCスタディを1回実施し、DPCの分析手法を学んでいる。 |
| 445 | | 木曾 | A | (業務の実績) 信大病院との勉強会に参加し、分析手法や視点などを学んだ。 (課題) 院内での情報活用につながるよう、更に分析力、解析力の向上に努める。 |
| 446 | | こども | A | (業務の実績) DPCスタディを2回実施した。DPC分析、医師事務作業補助者業務についての情報交換を行った (課題) DPCデータの分析・解析手法を学ぶことでその分析力・解析力の向上を図り、院内への情報提供を行う。 |
| 447 | | 5病院・機構本部 | A | (業務の実績) WGによる取組 ・毎月1回、年間11回WGを開催 ・医療安全管理者との合同会議を年間計2回開催 ・WGによる臨床評価指標の拡充と公表 ・11月には、聖路加国際メディカルセンターを視察 ・信大病院との勉強会(DPCスタディWG)の実施 (課題) ・医療安全管理者との合同カルテ監査相互点検の開始に向け5病院統一の監査規程の作成等整備 ・臨床評価指標のさらなる拡充 |

- ・ 先進病院等への職員派遣研修を実施する。(機構本部 267再掲)

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
 3 業務運営の改善
 (1) 業務運営に必要な指標の把握と活用

中期目標 クリニカルインディケーター（臨床評価指標）等を整備し、その指標に基づいた医療提供と病院経営が行える体制を構築すること。

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|---|------|---|
| | | | 病院 | 説明 |
| 448 | | | 須坂 | A (業務の実績) ・診療科別、疾患別、圏域別情報等の分析を行い、より詳細なデータの把握を行うとともに、収益性を高める提案を行った。 ・経営企画室会議において診療実績のホームページ掲載を議論し、以下の内容を掲載した。(12月24日から掲載 閲覧数519) 「年齢階層別退院患者数」「疾病大分類別退院患者数」「地域別退院患者の割合」 「地域別、年度別退院患者数」「診療各科実績・入院化学療法件数」 「患者満足度調査結果」 |
| 449 | 医療の質を量り、改善するための県立病院共通のクリニカルインディケーター（臨床評価指標）等を整備して情報分析を行うことにより、医療の質を向上させるとともに、安定した経営の確立を図る。 | 診療情報管理士などで構成される連絡会などが中心となり、地域の疾病・患者動向等の把握・分析を行うことで、病院全体の経営企画力の向上を図るとともに、診療機能を客観的に表すクリニカルインディケーター（臨床評価指標）等の整備及び導入を進める。 | 駒ヶ根 | B (業務の実績) ・初診、アルコール依存症、作業療法、デイケア及び訪問看護について、地域別や年齢階層別等で分析を行い、当センターの利用患者について状況把握に努めている。 ・本年度は新たに、再診、逆紹介についての統計データ作成を開始した。 (課題) ・収集したデータを活用し、当センターの収益や、医療の質の向上につながる分析を行っていく。 ・今後、認知症、児童の患者動向について、収集したデータをわかりやすく図表等で表示するとともに正確な現状分析に基づき、当センターの諸施策を検討する。 ・精神科独自のクリニカルインディケーターについて考案、検証、公開を行う。 |
| 450 | | | 阿南 | A (業務の実績) 運営会議において、診療科別患者数、平均在院日数、稼働額の毎月動態を公表、分析し収益確保の対策、意識づけを喚起している。 |
| 451 | | | 木曾 | A (業務の実績) 診療情報管理士連絡会を通じた情報交換により、他院の取り組み等を参考にできた。 |

| | | | | |
|-----|--|----|------------|--|
| 452 | | | こども B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療情報管理士会において、クリニカルインディケーターの項目についての検討を行い機構ホームページに掲載を行った。 ・ホームページのリニューアルを行い、掲載項目を増やし、患者数及び手術件数などの指標をホームページに掲載し県民に向けアピールを行った。(再掲) ・医療安全管理者と合同による、診療録監査の実施を5病院で行った。(課題) ・医療の質(QI)について整備及び導入 |
| 453 | | | 5病院・機構本部 A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルインディケーターWGを計9回開催 ・臨床評価指標(クリニカルインディケーター)の拡充の考え方に基づいた検討を行い、13項目拡充し、平成26年3月に機構本部ホームページに公表始した。 <p>(課題)</p> <p>さらなる拡充項目、医療の質の評価指標公表を視野に入れた検討が必要</p> |
| 454 | 阿南病院では、さらなる業務運営の改善を図るため、クリニカルインディケーターを用いた分析や経営企画会議の開催を継続する。 | 阿南 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>地域の人口動態や医療動向を加味した阿南病院独自のクリニカルインディケーターを毎月の経営企画会議に提示し、臨床指標を用いた量的、質的な現状の把握、分析を行い経営力の評価を行っている。</p> <p>(課題)</p> <p>アウトカム・プロセス評価についての医局及び各部門へのフィードバックとその実践</p> |
| 455 | 県立病院の月次決算等のデータと、各県立病院がベンチマークとする病院(民間・公的・他自治体病院等)の様々な指標や財務状況について比較を行うことで、経営状況を客観的に分析・把握するとともに、他病院の経営ノウハウの積極的な導入を図る。 | 須坂 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療情報管理士連絡会議への出席や、分析ソフトを活用したデータ収集、他病院の経営情報との比較を行う中で、当院の経営状況について分析等を行っている。 ・職員の産業医科大学研修報告会として以下の報告会を行った。 12月2日 「DPCデータを活用した自院分析」 医事課松本健 |

| | | | | |
|-----|--|--|-----------|---|
| 456 | | | 駒ヶ根 A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療情報管理士2名が中心となって、病院経営上必要な診療実績に関するデータの収集及び分析を行い、院内に積極的に情報発信を行った。病院運営会議等においては、データに基づく運営上の課題の整理や、業務目標の設定などに取り組んでいる。 ・セグメント会計について試算をし、精度を高めるため事務部内で検討を行った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療実績の推移の分析及び分析結果を踏まえた今後の対応策の検討 ・クリニカルインディケータの内容評価 |
| 457 | | | 阿南 A | <p>(業務の実績)</p> <p>地域の人口動態や医療動向を加味した阿南病院独自のクリニカルインディケータを毎月の経営企画会議に提示し、臨床指標を用いた量的、質的な現状の把握、分析を行い経営力の評価を行っている。</p> <p>(課題)</p> <p>アウトカム・プロセス評価についての医局及び各部門へのフィードバックとその実践</p> |
| 458 | | | 木曾 B | <p>(業務の実績)</p> <p>月2回の運営委員会において、毎月の病床利用率や入院単価などの診療実績を検証し、経営状況の分析・把握を行うとともに、医療の質の向上に資するクリニカルインディケータの採用についての検討を行った。</p> |
| 459 | | | こども B | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回の経営企画室会議において、毎月の病床利用率や入院単価などの診療実績を検証し、経営状況の分析・把握を行った。 ・原価管理システム導入による科別原価構築と診療報酬請求もれに対するシステムの構築の継続 <p>(課題)</p> <p>医療の質の向上に資する(QI)について更なる検討が必要。</p> |
| 460 | | | 機構本部 A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月理事会等で報告を行っている「経営状況表」の様式を改良し「同規模他病院との比較」欄を設け、各病院の各種指標や財務状況について比較している。 ・11月9日に、産業医科大学医学部公衆衛生学教室 松田晋哉教授により「地域医療の今後の方向性」について研修会を開催した。 ・1月16日に、春日井市民病院の病院改善取組事例報告会を開催した。 |

- ・ DWH (データウェアハウス) の抽出・分析ツールの構築を引き続き進め必要に応じた診療・会計データの参照・分析等が行えるようにするとともに、DPC (診断群分類包括評価) 調査データを様々な分析に活用する。(須坂・木曾・こども・機構本部 103~106再掲)
- ・ 人件費の医業収益に対する比率(人件費率)を随時注視し、その低減に努める。(5病院・機構本部 376~381再掲)

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

3 業務運営の改善

(2) 効率的な予算の編成と執行

| | |
|------|---|
| 中期目標 | 地方独立行政法人制度の特長を活かした、効率的・効果的な予算の編成と執行を行うこと。 |
|------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|---|----------|--|
| | | | 病院 評価 | 説明 |
| 461 | <p>柔軟かつ弾力的な会計制度を構築するとともに、多様な契約手法を活用して効率的・効果的な予算の編成と執行を行う。</p> <p>医薬品・診療材料等の調達に関して、契約方法の見直しなどにより経費削減を図るとともに、診療報酬に係る施設基準を十分に検討して増収策を講じるなど、多面的な経営改善努力を行う。</p> | <p>各県立病院が、中長期ビジョンや年度計画及び長期的な投資計画や収支見通しに基づいた、責任ある予算原案の作成を行う。</p> | 須坂 | A (業務の実績) 中長期ビジョン、年度計画及び投資計画等に基づいた予算原案の作成を行っている。 |
| 462 | | | 駒ヶ根 | A (業務の実績) 前年度の決算額、当年度の決算見込額を考慮するとともに、中期計画、中長期ビジョンに基づいた効率的な予算編成に努めた。 |
| 463 | | | 阿南 | A (業務の実績) 経営内容の分析を行いながら、年度計画・中長期ビジョンに沿った効率的・効果的な予算編成を行う。 |
| 464 | | | 木曾 | A (業務の実績) 収入・支出に係る現状や年度末までの見込みを踏まえ、地域唯一の病院として必要なサービスの提供・充実のため、見込まれる収入と必要な経費等の支出の両面を精査しつつ、健全経営の維持の観点に立った予算原案の作成を行った。 |
| 465 | | | こども | A (業務の実績) 25年度決算見込みを踏まえ、増床に伴う患者動向や経営分析を行うとともに、費用削減方策についても検討を加えながら、効果的な予算の編成を行った。 (課題) ・26年度の導入に向け準備中のDPCについては、より効果的な活用を図るとともに、質の高い医療の効率的な提供に向け、病院の機能(評価係数)を高めるための取組を進める。 |
| 466 | | | 須坂 | A (業務の実績) 定期的に施設基準等管理委員会を開催し、施設基準に関する検討を行い、今年度は、新たに創設された5項目の届け出を行った。 |

| | | | | |
|-----|--|---|-------|---|
| 467 | | <p>反映させるとともに、診療報酬改定の影響についても十分検討し、下記の方策に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療報酬の算定については施設基準の適切な届出などに常に留意する。 | 駒ヶ根 A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急搬送患者地域連携のため、諏訪赤十字病院、伊那中央病院と転院に関する協議を行い、救急搬送患者地域連携受入加算の届出をした。 平成26年度診療報酬改定及び改正精神保健福祉法に関する院内勉強会を3月18日に開催し、院内で周知徹底を図った。(職員58名が出席) A2病棟(35床)は平成24年11月から高額な精神科急性期治療病棟入院料の届出を行い、算定を開始した。平成25年度は年間を通し、施設基準を満たし算定を継続し、大幅な収入増となった。 平成25年7月から病院の診療情報管理士が入院レセプトの点検を開始した。ニチイとのダブルチェックを行うことで算定漏れ防止を図った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 算定基準の維持及び有利な診療報酬の算定に向けたチェックを常に行う。 特定入院料の病床が多く、病床利用率の向上が課題である。 |
| 468 | | | 阿南 A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月の経営指標については、診療科別・診療行為別の診療単価、増減要因、診療報酬及び薬価改定の影響度など含めた分析を行っている。 施設基準については、人員配置、構造設備の変更の都度、確認等を行っている。25年度には、本館改修工事により1人あたりベッド面積が拡大したため、療養環境加算を新規届出算定し、3,783千円の増収を得た。 <p>(課題)</p> <p>医局へのアプローチを積極的に行うとともに、意識に温度差が見られるコメディカル部門へも、継続的にオーダー増を呼びかけ、行動を喚起していく。</p> |
| 469 | | | 木曾 A | <p>(業務の実績)</p> <p>診療報酬改定に伴い、影響の分析と施設基準の総点検を行い、「脳血管疾患リハビリテーション料I」、等の届出を行った。</p> |
| 470 | | | こども A | <p>(業務の実績)</p> <p>「小児入院医療管理料4」を算定していた第2病棟については、8月から「小児入院医療管理料1」の届出を行い、10月から10床増床した。また、施設基準の再点検を行い、「医師事務作業補助体制加算20対1」「検体検査管理加算IV」等より高額な診療報酬のとれる施設基準を取得した。</p> <p>(課題)</p> <p>増床した第2病棟の稼働率を上げていく必要がある。</p> |

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|--|------|---|
| | | | 評価 | 説明 |
| 471 | 柔軟かつ弾力的な会計制度を構築するとともに、多様な契約手法を活用して効率的・効果的な予算の編成と執行を行う。 | 収入見通しの作成に際しては、地域の患者動向や各県立病院で取り組む増収策を的確に反映させるとともに、診療報酬改定の影響についても十分検討し、下記の方策に取り組む。 ・ 出来高算定項目の実施率向上及び包括項目の効率化のための分析を行う。(須坂、木曽病院) | A | (業務の実績) ○須坂病院 ・ クリニカルパスの見直しに際しては、指導料等の適正な算定を可能とすることで、出来高算定の実施率の向上を図った。 ・ 分析ソフトを活用し増収項目の検討を行った。 ○木曽病院 診療データ、会計データ、DPCデータ等を活用し、院内各部門との連携を取りながら検討を行い、改善に努めた。 (課題) ○木曽病院 DPCデータを始めとした公的機関から公開されている統計情報を使った分析についての能力向上に努める。 |
| 472 | 医薬品・診療材料等の調達に関して、契約方法の見直しなどにより経費削減を図るとともに、診療報酬に係る施設基準を十分に検討して増収策を講じるなど、多面的な経営改善努力を行う。 | 収入見通しの作成に際しては、地域の患者動向や各県立病院で取り組む増収策を的確に反映させるとともに、診療報酬改定の影響についても十分検討し、下記の方策に取り組む。 ・ 人間ドック受診者増加に向けた取組みを充実する。(須坂、阿南、木曽病院) | A | (業務の実績) ○須坂病院 ・ 日帰り人間ドック 1,229件 (前年991件 124.0%) ・ 1泊2日人間ドック 234件 (前年183件 127.9%) ・ 生活習慣病予防検診 886件 (前年871件 101.7%) ・ 特定健診審査 60件 (前年77件 77.9%) ・ 企業健康診断 538件 (前年512件 105.1%) ・ オプション検査 2,646件 (前年2,325件 113.8%) ・ 須坂市報への掲載、病院だよりの全戸配布、広報誌による広報活動を行った。レディースコース (女性スタッフによる対応、女性向けの食事の提供) を設定し、ホームページ等で周知を図った。 ・ ドックのキャンセルに対し、予約枠確保のための取組を行った。 ・ H25年度の契約企業は43社となった。 ・ ドックの現在の予約状況や比較的受診しやすい月等について、ホームページでの情報発信を行った。 ・ H25年度開設のドック夫婦割引コースは、34組の利用者となった。 ・ 情報誌への掲載や外来のデジタルサイネージによって、ドックの宣伝を行った。 ○阿南病院 |

| | | | |
|-----|--|--|---|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、市町村広報誌等により広報活動を実施 ・管内関係機関の定例会の際に、当院ドック活用推進について依頼を実施 ・得意先にPRパンフをメール送信 ・地元食材を使ったドック食（千代幻豚、アルプスサーモン）に季節メニューを導入しPR ・25年度 人間ドック 228件（対前年 43件増 23.2%増） 特定健診 123件（対前年 8件増 6.9%増） <p>○木曾病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独脳ドックの実施 ・ホームページ掲載、病院だより・パンフレット配布による広報 <p>（課 題）</p> <p>○阿南病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳ドックのフルコースが伸び悩んでおり、医師による読影結果説明など運用の改善を検討していく ・郡内町村保健師との連携及び再受診につなげる事後指導の充実 ・婦人科健診のキャンセルの防止策の検討 |
| 473 | | <p>収入見通しの作成に際しては、地域の患者動向や各県立病院で取り組む増収策を的確に反映させるとともに、診療報酬改定の影響についても十分検討し、下記の方策に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休止していた火曜日の人間ドックを再開させ受診者の増加を図るとともに、商工会健診の検査コースの見直しによる受診単価の向上や、検査の利点をアピールし受診機会の増加を目指す。（阿南病院） ・ 改築に伴う備品等の購入に際しては、利用可能なものを有効活用するなど、経費の節減に努める。（阿南病院） | <p>（業務の実績）</p> <p>○阿南病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休止していた火曜日の人間ドックを再開させ、受診者の増加が図られた。 受診者増 +43件、収益増+1648千円 ・ 商工会健診の検査コースの見直しによる受診単価の向上や、検査の利点をアピールし受診機会の増加が図られた。 受診者△1件、 コス見直しによる収益増+148千円 ・ 新館の備品等の配置については、関係セクションと調整し、使用可能なもの（特殊浴槽、製氷機等）は旧館から移設し、経費節減に努めた。 <p>（課 題）</p> <p>○阿南病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳ドックのフルコースが伸び悩んでおり、医師による読影結果説明など運用の改善を検討していく。 |
| 474 | | <p>収入見通しの作成に際しては、地域の患者動向や各県立病院で取り組む増収策を的確に反映させるとともに、診療報酬改定の影響についても十分検討し、下記の方策に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成25年度に契約期間が満了するSP | <p>（業務の実績）</p> <p>○こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SPDシステムと薬品管理システムとを統合し、業務の効率化を図ることが出来た。また、業者の選定に当たっては、公募型プロポーザル方式により、当院の目的に合致した業者と契約することができた。 |

| | | |
|--|---|---|
| | <p>Dシステムについて、薬品管理システムとの統合も視野に入れながら、より効率的なシステムとなるよう検討・準備を進める。（こども病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度に導入した事務用品等が直接各部門へ発注納品されるオフィスダイレクトシステム等による在庫縮減の取組みを継続するとともに、さらなる物流システムの効率化に向けた検討を進める。（こども病院） | <ul style="list-style-type: none"> 納入価が償還価格を上回る、いわゆる逆ざやとなっている診療材料についてピックアップし、重点的に価格交渉を行い、費用の削減に努めた。 250台を超える院内のプリンターとコピー機のうち、約60台を整理統合し、トナーカートリッジの削減を図った。併せて、新たに導入した複合機にはICカード認証機能を持たせ、無駄な紙出力を削減することとし、また、カラーによるプリント、コピーには使用簿の記入と各部署の責任者の承認を必要とすることとしたことにより、カラー使用の抑制を図った。（再掲） オフィスダイレクトシステムにより、発注から納品までの短縮による在庫削減に努めた。 <p>（課題）</p> <p>○こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療材料等の定数化が可能な部署については、定数化を行い、在庫削減への取組みを強化する。 ベンチマークシステムを導入し、業者との価格交渉に活用することで、経費の削減に取り組んでいく。 |
|--|---|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|--|------|--|
| | | | 評価 | 説明 |
| 475 | <p>柔軟かつ弾力的な会計制度を構築するとともに、多様な契約手法を活用して効率的・効果的な予算の編成と執行を行う。</p> <p>医薬品・診療材料等の調達に関して、契約方法の見直しなどにより経費削減を図るとともに、診療報酬に係る施設基準を十分に検討して増収策を講じるなど、多面的な経営改善努力を行う。</p> | <p>各県立病院では、医業未収金について、「長野県立病院機構未収金対応方針」及び「長野県立病院機構未収金対応マニュアル」に基づき、発生の未然防止や回収などに努める。</p> | A | <p>(業務の実績)</p> <p>○須坂病院</p> <p>(1) 未収金の未然防止 低所得等で支払困難と予想される患者や過去に未収金が存在する患者等にあつては、入院中又は外来受診時にMSWとも連携して個別面談を実施した結果、高額滞納者からの入金が確保されるなど一定の効果があつた。</p> <p>(2) 未収金の縮減・回収強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院申込書の様式改正や支払誓約書の提出を強化するなどした結果、24年度個人分未収金の25年度末残高は前年度（23年度分24年度末残高）よりも約168万円減らすことができた。 一方で滞納者への督促については十分に取り組むことができず、25年度個人分の未収金は前年度末残額（24年度個人分）よりも約265万円増加した。 <p>○こころの医療センター駒ヶ根</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月に収納強化月間を設定し、文書及び電話での督促を集中的に行つた。 精神保健福祉士と日常的に協力し、入院中から未収金対策を行うことで、未収金発生の未然防止に努めた。 <p>○阿南病院</p> <ul style="list-style-type: none"> 24年度末現在の過年度未収金（個人）残高 30件 851千円 25年度末現在の過年度未収金（個人）残高 30件 762千円 <p>残高水準は、23年度から暫減しており医業収益の0.1%未満と低水準。督促を励行し、89千円の改善を見た。</p> <p>○木曾病院</p> <p>12月に「未収金徴収月間」を設け、催告状の送付、電話催告、夜間訪問徴収等を行つた。</p> <p>○こども病院</p> <p>定期的な督促状、催告状の送付に加え、年2回期間を設けて、重点的に電話督促を行い、高額な未納者には、内容証明郵便を送付した。また、入院申込書の保証人欄を連帯保証人に改め、事前に届出をしたカードでの自動決裁ができる制度を導入した。</p> <p>○機構本部</p> |

| | | | |
|--|--|--|---|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 医業未収金については、毎月の経営状況表に対応状況を記載することにより、対応への意識向上に努めた。 ・ 3月に策定し各病院へ通知した「未収金対策マニュアル」に基づき取組を強化した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 須坂病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当任せではなく組織として未収金対策を図る体制づくり ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 未収金マニュアルの見直しを行い、未収金発生の未然防止、未収金の回収に取り組む。 ・ 院内関係職員との連携や事務部内の協力体制の再構築など未収金担当の体制について検討を行う。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 過年度に発生した未収金は対前年末との比較で残高において改善したが、生活保護の適用以前の発生分については依然として回収が進んでいない。 ・ 25年度発生分についてはケースワーカーの協力もあり、比較的少額であったことから、引続き定期的な督促に努める。 ・ 現在適用除外とされている、県の医療費損失補償補助事業の適用範囲の拡大を県に求めたい。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> より効果的な督促方法の検討 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容証明郵便の送付や支払督促制度等の法的手段の利用の促進。 ・ 住所不明者への対応策の検討。 ○ 機構本部 <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、各病院と連携し未収金対策への支援を行う。 |
|--|--|--|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|---|------|---|
| | | | 評価 | 説明 |
| 476 | <p>柔軟かつ弾力的な会計制度を構築するとともに、多様な契約手法を活用して効率的・効果的な予算の編成と執行を行う。</p> <p>医薬品・診療材料等の調達に関して、契約方法の見直しなどにより経費削減を図るとともに、診療報酬に係る施設基準を十分に検討して増収策を講じるなど、多面的な経営改善努力を行う。</p> | <p>予算科目や事業年度間で弾力的な運用が可能となる会計制度を活用し、効率的な予算執行、在庫管理の徹底により経費の削減を図る。</p> | A | <p>(業務の実績)</p> <p>○須坂病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に更新を決定した医療機器・備品であっても、機器の有効活用のため、状態を再度精査し更新を先送り可能なものは出来るだけ先送りした。なお、年度途中で診療上の理由等により購入が必要となった場合には、柔軟に対応し適切な診療体制を維持するために必要な投資を行った。 ・機器購入院長ヒアリングにおいて必要度・緊急時や機器購入による経営への貢献度を精査し、新規および更新の機器購入を行った。 ・医薬品及び診療材料について継続的に価格交渉を実施した。また、物流管理（診療材料SPD）運営委員会を毎月開催し、SPD管理システムの変更、ラベル紛失防止、請求漏れの防止、使用期限管理、SPD不動物品の有効活用等に取り組んだ。 <p>○こころの医療センター駒ヶ根</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフィスダイレクトシステムを導入し在庫を最小限にしたこと、クレジットカードを利用したネット通販からの購入により、消耗品費を対前年度比130万円削減した。 ・封筒や各種印刷物を再見積りすることにより単価を下げ、印刷製本費を対前年度比40万円削減した。 ・各セクションに省エネ推進担当者を配置するとともに空調等の運用基準を周知するなど、省エネを推進したことにより、電力使用量を3.3%削減した。 <p>○阿南病院</p> <p>薬品は、在庫管理システムにより適切な在庫管理をしており、医療材料も使用状況に応じた発注を行い、適切な在庫管理に努めている。</p> <p>○木曽病院</p> <p>給食業務委託、清掃・洗濯業務委託などは複数年の長期継続契約を締結し執行を行った。また、支出についてその必要性を吟味し、必要があれば節間流用するなど、迅速かつ効率的な予算執行に努めた。</p> <p>○こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翌年度分の医療機器の購入については、94品目の購入希望に対して、院長ヒアリングを行い、その必要性・緊急性を精査し30品目に絞り込みを行った。(再掲) |

| | | | |
|--|--|--|---|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務部だけでなく、各部署においても業者との価格交渉を行い、一層の支出額の縮減に努めた。(再掲) ・ 比較的緊急度の低い医療器械については年度末の更新とし、器械の有効活用と減価償却費の抑制に努めた。 ・ 納入価が償還価格を上回る、いわゆる逆ざやとなっている診療材料についてピックアップし、重点的に価格交渉を行い、費用の削減に努めた。(再掲) ・ オフィスダイレクトシステムにより、発注から納品までの短縮による在庫削減に努めた。(再掲) <p>(課題)</p> <p>○こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療材料の納入価格と償還価格との乖離については、更なる価格交渉に努めるとともに、診療に影響がなく乖離の少ないものへ転換などを検討する。(再掲) ・ オフィスダイレクトシステムについては、システム導入前との比較で単価が増加した物品等の値下げや納入遅れの解消に向け、運営業者との交渉を継続的に行っていく。(再掲) |
|--|--|--|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|--|------|--|
| | | | 評価 | 説明 |
| 477 | <p>柔軟かつ弾力的な会計制度を構築するとともに、多様な契約手法を活用して効率的・効果的な予算の編成と執行を行う。</p> <p>医薬品・診療材料等の調達に関して、契約方法の見直しなどにより経費削減を図るとともに、診療報酬に係る施設基準を十分に検討して増収策を講じるなど、多面的な経営改善努力を行う。</p> | <p>予算科目や事業年度間で弾力的な運用が可能となる会計制度を活用し、効率的な予算執行、在庫管理の徹底により経費の節減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構本部と各県立病院の担当者で構成する経費節減のための検討チームを積極的に活用して、トータルコストを意識した経費（費用）のあり方について検討するとともに、節減に結び付く取組を実践していく。 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○須坂病院 「経費節減のための検討チーム」による院内ラウンドを4回行い（6月6日、8月1日、11月7日、2月19日）、今年度設置した「リユース棚」の活用と経費節減意識の醸成を図った。 ○こころの医療センター駒ヶ根 経費節減のための検討チーム会議に積極的に参加し、5病院の価格を参考にしながら検査試薬についての価格交渉を行い、8品目の契約単価を下げる事ができた。 ○阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経費節減プロジェクトチームにより経費節減の検討を進めた。 ・ 欠員が生じたセクションにおいては有期雇用職員を採用して補てんするなど、人件費の抑制に努めた。 ・ 電子カルテ保守契約の仕様については、業者による常駐SEの配置を見送り委託料の軽減を図った。 ○木曾病院 「経費節減のための検討チーム」に参加し、他病院の経費節減のための取組を参考に、当院においても取り入れなどを行った（プリンタートナーの印刷濃度の調整を行った）。 ○こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経費節減のための検討チーム会議において、各病院の取組状況などの情報交換を行った。 ○機構本部 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院と本部の多職種職員で構成する「経費節減のための検討チーム」を年4回（8/30、10/16、12/10、2/6）に各病院で開催し、それぞれの経費節減の状況を見学するとともに、省エネの取組状況等について情報を共有した。 ・ 診療材料等の契約内容を比較し、その内容をもとに業者と交渉して契約単価の引き下げを図った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○こども病院 保守内容の見直しに伴う委託料及び修繕費の増減額の把握を行う。検討チームによる取組を継続し、経費節減の意識を病院全体で高めていく。 ○機構本部 共有した情報を病院ごとに実行するための体制整備 |

| | | | |
|-----|--|--|---|
| 478 | <p>柔軟かつ弾力的な会計制度を構築するとともに、多様な契約手法を活用して効率的・効果的な予算の編成と執行を行う。</p> <p>医薬品・診療材料等の調達に関して、契約方法の見直しなどにより経費削減を図るとともに、診療報酬に係る施設基準を十分に検討して増収策を講じるなど、多面的な経営改善努力を行う。</p> | <p>予算科目や事業年度間で弾力的な運用が可能となる会計制度を活用し、効率的な予算執行、在庫管理の徹底により経費の削減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品・診療材料の購入については、県立病院間で情報を共有した上で、採用品の統一化及び一括契約対象の拡大を図るとともに、客観的なデータ等の情報に基づいた交渉等により経費の削減を図る。併せて、ジェネリック医薬品の採用を、順次進めていく。 | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○須坂病院 <ul style="list-style-type: none"> ジェネリックの採用を順次進め、ジェネリック比率を19.5% (24年度15.0%) とすることができた。 ○こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・材料について検討を行い、安い価格で納品できる材料に随時変更を行った。 ・当院で少量のみ使用する診療材料については、木曽病院から購入をすることで廃棄材料の削減を図った。 ○阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・法人全体での一括契約の進展により購入費の節減につながっている。 ・ジェネリック医薬品の採用の順次拡大を図った。 ○木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> 本部、他病院と共同で医薬品の価格交渉を行い経費の節減を図った。 ○こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ジェネリック医薬品の採用を順次拡大した。 ○機構本部 <ul style="list-style-type: none"> ・本部において医薬品の一括契約を実施。併せて、理事長・病院薬局長を中心に卸売業者及びメーカーと精力的に価格交渉を実施し、契約単価の引き下げに努めた。 ・診療材料・検査試薬などの病院ごとの契約単価を比較し、卸売業者に価格の引き下げを要請し、最も安価な病院の単価に統一する取組を実施。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄材料・薬品の縮減に向けた具体的な取組について各セクションに周知し削減に努める。 ・在庫管理の方法について検討を行い、院内統一ルールを検討する。 ○こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の仕入れ状況等のデータを県立病院間で共有し、有利な交渉を進める上での材料としてもらう。 ・在庫管理システムの統一を進める。 ○機構本部 <ul style="list-style-type: none"> ジェネリック医薬品の更なる採用 |
|-----|--|--|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|--|--|------|--|
| | | | 評価 | 説明 |
| 479 | 柔軟かつ弾力的な会計制度を構築するとともに、多様な契約手法を活用して効率的・効果的な予算の編成と執行を行う。 | <p>予算科目や事業年度間で弾力的な運用が可能となる会計制度を活用し、効率的な予算執行、在庫管理の徹底により経費の節減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿南病院では、一次洗浄室を設置し、一括洗浄することにより、業務の効率化を図るとともに、感染のリスクを軽減する。 阿南病院では、新本館棟使用開始に合わせて「信州省エネパトロール隊」による省エネ診断を受診する。 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ及び患者への感染のリスクの解消と各セクションの業務の軽減を図るため、中央材料室に一次洗浄室を新たに設置することとし、改修工事及び超音波洗浄装置の購入を行い、運用を開始した。 ・新本館棟使用開始に合わせて「信州省エネパトロール隊」による省エネ診断を受診し、有効な省エネルギー対策を検討する。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ診断の結果報告会を受け、対策を検討し実施する。新本館棟の空調等機械設備を理解すること、また、職員の意識改革が必要となる。 |
| 480 | <p>医薬品・診療材料等の調達に関して、契約方法の見直しなどにより経費削減を図るとともに、診療報酬に係る施設基準を十分に検討して増収策を講じるなど、多面的な経営改善努力を行う。</p> | <p>予算科目や事業年度間で弾力的な運用が可能となる会計制度を活用し、効率的な予算執行、在庫管理の徹底により経費の節減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各県立病院の施設設備については、長期的な修繕改良計画を定期的に見直し、計画的な予算編成と施設設備の長期利用を図る。 | A | <p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○須坂病院 <ul style="list-style-type: none"> 設備の修繕については、優先度を考慮した計画を立て予算を編成している。 ○こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> 23年度に全面改築を完了したことから、大規模な施設修繕はなかった。 ○阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> 本館棟の改築工事に併せた修繕・改良計画を立案し、計画的な予算執行に努めた。 ○木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> 長期的な修繕計画を参考に、計画的な予算編成に取り組んでいる。 ○こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽度評価に基づき、設備等の重要性も考慮した上で、年次計画に沿った部品等交換整備を行った。 ・予防保全を重点的に実施した結果、故障率が低下するなど設備の信頼性が高まった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> 施設を長期的に安全かつ快適に利用できるよう、適切な維持管理に努める。 |

| 481 | ○医療材料費／医業収益比率 (単位：%) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度 実 績</th> <th>25年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>須坂病院</td> <td>23.1</td> <td>24.0</td> </tr> <tr> <td>こころの医療 センター駒ヶ根</td> <td>18.1</td> <td>17.9</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>31.9</td> <td>30.7</td> </tr> <tr> <td>木曽病院</td> <td>25.3</td> <td>24.1</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>25.9</td> <td>25.8</td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 23年度 実 績 | 25年度 目標値 | 須坂病院 | 23.1 | 24.0 | こころの医療 センター駒ヶ根 | 18.1 | 17.9 | 阿南病院 | 31.9 | 30.7 | 木曽病院 | 25.3 | 24.1 | こども病院 | 25.9 | 25.8 | A | (業務の実績) ○医療材料費／医業収益比率 (単位：%) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>24年度実績</th> <th>25年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>須坂病院</td> <td>23.4</td> <td>23.9</td> </tr> <tr> <td>こころの医療 センター駒ヶ根</td> <td>18.6</td> <td>18.9</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>31.9</td> <td>24.8</td> </tr> <tr> <td>木曽病院</td> <td>24.3</td> <td>25.3</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>24.8</td> <td>24.1</td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 24年度実績 | 25年度実績 | 須坂病院 | 23.4 | 23.9 | こころの医療 センター駒ヶ根 | 18.6 | 18.9 | 阿南病院 | 31.9 | 24.8 | 木曽病院 | 24.3 | 25.3 | こども病院 | 24.8 | 24.1 |
|-------------------|-----------------------------|---|-------------|-------------|-------------|------|------|------|-------------------|------|------|------|------|------|-------|------|------|-------|-----------------------------|--|-----|------------------------------------|---|------|--------|--------|------|------|------|-------------------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|-------|------|------|
| | 区 分 | 23年度 実 績 | 25年度 目標値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 須坂病院 | 23.1 | 24.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こころの医療 センター駒ヶ根 | 18.1 | 17.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 阿南病院 | 31.9 | 30.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木曽病院 | 25.3 | 24.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こども病院 | 25.9 | 25.8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 24年度実績 | 25年度実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 須坂病院 | 23.4 | 23.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こころの医療 センター駒ヶ根 | 18.6 | 18.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 阿南病院 | 31.9 | 24.8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木曽病院 | 24.3 | 25.3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こども病院 | 24.8 | 24.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 482 | ○ジェネリック医薬品採用率（院内） (単位：%) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度 実 績</th> <th>25年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>須坂病院</td> <td>13.2</td> <td>14.0</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>10.1</td> <td>13.0</td> </tr> <tr> <td>木曽病院</td> <td>10.3</td> <td>12.0</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>6.5</td> <td>9.0</td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 23年度 実 績 | 25年度 目標値 | 須坂病院 | 13.2 | 14.0 | 阿南病院 | 10.1 | 13.0 | 木曽病院 | 10.3 | 12.0 | こども病院 | 6.5 | 9.0 | A | ○ジェネリック医薬品採用率（院内） (単位：%) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>24年度実績</th> <th>25年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>須坂病院</td> <td>15.0</td> <td>19.5</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>12.0</td> <td>13.1</td> </tr> <tr> <td>木曽病院</td> <td>11.1</td> <td>16.87</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>6.7</td> <td>10.2</td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 24年度実績 | 25年度実績 | 須坂病院 | 15.0 | 19.5 | 阿南病院 | 12.0 | 13.1 | 木曽病院 | 11.1 | 16.87 | こども病院 | 6.7 | 10.2 | | | | | | |
| 区 分 | 23年度 実 績 | 25年度 目標値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 須坂病院 | 13.2 | 14.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 阿南病院 | 10.1 | 13.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木曽病院 | 10.3 | 12.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こども病院 | 6.5 | 9.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 24年度実績 | 25年度実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 須坂病院 | 15.0 | 19.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 阿南病院 | 12.0 | 13.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木曽病院 | 11.1 | 16.87 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こども病院 | 6.7 | 10.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

- ・ 医療機器の選定に際しては、医師・医療技術者の代表等から構成される医療器械等審査部会で、仕様やスペックの妥当性や機種統一等の観点から検討を引き続き行う。(5病院・機構本部 210～215再掲)
- ・ 前年度導入した医療機器等について、導入後、想定どおりの費用対効果が得られているか医療器械等審査部会で引き続き検証することとし、活用状況が見込みを下回った医療機器等があれば、各県立病院で利用率向上策の検討を行う。(5病院・機構本部 210～215再掲)
- ・ こども病院では、エコーセンターを適切に運営し、超音波検査機器の効率的な運用や計画的な更新を行う。(こども 216再掲)

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

3 業務運営の改善

(3) 病床利用率の向上

| | |
|------|----------------------------|
| 中期目標 | 効率的な病床管理を行い、病床利用率の向上を図ること。 |
|------|----------------------------|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|---------|--------|---------|----|------|------|-----|------|------|----|------|------|----|------|------|-----|------|------|--|-----|--------|---------|------|------|------|---------------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|---|--|-----|--------|--------|------|------|------|---------------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|
| | | | 評価 | 説明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 483 | <p>病床利用率の向上に向けて、県立病院ごとに毎事業年度の目標値を設定したうえで、効率的・弾力的な病床管理を徹底する。</p> <p>○病床利用率の目標（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>20年度実績</th> <th>26年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>須坂</td> <td>72.5</td> <td>80以上</td> </tr> <tr> <td>駒ヶ根</td> <td>55.4</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>阿南</td> <td>65.0</td> <td>75以上</td> </tr> <tr> <td>木曾</td> <td>80.1</td> <td>77以上</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>87.0</td> <td>87以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 須坂病院は結核病床を除いている。</p> <p>(注2) こころの医療センター駒ヶ根及び阿南病院の26年度目標値は、建替えに伴う病床数の減少を見込んでいる。</p> <p>(注3) こども病院は運用病床数の利用率である。</p> | 病院名 | 20年度実績 | 26年度目標値 | 須坂 | 72.5 | 80以上 | 駒ヶ根 | 55.4 | 85以上 | 阿南 | 65.0 | 75以上 | 木曾 | 80.1 | 77以上 | こども | 87.0 | 87以上 | <p>効率的・弾力的な病床管理を徹底する。</p> <p>○病床利用率の目標（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度実績</th> <th>25年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>須坂病院</td> <td>98.5</td> <td>95以上</td> </tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td>74.6</td> <td>81以上</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>54.2</td> <td>60以上</td> </tr> <tr> <td>木曾病院</td> <td>92.4</td> <td>89以上</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>83.3</td> <td>84以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 須坂病院は運用病床（平成25年9月まで222床、10月から256床）での利用率である（結核病床を除く）。</p> <p>(注2) 阿南病院は平成25年4月から5月までは93床、6月からは85床を一般病棟病床数として利用率を計算してある。</p> <p>(注3) 木曾病院は、運用病床（平成23年度は181床、平成25年度は186床）での利用率である。</p> <p>(注4) こども病院は平成25年10月から運用病床（180床）での利用率である。</p> | 区 分 | 23年度実績 | 25年度目標値 | 須坂病院 | 98.5 | 95以上 | こころの医療センター駒ヶ根 | 74.6 | 81以上 | 阿南病院 | 54.2 | 60以上 | 木曾病院 | 92.4 | 89以上 | こども病院 | 83.3 | 84以上 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>○病床利用率の目標（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>24年度実績</th> <th>25年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>須坂病院</td> <td>86.9</td> <td>83.1</td> </tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td>71.2</td> <td>70.4</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>48.0</td> <td>58.3</td> </tr> <tr> <td>木曾病院</td> <td>89.2</td> <td>86.3</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>78.9</td> <td>78.8</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 須 坂：運用病床（H24.10まで218床 H24.11から222床 H25.4から226床 H25.8から242床 H25.12から252床 H26.4から256床）での利用率である。 ※結核病床（24床）及び感染症病床（4床）は除く。 ・ 駒ヶ根：25年11月から入院患者が減少し、3月まで患者数が戻らず病床利用率が低下した。 ・ 阿 南：22年3月から精神病床（46床）を休床し、一般病床93床。25年6月から新本館棟移転に伴い一般病床85床となる。 ・ 木 曾：運用病床数に基づき算出（24年度181床、25年度186床）した。 ・ こども：運用病床数に基づき算出（24年9月まで163床、24年10月から170床）、24年10月1日から第4病棟4床、NICU3床を増床。25年10月1日から第2病棟10床を増床した。 | 区 分 | 24年度実績 | 25年度実績 | 須坂病院 | 86.9 | 83.1 | こころの医療センター駒ヶ根 | 71.2 | 70.4 | 阿南病院 | 48.0 | 58.3 | 木曾病院 | 89.2 | 86.3 | こども病院 | 78.9 | 78.8 |
| | | 病院名 | 20年度実績 | 26年度目標値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 須坂 | 72.5 | 80以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 駒ヶ根 | 55.4 | 85以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 阿南 | 65.0 | 75以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木曾 | 80.1 | 77以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こども | 87.0 | 87以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 23年度実績 | 25年度目標値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 須坂病院 | 98.5 | 95以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こころの医療センター駒ヶ根 | 74.6 | 81以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 阿南病院 | 54.2 | 60以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木曾病院 | 92.4 | 89以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こども病院 | 83.3 | 84以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 24年度実績 | 25年度実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 須坂病院 | 86.9 | 83.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こころの医療センター駒ヶ根 | 71.2 | 70.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 阿南病院 | 48.0 | 58.3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木曾病院 | 89.2 | 86.3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| こども病院 | 78.9 | 78.8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

3 業務運営の改善

(4) 業務改善の評価

| | |
|------|---|
| 中期目標 | 各県立病院の業務改善の成果が適正に評価され、病院機構の定める基準に従い当該県立病院に還元されるシステムを構築すること。 |
|------|---|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|---|--|------|--|
| | | | 評価 | 説明 |
| 484 | 県立病院の業務改善に向けた意欲的な取り組みを促すため、改善成果の一部を各県立病院に還元して医療水準の向上等に活用できるシステムを導入する。 | 病院運営上、顕著な効果が見られた増収・経費節減策を評価し、業務改善による成果の一部を当該県立病院に還元して、医療水準の向上等に向けた取組みに活用できるシステムを検討し、その導入を図る。 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>○機構本部 25年度予算から、院長裁量経費のより柔軟な活用を図るために、当該経費の相当額を運営費負担金収益として配賦する仕組みとしたことから、その活用について随時周知している。</p> <p>(課題)</p> <p>○機構本部 各病院が主体的な予算編成及び適切かつ柔軟な予算執行ができるように引き続き支援を行う。</p> |

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

3 業務運営の改善

(5) 効果的な内部監査の実施

| | |
|------|------|
| 中期目標 | (なし) |
|------|------|

| 番号 | 中期計画 | 年度計画 | 自己評価 | |
|-----|------|---|------|--|
| | | | 評価 | 説明 |
| 485 | (なし) | 機構本部内に効果的な内部監査を実施するためのチームを立ち上げるとともに、監事及び会計監査人とも連携し、監査を実施する。 | A | <p>(業務の実績)</p> <p>○機構本部 本部職員3名で構成する内部監査チームを立ち上げ、監事等と連携を図りながら、「防災（火災・実施）体制」を監査対象として、監査を実施した。</p> <p>(課題)</p> <p>○機構本部 監査結果を次年度以降にフォローする体制の整備。</p> |

第3 短期借入金の限度額

| 中期計画 | 年度計画 | 実績 |
|--|--|----|
| 1 限度額 20億円 2 想定される短期借入金の発生理由 賞与の支給等、資金繰り資金への対応 | 1 限度額 20億円 2 想定される短期借入金の発生理由 賞与の支給等、資金繰り資金への対応 | なし |

第4 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

| 中期計画 | 年度計画 | 実績 |
|------|------|----|
| なし | なし | なし |

第5 剰余金の使途

| 中期計画 | 年度計画 | 実績 |
|---|---|----|
| 決算において剰余金が発生した場合は、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる。 | 決算において剰余金が発生した場合は、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる。 | なし |

第6 その他県の規則で定める業務運営に関する重要事項 施設及び設備の整備に関する計画

| 中期計画 | | | 年度計画 | | | 実績 | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------|-----------|--|-----|----|---|----------------|-----------|--|--|--|----------|-----|----|-------------|-----------------|-----------|
| (1) 施設及び設備の整備に関する計画 (平成22年度～26年度) | | | 1 施設及び設備の整備に関する計画 (平成25年度) | | | (業務の実績) 施設及び設備の整備の実績(平成25年度) | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設・設備の内容</th> <th>予算額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設及び医療機器等整備</td> <td>総額 11,229百万円</td> <td>長野県長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table> | | | 施設・設備の内容 | 予算額 | 財源 | 施設及び医療機器等整備 | 総額 11,229百万円 | 長野県長期借入金等 |
| 施設・設備の内容 | 予算額 | 財源 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施設及び医療機器等整備 | 総額 11,229百万円 | 長野県長期借入金等 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設・設備の内容</th> <th>予算額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設及び医療機器等整備</td> <td>総額 2,238百万円</td> <td>長野県長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table> | | | 施設・設備の内容 | 予算額 | 財源 | 施設及び医療機器等整備 | 総額 2,238百万円 | 長野県長期借入金等 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設・設備の内容</th> <th>決算額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設及び医療機器等整備</td> <td>2,091百万円</td> <td>長野県長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table> | | | 施設・設備の内容 | 決算額 | 財源 | 施設及び医療機器等整備 | 2,091百万円 | 長野県長期借入金等 |
| 施設・設備の内容 | 予算額 | 財源 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施設及び医療機器等整備 | 総額 2,238百万円 | 長野県長期借入金等 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施設・設備の内容 | 決算額 | 財源 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施設及び医療機器等整備 | 2,091百万円 | 長野県長期借入金等 | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2) 阿南病院耐震化事業の推進 阿南病院本館の耐震化に伴う建替事業は、平成25年度中の供用開始を目指す。 | | | 2 阿南病院耐震化事業の推進 阿南病院の耐震化に伴う建替事業は、平成25年6月の新本館棟の供用開始に向けて建設工事を進め、年度内に外構を含めた全事業を完了させる。 | | | (業務の実績) 耐震化のため23年3月から改築工事が進められてきた阿南病院新本館棟は、25年3月までに本体躯体工事、仕上・設備工事など全ての工事が完成し、大地震に備える免震装置や屋上にヘリポートを備えた、近代的な病院として生まれ変わった。 25年4月に建物の引き渡しを受け、5月27日から診療を開始した。 その後、旧本館棟の解体、増築棟の改修、駐車場等の外構を整備し、26年3月末に全事業の完了となった。 | | | | | | | | | | | |